

I 21年度自己点検評価報告書 総括表

I 国民に対して提供するサービスその他業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

(1) 収蔵品の収集

【中期目標】国の文化財保護政策との整合性、一体性を保ちつつ機構の設置する博物館各館の役割・任務に沿って収集方針を定め、これに基づき、計画的かつ適時適切な購入と寄贈・寄託の受入れを進め、体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の充実を図ること。

<p>【中期計画】</p> <p>(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な収集を行う。また、そのための情報収集を行う。</p> <p>(東京国立博物館) 日本を中心にして広く東洋諸地域にわたる美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。</p> <p>(京都国立博物館) 京都文化を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。</p> <p>(奈良国立博物館) 仏教美術を中心とした美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。</p> <p>(九州国立博物館) 日本とアジア諸国との文化交流を中心とした、美術、考古資料及び歴史資料等を収集する。</p> <p>(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスに留意し、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。また、既存の寄託品については、継続して寄託することを働きかける。</p>	<p>【主な計画上の評価指標】</p> <p>○購入、寄贈、寄託の受入により、体系的、通史的にバランスのとれたコレクションを形成すること。</p> <p>【20年度評価における主な指摘事項】</p> <p>○購入品については、各館の目的・役割を踏まえつつ全体の最適化を目指すべき。その際、通史・体系的にみてバランスよく作品を購入していることが説明できると、外部から見て収集の意義が理解しやすい。</p> <p>○昨今の不安定な経済情勢に鑑み、寄託の幅を更に広げ、また、保管・管理にも一層の安全を望む。</p>
--	--

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
1111	<p>(1)-1 適時適切な収集</p> <p>各館の収集方針に沿って、鑑査会議等で収集案を作成し、外部有識者からなる買取協議会の意見を踏まえて収集する。また、文化財の散逸や海外流出を防ぐため、内外の研究者、学芸員、古美術商等との連携を図り、迅速かつ的確な情報収集にも努め、それらを収集活動に効果的に反映していくよう取り計らう。</p> <p>(東京国立博物館) 日本を中心として広く東洋諸地域の文化の体系的陳列を目指し、絵画、書跡、彫刻、工芸、考古、歴史資料の中から重点的に購入する。</p>	<p>(1)-1 適時適切な収集</p> <p>【東京国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民共有の貴重な財産として永く後世へ伝えられるべき、優れた作品8件（内、重要美術品2件）を購入した。 <p>内訳：絵画3件、彫刻1件、金工1件、刀剣2件、漆工1件 決算額 229,150,000円</p>	A	順調
1112	<p>(京都国立博物館) 京都文化を中心とした絵画、彫刻、書跡、陶磁器、染織品、漆工芸品、金工品、考古資料、歴史資料の中から重点的に購入する。</p>	<p>【京都国立博物館】</p> <p>博物館展示の活性化と高次の調査研究の対象となり、国民が文化の豊かさを実感することができる貴重な作品7件を購入した。</p> <p>購入に際しては中期目標にもある通り「京都文化」を意識しているが、今年度は京狩野の絵画資料、京都画壇を代表する長澤蘆雪の絵画作品、近世初期の京都と海外との交流を示す南蛮漆器の作品、京焼の陶工尾形周平の作品などに反映されている。</p> <p>内訳：絵画3件、漆工1件、陶磁1件、考古資料2件 決算額 40,475,000円</p>	A	順調

1113	<p>(奈良国立博物館) 仏画、仏像、経典・仏教関係書跡等、仏教工芸、仏教考古資料の中から重点的に購入する。</p>	<p>【奈良国立博物館】 購入が4件、寄贈が3件、都合7件の文化財が新たな収蔵品として加わった。うち購入分についての内訳は次のとおりである。 書跡：華嚴経（二月堂焼経）巻第二十四 1巻 奈良時代（8世紀） 手鑑 1帖 奈良～江戸時代（8～17世紀） 漆工：玉虫厨子 模造 1基 大正10年（1921） 金銀平脱皮箱 模造 1合 近代（20世紀） 購入の代金額は計71,400,000円である。</p>	A	順調
1114	<p>(九州国立博物館) 日本とアジア諸国との文化交流を中心とした美術、考古及び歴史・民族資料等の中から重点的に購入する。</p>	<p>【九州国立博物館】 ・日本とアジア諸国との文化交流を中心とした文化財を収集する当館の設置目的に則し、かつ国民共有の貴重な財産として永く後世へ伝えられるべき優れた作品27件を購入した。（内、国宝0件・重要文化財1件） 内訳：絵画8件 書跡3件 彫刻1件 陶磁6件 漆工4件 考古1件 歴史資料4件 決算額： 1,418,192,500円</p>	A	順調
1121	<p>(1)-2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用 (4館共通) 寄贈品及び寄託品の受け入れについては、文化庁とも連携を図り、登録美術品制度の活用や、相続税の猶予措置の創設を手始めとする税制面での環境整備を進めるなど、積極的に働きかけるとともに、平常展に必要な文化財の寄贈を受け入れる。あわせて、継続的寄託及び新規寄託に努力し、平常展に必要な文化財11,060件（東京：2,400、京都：5,800、奈良：2,060、九州：800）の寄託品を目標とする。</p>	<p>(1)-2 寄贈・寄託品の受け入れ及びその積極的活用 【東京国立博物館】 ・作品の寄贈は43件に上った。板屋家傳來資料は一括で1件として受け入れたが、江戸幕府御用絵師であった板谷家に伝来した下絵、古文書などで、受け入れ時に作成した仮リストで10,613件に達する。また5件は黒田清輝筆の絵画作品で、黒田記念館での保管と展示を行う予定である。 ・新規寄託は3件（内、重文1件）であった。 ・寄託終了は19件である。内、当館が購入したものが2件、当館へ寄贈となったものが3件（内、重美1件）、所有者に返却したものが14件（内、国宝3件）である。返却した14件のうち、1件は国（文化庁）、1件は九州国立博物館がそれぞれ購入している。 ・その結果、寄託品件数は昨年度より16件減少した。 ・登録美術品については、増減がなかった。</p>	A	順調
1122		<p>【京都国立博物館】 (寄贈) ・今年度、寄贈は102件で、寄贈者は6人であった。 内訳 絵画62件 書跡8件 彫刻12件 陶磁16件 漆工1件 染織2件 考古1件 (寄託) ・今年度の新規寄託は180件。建替工事中のため平常展示での活用はできないが、例年通りの数があり、研究資料として、また特別展</p>	A	順調

1123		<p>覧会での活用が見込まれる。 内訳 絵画105件 書跡11件 金工 13件 陶磁34件 漆工 5件 染織1件 考古 8件 歴史 3件</p> <p>・寄託品数統計が複数あり、実数とあわせる整理を行ったために総数が減じているが、実際には昨年度より 50 件増加している。 整理前 6,145 → 整理後 5,907 (20 年度) 21 年度新規寄託 180－返却 130＝純増 50 5,907+50=5,957</p> <p>【奈良国立博物館】 寄贈については、2 人の所蔵者から計 3 件の文化財を受け入れた。 寄託については、新規に 9 件（うち国宝 1 件）の文化財を受け入れた。</p>	A	順調		
1124		<p>[寄贈] 絵画：絹本着色武蔵野図 横山大観筆 1 幅 明治 28 年 (1895) 紙本墨画淡彩瑞光図 横山大観筆 1 幅 大正時代 (1912～26) 工芸：紅牙撥鏤尺 1 枚 平成 20 年 (2008)</p> <p>[寄託] 絵画2件 彫刻3件 工芸1件 書跡3件</p> <p>・なお、寄託総数は昨年度と比較して減少したが、これは期限付きで寄託を受けていた一括資料を返還したためであり、寄託者の数は逆に増加している。(20 年度 217 名→21 年度 221 名)</p> <p>【九州国立博物館】 寄贈 該当無し 新規寄託 197 件 (内訳 絵画 2 件、彫刻 20 件、金工 79 件、陶磁 1 件、漆工 5 件、染織 83 件、考古 7 件)</p> <p>7分野にわたる寄託を受けた。このうち、絵画分野の病草紙断簡2件は、「地獄草紙」(国宝、東京国立博物館蔵)や「餓鬼草紙」(国宝、京都国立博物館蔵ほか)に極めて近い表現を見出すことができる12世紀の貴重な優品である。また、茶道具名物集として極めて重要な『大正名器鑑』に掲載されている瀬戸茶入れの寄託を受けた。また江戸時代後期から上方と広く商売を続けてきた宮崎県所在の商家に伝わった文化財(能面・能衣装・貨幣類など)185件の寄託を受けた。変化に富んだ寄託品を受け入れることができたため、当館の文化交流展示のなかで多様な活用が期待される内容となった。</p>	A	順調		
		定量評価	21 年度	20 年度	目標値	評定
		寄託品件数(件)				
		東京国立博物館	2,734	2,750	2,400	A
		京都国立博物館	5,957	5,907	5,800	A
		奈良国立博物館	1,957	2,067	2,060	B
		九州国立博物館	1,256	1,105	800	S

(2) 適切な管理保存

【中期目標】 収蔵品全体を常時、適切な保存及び管理環境下に置くこと。特に、施設の老朽化、耐震対策に計画的かつ速やかに取り組み、貴重な文化財を次代へ継承すること。

<p>【中期計画】</p> <p>(2) 国民共有の貴重な財産である文化財を永く次世代へ伝えるとともに、展示等の博物館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、展示場、収蔵庫の老朽化に対応するとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。</p>	<p>【主な計画上の評価指標】</p> <p>○展示場、収蔵庫の老朽化対策や耐震対策を計画的に勝速やかに実施すること。</p> <p>○保存環境の調査研究等を実施すること。</p> <p>【20年度評価における主な指摘事項】</p> <p>○RFIDの長期信頼性には依然課題があることから、「札・ラベル」による表記も残しておいて欲しい。</p> <p>○良い取組みは他館にも積極的に普及させるべき。特に、奈良博は保存科学の専門官がいない中、研究員全員にIPM活動をルーチン化させ、かつ、ビジュアル化したリアルタイム監視を実施している。今後は、上記システムの成果・課題等を学会・研修等で報告するなどナショナルセンターとしてその普及に努力して欲しい。</p>
---	---

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
1211-1	<p>(2)-1 収蔵品の管理・保存</p> <p>収蔵品の適正な管理に努めるとともに、耐震対策を計画的かつ速やかに実施し、保存・活用のための環境整備を図る。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 東洋館の耐震補強を図るため、改修工事を実施する。 2) 本館収蔵庫の整備計画を作成しつつ、既存収蔵庫のセキュリティ強化、環境改善の工事を実施する。 3) 列品存在確認作業(棚卸)を継続して計画的に実施する。 4) 歴史資料・和書・古写真・ガラス乾板等の旧資料部関係品を整理し、列品として編入するための作業を進める。 5) 収蔵品の保存と展示に関する環境について全館的視野にたつて調査研究を進め、環境データの解析・蓄積を行う。 6) 収蔵品の生物被害を防止するため、統合的有害生物防除管理手法の徹底を図る。 7) 展示場及び収蔵庫における地震対策の再検討と改善を図る。 	<p>(2) 適切な管理・保存</p> <p>【東京国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度から23年度にかけて、東洋館で耐震補強工事が実施されるのに伴い、6月から8月にかけて、東洋館内の収蔵庫に保管されていた文化財約17,000件の大部分を、表慶館、本館、資料館内に移動した。 ・平成20年度から、列品の所在と現状を悉皆的に調査する列品情報整備事業を実施している。今年度は2年目にあたり、絵画・歴史資料・東洋漆工分野で作業を進めた。 ・収蔵品を移動したのち新しい所在位置情報を、RFID・バーコード等を利用して電子的に記録して管理の万全を図るシステム(文化財移動情報登録システム)の開発も、昨年度から継続して進めている。 	A	順調
1212-1	<p>(京都国立博物館)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 平常展示館建替え工事を実施する。 2) 平常展示館建替事業の一環として建設された東収蔵庫を活用し、収蔵品の保存環境の充実を図る。 3) 特別展示館(重要文化財 旧帝国京都博物館本館)の耐震調査の結果を基に、 	<p>【京都国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常展示館の建て替えに伴い、同館内収蔵庫から館蔵品、寄託品のすべてを東収蔵庫等に移動した。 ・展示室及び収蔵庫における適正な温湿度管理を行った。 ・特別展示館耐震診断業務の結果を受け、具体的な耐震補強工法等 	A	順調

1213	<p>地震対策を具体的に検討する。</p> <p>(奈良国立博物館)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 文化財保存修理所を円滑に運営し、文化財の積極的保存を図る。 2) 収蔵庫及び展示場の適正な温湿度管理の徹底を図る。 3) 西新館及び仏教美術資料研究センターの耐震工事等を実施する。 	<p>の検討に着手した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・半年ごとに実施している寄託品の期間継続にともなう点検を着実に実施した。 <p>【奈良国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・IPM(総合的有害生物管理)の前提として、館内の文化財害虫生息状況を把握するため、文化財の保管および展示にかかわる箇所を中心に、防虫トラップを一月に1回設置・回収し、調査結果の蓄積・分析を行った。 ・文化財害虫の生息が確認された展示室・展示ケースを中心に防虫シートを設置し、併せて展示施設の周囲に害虫忌避剤を散布した。 ・IPMの実践として、収蔵庫周辺や展示室内、調査室内の衛生環境保持のため、掃除と防塵マット交換を定期的実施した。 ・展示室および展示ケース内の温湿度の管理を図るため、無線LANによるリアルタイムの温湿度管理システムの構築を図り、春の「国宝鑑真和上展」、夏の「聖地寧波展」、秋の「正倉院展」で本格的に運用した。これによって、かかる温湿度管理については、正倉院展のような多数の観覧者がもたらす展示室内の温湿度環境の変化に、科学的データを以て即時に対応することが可能となった。 ・保存カルテについては、これまで部門ごとに担当者が作成・保管してきたが、今年度から新たに文化財の個別写真が添付されたフォームに統一し、保存修理指導室で作成・保管する新システムに移行したことで、機動的かつ詳細に文化財の損傷状態を把握することが可能となった。 ・西新館耐震工事については展示施設として必要とされる耐震性能を確保するための補強工事を行うとともに、展示環境の向上を意図した内装・照明設備等の更新を行った。また、監視面の強化を図るための監視モニターの更新を行った。仏教美術資料研究センターについては、重要文化財に指定された建造物であるため、過剰でなく必要最低限の耐震性を確保するとともに、原状に復しつつも現在の使用意図に照らした新たな平面計画の下、内装改修を行った。 	A	順調
1214	<p>(九州国立博物館)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) IPM(総合的有害生物管理)による文化財の生物被害防止を引き続き図る。 2) 全館的視野にたった陳列品の展示・保存環境に係る調査研究を進め、環境データの蓄積・解析を行う。 3) 博物館科学・保存修復諸室を計画的に運用し、文化財の積極的保存を図る。 	<p>【九州国立博物館】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 収蔵庫・展示室等 300 ヶ所に粘着トラップを設置し定期的モニタリングを実施し害虫侵入箇所と館内の害虫の生息状況を早期発見対処した。文化財搬入に際し、IPMメンテナンスに基づく収蔵準備作業を実施すると共に、必要に応じて殺虫殺菌処理を実施した。 ② 常設展示室 70 箇所、特別展示室 30 箇所に温湿度計を設置して、環境データを解析した。 ③ 収蔵庫 26 箇所に温湿度計を設置して環境データを解析した。ま 	A	順調

		<p>た、空気質やダストを調査して収蔵環境の改善を行った。</p> <p>④ 展示品を中心に X 線 CT スキャナや三次元計測装置、三次元プリンタを用いて保存状況と構造調査を実施した。測定結果は予防的保存に役立てると共に展示に反映した。</p> <p>⑤ 修理資料および収蔵資料を中心に保存カルテを作成すると共に、計画的な保存修理事業をすすめた。</p> <p>⑥ IPM の実施については、地元 NPO 法人やボランティア活動との連携に努め、文化財の適切な管理・保存について市民や地域の理解を深めた。</p>		
1211-2	<p>(2)-2 保存環境の調査研究の実施 保存カルテの作成及び空調稼働時と休止時の変化が文化財の保管状況に与える影響の調査研究を進める。 (4 館共通) 収蔵品を中心とした保存カルテを年 1,200 件(東京:800、京都:100、奈良:100、九州 200)程度作成する。 (東京国立博物館)</p> <p>1) 収蔵庫、展示室の温湿度、汚染気体など保存環境に関する年次報告を整備する。</p> <p>2) 輸送中の文化財に生じる振動及び衝撃に関する計測と調査を実施する。</p>	<p>(2)-2 保存環境の調査研究の実施</p> <p>【東京国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵庫及び展示室など 341 地点の温湿度を計測し、環境の評価及び処置を実施した。空気環境に関しては、収蔵庫及び外気など 34 地点におけるアルデヒド類及び有機酸類などを計測した。環境評価に基づき、除加湿器の設置、フィルターの交換などの措置を講じた。 ・収蔵庫など 447 地点における生物生息状況を冬季と夏季の 2 回にわたり調査した。また、ゴキブリなどの生活害虫を防除するため、夏季に防虫薬剤を全館に設置した。 ・東洋館耐震工事に合わせた展示室リニューアルに向けて、展示ケースに使用する免震装置の検討を実施した。 ・本格修理のための列品調査、対症修理の実施、列品貸与の点検として合計 1,989 件の保存カルテを作成した。 ・収蔵庫、展示室など 207 箇所の温湿度に関し、その状態から 3 段階に環境を分類(クラス I、II、要注意)した平成 20 年次報告書を作成した。 ・列品の貸与・返却及び借用の際に、輸送中の梱包ケース内とトラックなどの輸送機材に発生する振動・衝撃に関し、国内外合わせて 9 件(興福寺展における阿修羅立像など)の輸送を調査した。 <p>【京都国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展覧会準備中に適宜巡回して害虫の持込み侵入の防止と清掃の徹底を指導、取りこぼしを拾い、開会時の虫・ゴミゼロを実現した。 ・開館前に展示ケース内・露出展示台上を点検し、虫の採取、取れない場合は生態観察、毛髪等ゴミの除去を行なった。 	A	順調
1212-2	<p>(京都国立博物館)</p> <p>1) 特別展示館の環境および当該地域の気象を勘案し、文化財への負荷を減らすことを目的とした空調のミニマムインターベンション(最小限の干渉)運用の向上を図る。</p> <p>2) 殺虫剤・防虫剤使用の計画的段階的な廃止を進めつつ、有害生物の監視・初</p>		A	順調

期対応・要因除去にあたり、全館的な I P M (総合的有害生物管理) システムの再構築を図る。

(奈良国立博物館)

- 1) 展示室および展示ケースの温湿度管理について、無線ランによるデータ管理システムを構築する。
- 2) I P M (総合的有害生物管理) による文化財の生物被害防止のための調査を実施する。

(九州国立博物館)

館内の温湿度・空気質など保存環境に関するデータを蓄積する。

- ・8月、シルクロード展の一部ケース内の展示台手前部分で微少な虫とシミが見られたが、採取、清掃を行なうとともに調査した結果、微少虫はチャタテムシで、当時異常な高温多湿の天候のため京都一帯でカビの胞子が飛散しており、それを餌として徘徊し、シミはチャタテムシを餌としていることが判った。発生の確認されたケースのみ即時、作品と観覧者に影響を及ぼさない程度の蒸散性防虫剤を入れ、駆除することができた。他のケースも以後、開館前の点検、清掃を入念に行なった。
- ・シルクロード展終了撤収後、全ケースの床面をクリーンルーム清掃業者による吸引拭取り清掃を行ない、虫、胞子等の除去を図った。
- ・次の日蓮と法華の名宝展では、展示ケース内と館内のトラップによる虫の生態調査を業者に依頼して行なった。
- ・空調については、妙心寺展、日蓮と法華の名宝展、THE ハプスブルク展において空調センサーと最も離れた温湿度を示す箇所と特別の湿度設定を要する作品近く、それと館外に設置したデータロガーの記録を集計分析して空調の各種設定を気象、入館者状況に応じて調整し、作品と観覧環境の保全を図った。
- ・館蔵品に係る保存カルテを作成した。

実績 214件

【奈良博・九博】

(2)-1 と共通

定量評価	21年度	20年度	目標値	評定
保存カルテの作成(件)				
東京国立博物館	1,989	2,693	800	S
京都国立博物館	214	174	100	S
奈良国立博物館	114	108	100	A
九州国立博物館	205	289	200	A

(3) 計画的な修理

<p>【中期目標】 収蔵品の保存技術の向上に努め、貴重な文化財を次代へ継承すること。</p>	
<p>【中期計画】 (3) 修理、保存処理を要する収蔵品等については、機構の保存科学・修復技術担当者が連携し、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を取り入れ、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。</p>	<p>【主な計画上の評価指標】 ○緊急性の高いものから計画的に修理を実施すること ○外部の専門家と連携すること ○科学的な保存技術を取り入れること</p> <p>【20年度評価における主な指摘事項】 ○東博は、長期的な修理計画を基に毎年度修理を実施していると聞いており、各館においても、長期展望下での本格修理と緊急修理、展覧会出品に伴う修理などのバランスを踏まえ、計画的に進めていって欲しい。 ○科学的な調査は一般の者の興味をそそるので、広報について積極的な対応を期待する。</p>

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
1311	<p>(3)-1 収蔵品の修理 修理、保存処理を要する収蔵品等については、外部の専門家等との連携の下、緊急性の高い収蔵品から順次、計画的に修理する。</p> <p>(3)-2 科学的な技術を取り入れた修理 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れた修理を実施する。 (4館共通) (3)-1 作品の応急修理に積極的に取り組み、劣化の予防に努め、緊急性の高いものから99件(東京：70、京都：10、奈良：4、九州15)程度の本格修理を実施する。 (3)-2 1) 紙本作品について、繊維同定を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 2) 修理前あるいは修理中に、蛍光X線分析、X線透過撮影などの光学的調査を行い、作品の材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。 (東京国立博物館) 1) 引き続き国宝・重要文化財の中長期修理計画を策定する。 2) 保存修復関係資料(前年度修理実施分)のデータベース化を図る。(70件程度)</p>	<p>(3) 計画的な修理</p> <p>【東京国立博物館】 1) 修理計画立案に向けて、修理候補作品の選定のために新たに指定・未指定合わせて210件の作品の調査を実施した。これまで調査を終えたものと合わせ約2,000件の作品が今後の修理計画に反映される。調査には必要に応じX線透過撮影、光学実体顕微鏡なども使用した。指定品については、国宝絵画1件及び重文石彫1件について具体的な修理計画の策定を開始し、修理方針案の作成を行った。</p>	A	順調

1312	<p>(京都国立博物館)</p> <p>文化財保存修理所修復資料のデータベース化を図る。(250件程度)</p>	<p>2) 作品の応急(対症)修理を925件実施。本格修理を106件実施した。</p> <p>3) データベース構築のために20年度に本格修理を実施した76件の内、修理が完了した53件の修理内容についてデジタル化を実施した。20年度に実施した本格修理に関して、東京国立博物館文化財修理報告書Xを刊行した。デジタル化推進経費によって保存カルテ約6,562件の電子化が進んだ。</p> <p>4) 紙本などの修理技術者として保存修復課に3名のアソシエイト・フェローをおき、館内で実施する館蔵品の本格修理、応急修理を本格化させた。</p> <p>【京都国立博物館】</p> <p>中国絵画については、昨年度、一段落した須磨コレクションの未表装の作品や大破状態の作品の修理に引き続き、その次の段階にある作品についての修理に取り組み、また古い修理部分の痛みが目立ち展示に支障が生じた考古資料を修理した。</p> <p>修理に関しては、契約方法、業者選定の適正化のため、「修理契約委員会」(外部委員：山岡泰造氏)において、作品ごとに契約方法を決定し、企画競争とした2作品については、「請負候補者選定委員会」(外部委員：梶谷亮治氏)で業者を決定した。</p> <p>実績：絵画4件、考古資料1件</p>	B	順調
1313	<p>(奈良国立博物館)</p> <p>(3)-1</p> <p>1) 文化財保存修理所の積極的活用を図る。</p> <p>2) 修理資料のデータベース化の調査を実施する。</p> <p>(3)-2</p> <p>1) 木造作品について、可能なものは木材樹種同定の調査を行い、作品の材料の解明および修理指針の検討に役立てる。</p> <p>2) 古墳出土の甲冑片、武具等鉄製品のX線撮影及び実測図作成を順次進め、材料・技術の解明及び修理指針の検討に役立てる。</p>	<p>【奈良国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国民共有の財産として長く後世へ伝えるため、館蔵品のうちの7件の修理に着手し、あるいは完了した。計11件。 <ul style="list-style-type: none"> 内訳 絵画2件(重要文化財 2カ年継続事業 第2年度) 書跡2件(重要文化財 2カ年継続事業 第2年度) 彫刻1件 漆工1件 考古資料5件。 ・前年度に引き続き、当館紀要「鹿園雑集」12号(平成22年3月刊行)に「奈良国立博物館文化財保存修理所 修理一覧(平成20年度)」を掲載した。併せて修理報告資料を整理した。 ・平成21年度古墳出土金属製品等の修復事業として、館蔵品のうちの2件の修理に着手し、1件を完了した。 <ul style="list-style-type: none"> 内訳 未指定 金銅装眉庇付冑(五条猫塚古墳出土) 未指定 鉄斧・刀子(二塚古墳出土遺物) ※3カ年事業(21~23年度) 	A	順調
1314	<p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 博物館科学・保存修復諸室の積極的活用を図る。</p> <p>2) 修理資料のデータベース化の調査を実施する。</p>	<p>【九州国立博物館】</p> <p>①館蔵品を中心に、展示や損傷の程度を勘案して、緊急性の高い文化財24件を修理した。</p>	A	順調

- ②九州をはじめとする館外の文化財修理のため、当館の保存修復諸施設を積極的に活用した。(26件)
- ③表具用裂などの修理材料収集を行い、実際の修理に役立てるとともに、資料として保存を図った。
- ④修理指針の検討のため、各分野の担当研究員とともに修理経過をみながら検討を重ねた。
- ⑤修理指針の検討のための調査について、紙繊維の分析、絵画彩色の蛍光X線分析や顕微鏡観察による調査、X線、CTスキャンを活用した調査を実施した。
- ⑥カビなどの生物被害について、顕微鏡観察や写真撮影などを行った。

定量評価	21年度	20年度	目標値	評価
文化財の本格修理(件)				
東京国立博物館	106	76	70	S
京都国立博物館	5	17	10	C
奈良国立博物館	11	8	4	S
九州国立博物館	24	25	15	S
文化財修理のデータベース化(件)				
東京国立博物館	53	85	70	B
京都国立博物館	481	686	250	S

2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

(1) 展示の充実

<p>【中期目標】 展示については、常に点検・評価を行うなど改善への取組みを進め、歴史・伝統文化を国内外に発信し、これらについての理解促進に寄与するものとなるように努めること。</p> <p>①平常展は、歴史・伝統文化についての理解に資するよう、体系的・通史的な展示に努めるとともに、各館の収蔵品を法人全体として有効活用した魅力ある展示を行うこと。また、展示に関する外国語説明を一層充実させること。</p> <p>②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行うこと。また、展示方法、解説などについて機構の人的資源を最大限に生かした魅力あるものを提供すること。</p> <p>③個々の展覧会において、積極的な広報に努めること。また、過去の入館者等の状況等を踏まえた適切な入館者数の目標を設定し、その達成に努めること。</p>	
<p>【中期計画】</p> <p>(1) 展示の充実</p> <p>展示については、常に点検・評価を行い国民のニーズ、学術的動向等を踏まえた質の高いものを実施するとともに、展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、国際文化交流に配慮するなど魅力あるものとなるよう努力する。</p> <p>また、見やすさ分かりやすさに配慮した展示及び解説や音声ガイド等の導入を行うことにより、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化についての理解を深めるものとなるよう工夫する。</p> <p>①平常展は、展観事業の中核と位置付け、各国立博物館の特色を十分に発揮した体系的・通史的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解の促進に寄与する展示を実施する。また、特集陳列の充実を図るなど再来館者の増加が期待できる魅力ある展示にも努め、一層の入場者の確保を図る。また、展示に関する外国語説明を一層充実させることに努め、作品キャプションについては全てに外国語訳を付すとともに、展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等を80%以上設置する。</p> <p>②特別展等については、国内外の博物館と連携した我が国の中心的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。また、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、国民の知的好奇心を刺激する展示を実施する。特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。</p> <p>(東京国立博物館) 年3～4回程度</p> <p>(京都国立博物館) 年2～3回程度</p> <p>(奈良国立博物館) 年2～3回程度</p> <p>(九州国立博物館) 年2～3回程度</p> <p>③個々の展覧会において、広報に積極的に取り組む。また、展覧会の入館者数については、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。</p> <p>④黒田記念館については、東京国立博物館に所属を移し、所蔵作品を東京国立博物館でも展示するなど公開機会を拡大する。</p>	<p>【主な計画上の評価指標】</p> <p>○国民のニーズや学術的同行を踏まえた質の高いものとする こと</p> <p>○観覧者の理解が深まるよう展示・解説を工夫すること (平常展)</p> <p>○平常展を魅力あるものとし、再来館者を増加させること</p> <p>○作品のキャプションについては、すべてに外国語訳を付す こと</p> <p>○海外からの来館者向けに、展示テーマごとに外国語の解説パ ネルを80%以上設置すること (特別展)</p> <p>○我が国の博物館の中心的拠点に相応しい質の高い展示とす ること</p> <p>○各館ごとに以下の回数程度の特別展を実施すること</p> <p>東京国立博物館 3～4回 京都国立博物館 奈良国立博物館 九州国立博物館 2～3回</p> <p>○個々の展覧会ごとに目標入館者数を定め、それを達成す ること</p> <p>○黒田記念館の所蔵作品を東京国立博物館でも展示公開する など公開機会を拡大すること</p> <p>【20年度評価における主な指摘事項】</p> <p>○入場者数は、ミュージアムでは重要な評価指標であり、より 詳細な分析が望まれる。</p> <p>○平常展の展示は良いものが多く充実していることから、展示 形態や説明等を工夫し、広報に力を入れて欲しい。</p> <p>○外国語パネルの設置率は、可能な限り標準化を図って欲しい。</p>

処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
2111	<p>(1) 展示の充実 東京、京都、奈良、九州4館の特色を生かし、再度、国立博物館を訪れたくなるような魅力ある平常展や特別展を実施する。</p> <p>① 平常展 展観事業の中核と位置づけ、特集陳列等の充実を図る。また、作品キャプションについては全てに英語訳を付するとともに、時代背景等をわかりやすく伝えるために展示テーマごとの解説の充実を図り、その外国語訳に努める。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>ア 定期的な陳列替の実施(年200回程度) イ 陳列総件数 約5,500件(東洋館閉館のため) ウ 本館「日本美術の流れ」をはじめとする日本美術関係の展示、平成館の日本考古展示の更なる充実を図る。 エ 東洋館が耐震改修工事のため閉館となるため、表慶館・本館などにおいて東洋考古・美術の展示を積極的に進める。 オ 改修後の東洋館の展示案を検討する。 カ 特集陳列 21年度は6月初旬に東洋館が改修工事のため閉鎖となり、特集陳列を実施する展示場が減少するため、特集陳列の数は減少せざるをえない。東洋館展示の代替として、本館においても東洋美術・考古の特集展示を実施する。 ・戦う武士の世界(6月23日～7月20日) ・中国書画精華(9月15日～11月8日) ・「博物館に初もうで」(22年1月2日～1月31日) 等</p> <p>キ 東京文化財研究所関係企画 ・海外所在の日本美術品修復(5月26日～6月7日)</p> <p>ク 文化庁関係企画 ・「平成21年新指定 国宝・重要文化財」(仮称)(4月28日～5月10日) 平成21年(2009)に新たに国宝・重要文化財に指定される文化財を展示する。</p>	<p>(1) 展示の充実 ① 平常展</p> <p>【東京国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本館、平成館、法隆寺宝物館、東洋館、表慶館において、日本の考古、美術、工芸、民族資料、歴史資料および東洋の考古、美術、工芸に関する平常展示および特集陳列を行った。 ・本年度から来年度にかけて、東洋館の耐震補強工事が実施されることに伴い、東洋館は6月8日から休館となった。その後、8月4日からは、東洋の考古・工芸の平常展示を表慶館1階で再開し、東洋関係の特集陳列は本館で開催しており、展覧事業の充実を図っている。 	A	順調
2112	<p>(京都国立博物館)</p> <p>平常展示館建替工事に伴い、平常展は休止せざるをえないが、富山県水墨美術館にて当館収蔵品展を開催する(10月2日～11月8日)ほか、博物館美術館への収蔵品の貸与を積極的に進める。</p>	<p>【京都国立博物館】</p> <p>平常展示館建替工事にともない、平常展示は休止せざるをえなかった。そのため下記のように、外へ向かっての収蔵品の公開に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日本の美 国宝との出会い」展((1)展示の充実②特別展等 参照) 会期：10月2日～11月8日 展示総件数 35件(うち国宝9件、重要文化財13件) ・国内・国外への博物館美術館への収蔵品の貸与を積極的に進めた。 ・上記の貸出作品の情報をHPで公開している。 	A	ほぼ 順調

2113	<p>(奈良国立博物館)</p> <p>ア 定期的な陳列替の実施(年15回程度)</p> <p>イ 陳列総件数 約800件</p> <p>ウ 活発な収集と新しい資料の発掘により平常展の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西新館 考古・絵画・書跡・工芸部門の平常展示 ・本館(1～13室) 彫刻部門の平常展示 ・本館(14室・15室) 中国青銅器の平常展示 ・「注目の逸品」を適時選定する。 <p>エ 特別陳列により平常展の充実を図る。</p> <p>独創的な研究テーマ及び地域に密着した研究テーマによる特別陳列の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おん祭と春日信仰の美術」(12月5日～22年1月17日) ・「お水取り」(22年2月6日～3月14日) <p>オ 考古資料の相互貸借事業の実施</p>	<p>【奈良国立博物館】</p> <p>年度を通して、本館における平常展「仏教美術の名品」(彫刻部門)、「中国古代青銅器」(考古部門)を開催し、西新館では平常展「仏教美術の名品」(絵画・書跡・考古・工芸部門)を開催した。そのなかには、「とてもよく似た二つの仏像-金峯山寺の釈迦如来像と兵庫県所蔵の天部像-」(～5月17日、本館)、「東京大学東洋文化研究所の貴重図書」(9月15日～10月4日、西新館)、「南北朝・室町時代の彫刻」(12月1日～、本館)の3回の特集展示が含まれる。企画展示としては、毎年恒例の特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」(12月8日～1月17日、東新館)、「お水取り」(2月6日～3月14日)を実施した。</p>	A	順調
2114	<p>(九州国立博物館)</p> <p>ア 定期的な陳列替の実施(年300回程度)</p> <p>イ 陳列総件数 約800件</p> <p>ウ 平常(文化交流)展の部分的なリニューアルによって充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来館者にとって分かり易い展示室内サインを開発し、快適な鑑賞環境を提供する。 <p>エ 特集陳列により、独創的なテーマおよび地域に密着したテーマを掘り下げる(日程はいずれも予定)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「金子量重氏寄贈品による アジアの民族造形」(関連3室 年2月24日～5月6日) ・「古文書展Ⅱ」(関連11室 4月15日～7月5日) ・「長崎の興福寺」(関連11室 8月19日～9月27日) ・「新収品展」(関連11室 9月30日～11月8日) ・「婚礼調度」(関連11室 12月23日～22年3月14日) <p>オ 他国語対応の展示室マップの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語・中国語・韓国語版の文化交流展示室のマップを継続して作成する。 	<p>【九州国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化交流展示室では、当館のテーマである日本の文化交流を重視する観点から、例年通り、計画的に431回にわたる展示替えを行い、2106件の文化財を展示した。 ・展示替え情報は、当館 HP やちらし、広報メディアを通じて来館者へ提供した。 ・昨年に引き続いて、文化交流展示室内で期間を限定して、特定のテーマを掘り下げたトピック展示を実施した(22回)。このうち、当館外部の機関などと共同で主催したトピック展示も5回実施した。 ・トピック展示ではちらしやポスター、リーフレットや図録などを作成し、関連したシンポジウムも開催して、展示だけではない情報発信ができた。 ・当館初の新収品を紹介する企画展「新収品'05-'08 交流する文化のかたち」を開催した。 ・増え続ける外国からの来館者、とくに中国・韓国からの来館者に対し、中国語ガイドブックおよび英語・中国語・韓国語の簡単な展示解説付きマップを作成し、展示室の内容を紹介した。 	A	順調
	<p>②特別展 (共同企画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開山無相大師 650年遠諱記念「妙心寺」 (京都国立博物館、九州国立博物館、[20年度東京国立博物館]) ・興福寺創建1300年記念「国宝 阿修羅展」 (東京国立博物館、九州国立博物館) <p>(東京国立博物館)</p>	<p>②特別展</p> <p>特別展の充実を図るため21年度計画になかったような展覧会まで開催し、展覧会事業の充実に努めた。特に東京国立博物館では、海外展「The Power of Dogu」、「侍の芸術」、海外展の帰国展「国宝 土偶展」を文化庁とも協力しながら行ったことにより国内外から大きな評価が得られた。</p> <p>【東京国立博物館】</p>		

2121-1	<p>目標入場者数 132 万人</p> <p>ア 興福寺創建 1300 年記念「国宝 阿修羅展」(21 年 3 月 31 日～6 月 7 日) 国宝阿修羅像を中心に天平彫刻の至宝を一同に展示(目標入場者数 54 万人)。</p>	<p>ア 国宝 阿修羅展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開会期間 平成21年3月31日(火)～6月7日(日)(61日間) ・ 会場 平成館特別展示室第1～4室 ・ 主催 東京国立博物館、興福寺、朝日新聞社、テレビ朝日 ・ 作品件数 75件(うち国宝58件、重要文化財10件) ・ 入館者数 946,172人(21年度 933,895人) ・ 入場料金 一般1500円(1300円/1200円)、大学生1200円(1000円/900円)、高校生900円(700円/600円)、中学生以下無料 * ()内は前売り/20名以上の団体料金 ・ アンケート結果 満足度 77.6% <p>国宝阿修羅像を核として、十大弟子・八部衆などの天平期の諸像ならびに平安期の諸像等を展示し、創建期からの興福寺の歴史的意義を顕彰しつつ、仏教芸術の素晴らしさを鑑賞いただいた。TV、雑誌等各メディアで多数紹介され、非常に大きな反響をいただいた。</p>	S	順調
2121-2	<p>イ 日仏交流 150 周年記念「'Story of …' カルティエクリエーション～めぐり逢う美の記憶」(21 年 3 月 28 日～5 月 31 日) カルティエが手がけた宝飾品とその秘められたストーリーを紹介(目標入場者数 9 万人)。</p>	<p>イ Story of … カルティエクリエーション～めぐり逢う美の記憶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開会期間 平成 21 年 3 月 28 日(土)～5 月 31 日(日)(57 日間) ・ 会場 表慶館 1 階・2 階 ・ 主催 東京国立博物館、日本経済新聞社 特別協力:カルティエ ・ 作品件数 276 件 ・ 入館者数 120,483人(21年度 115,568人) ・ 入場料金 一般1400円、大学生・高校生800円 中学生以下無料 ・ アンケート結果 満足度 78.7% <p>日仏交流 150 周年を記念し、フランスを代表するジュエラー、カルティエが所有する 1300 点ほどのアーカイヴピースを中心に、267 件を展示。世界的にも評価の高いデザイナーの吉岡徳仁氏が監修し、それぞれの宝飾品に秘められたストーリーを演出した。</p>	A	順調
2121-3	<p>ウ 特別展「染付一藍が彩るアジアの器」(7 月 14 日～9 月 6 日) 東洋の染付を、流通や技術・様式の交流も視野にいれながら概観(目標入場者数 7 万人)。</p>	<p>ウ 染付一藍が彩るアジアの器</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開会期間 平成 21 年 7 月 14 日(火)～9 月 6 日(日)(49 日間) ・ 会場 平成館特別展示室第1～2室 ・ 主催 東京国立博物館 協力 日油株式会社、産経新聞社 ・ 作品件数 221 件(うち重要文化財 4 件 重要美術品 1 件) ・ 入館者数 52,731 人 ・ 入場料金 一般 1000 円(800 円/700 円)、大学生 800 円(600 円/500 円)、高校生 600 円(400 円/300 円)、中学生以下無料 * ()内は前売り/20 名以上の団体料金 ・ アンケート結果 満足度 78.3% <p>アジア各国で焼かれた染付を製品の流通や技術・様式の交流も視野に</p>	A	順調

2121-4	<p>エ 第62回式年遷宮記念 特別展「伊勢神宮と神々の美術」(7月14日～9月6日)</p> <p>伊勢神宮の歴史と信仰をたどり、式年遷宮の実像と神道美術の精華を紹介(目標入場者数11万人)。</p>	<p>入れたうえで展示し、東洋の染付の大きな流れを概観した。さらに、さまざまな時代や地域の染付の優品が一堂に会することにより、素地の色や艶、コバルト顔料の発色の微妙な違いを明らかにし、染付の特性と多様性を浮き彫りにした。</p> <p>エ 伊勢神宮と神々の美術</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開会期間 平成21年7月14日(火)～9月6日(日)(49日間) ・ 会場 平成館特別展示室第3～4室 ・ 主催 東京国立博物館、霞会館、産経新聞社 ・ 特別協力 神宮司庁 ・ 作品件数 111件(うち国宝17件、重要文化財39件) ・ 入館者数 114,796人 ・ 入場料金 一般1400円(1100円/900円)、大学生1000円(700円/600円)、高校生700円(500円/400円)、中学生以下無料()内は前売/20名以上の団体料金 ・ アンケート結果 満足度 70.9% <p>2013年の伊勢神宮式年遷宮を記念し、伊勢神宮の古神宝等を中心に、神道の歴史や文化について紹介した。</p>	A	順調
2121-5	<p>オ 御即位二十年記念 皇室の名宝展(前期:10月6日～11月3日 後期:11月12日～11月29日予定)</p> <p>皇室ゆかりの名宝の数々を展示(目標入場者数35万人)。</p>	<p>オ 皇室の名宝展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開会期間 1期:平成21年10月6日(火)～11月3日(火・祝)(26日間) 2期:平成21年11月12日(金)～11月29日(日)(18日間) ・ 会場 平成館特別展示室第1～4室・企画展示室 ・ 主催 東京国立博物館・宮内庁・NHK 特別協力 NHKプロモーション・読売新聞社・日本経済新聞社 ・ 作品件数 205件 1期:81件(特別展示室80件 企画展示室1件) 2期:124件(重要文化財1件)(特別展示室100件 企画展示室24件) ・ 入館者数 447,944人(1期 263,303人 2期 184,641人) ・ 入場料金 一般1300円(1100円/1000円)、大学生1000円(800円/700円)、高校生700円(500円/400円)、中学生以下無料 *()内は前売/20名以上の団体料金 ・ アンケート結果 満足度:1期 84.9% 2期 63.5% <p>今上陛下の御即位20年を記念した本展では、正倉院宝物を含む皇室縁の名品を一堂に紹介した。宮内庁御物と三の丸尚蔵館、正倉院宝物から、特に名品として名高く、人気のある作品を展示することを主とした。本展覧会は、会期を1期と2期に分け、全ての作品を総入れ替えし、1期は安土桃山時代から近代までの作品、2期は古代から江戸後期までの作品で構成した。</p>	A	順調

2121-6	<p>カ 没後 400 年記念 特別展「長谷川等伯展」(22 年 2 月 23 日～3 月 22 日) 等伯の生涯を追いながら幅広い画業を紹介(目標入場者数 16 万人)。</p>	<p>カ 長谷川等伯展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開会期間 平成22年2月23日(火)～3月22日(月・休) (25日間) ・ 会場 平成館特別展示室第1～4室 ・ 主催 東京国立博物館・毎日新聞社・NHK・NHKプロモーション ・ 後援 文化庁 ・ 特別協賛 大塚家具 ・ 協賛 JR 東海・大成建設・日本写真印刷・みずほ銀行 ・ 作品件数 73件 (うち国宝3件、重要文化財28件、重要美術品1件) ・ 入館者数 292,526 人 ・ 入場料金 一般 1500 円(1300 円/1200 円)、大学生 1200 円(1000 円/900 円)、高校生 900 円(700 円/600 円)中学生以下無料 *()内は前売り/20 名以上の団体料金 ・ アンケート結果 満足度:86.0% 	S	順調
2121-7	<p>キ 海外展「サムライの美術-東京国立博物館精選」(4 月 19 日～6 月 14 日) 会場:パウワーズ博物館(アメリカ ロサンゼルス郡サンタアナ市) 東京国立博物館所蔵品の中から武家文化に関わる優品を展示。</p>	<p>キ 海外展「サムライの美術-東京国立博物館精選」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開会期間 平成 21 年 4 月 19 日(日)～6 月 14 日(日) (49 日間) ・ 会場 アメリカ・パウワーズ博物館 ・ 主催 東京国立博物館、パウワーズ博物館 ・ 作品件数 81 件 (うち国宝 1 件、重要文化財 7 件) ・ 入館者数 18,609 人 ・ 入場料金 - ・ アンケート結果 満足度1% <p>本展は、東京国立博物館が収蔵する日本美術作品ならびにジョン・プライス氏のコレクション 1 点を含む優品 81 件によって、日本の武家文化を紹介した。今回の展覧会では、全体を 2 部構成とし、第 1 部では「武士の装い-武器・武具-」をテーマに主に刀剣と甲冑を、第 2 部では「武家の文化」をテーマに能衣装と茶道具、また武家の女性の装束や婚礼調度を展示、全体でサムライの表と奥の世界を紹介した。</p>	A	順調
2121-8	<p>ク 海外展「日本美の輝き 300 年(1568-1868)」(仮称)(12 月～22 年 2 月予定) 会場:パラッツォ・レアーレ(イタリア ミラノ市)(東京国立博物館協力) 上方文化、江戸文化の対比を軸に日本の近世美術を紹介。</p>	<p>ク 海外展「日本・その力と輝き 1568-1868」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開会期間 平成21年12月7日(月)～22年3月8日(月) (91日間) ・ 会場 イタリア(ミラノ市)・パラッツォ・レアーレ ・ 主催 イタリア・ミラノ市、モッタ社 ・ 特別協力 東京国立博物館・大阪市立美術館 	A	順調

		<ul style="list-style-type: none"> ・作品件数 214 件（うち国宝 1 件、重要文化財 14 件） ・入館者数 47,192 人 ・入場料金 一般9€／65歳以上7.5€／6才～18才4.5€／5才以下無料 ・アンケート結果 満足度－% <p>安土桃山時代から江戸時代までの日本美術作品によって近世日本の魅力ある文化的、社会的、経済的な発展を紹介するもので、ミラノにおける日本年の最後を飾る最大行事として、日本美術の精華を紹介する機会となった。また、スカラ座の開幕、ファッションショーの開催など、ミラノが世界に注目される時期に合わせて開催することにより、日本美術を世界に発信するまたとない機会となった。</p>		
2121-9		<p>○日本・ギリシャ修好 110 周年記念 「アテネ・メトロ・ミュージアム -ギリシャの地下鉄が結んだ古代と現代-」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会期間 平成 21 年 4 月 7 日(火)～5 月 10 日(日) (30 日間) ・会場 東京国立博物館 平成館 企画展示室 ・主催 東京国立博物館、駐日ギリシャ大使館 ・作品件数 一件 ・入館者数 一人 ・入場料金：平常展料金 ・アンケート結果 満足度－% <p>日本とギリシャの修好110周年を記念し、アテネの地下鉄各駅に展示されている古代と現代の作品の見事なコンビネーションを写真パネルと映像資料によって公開する初めての試み。3千年以上もの時を経て尚アテネの日常に息づく文化と歴史、古代と現代の融合を投影するパブリックアートの真髄を紹介した。</p>	A	順調
2121-10		<p>○文化庁海外展 「The Power of Dogu」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会期間 平成 21 年 9 月 10 日(木)～11 月 22 日(日) (74 日間) ・会場 イギリス・大英博物館(日本ギャラリー) ・主催 文化庁、大英博物館、東京国立博物館 ・作品件数 67件（うち国宝3件 重要文化財23件 重要美術品2件） ・入館者数 65,564人 ・アンケート結果 満足度－% <p>本展は縄文時代早期から弥生時代中期にわたる日本を代表する各種の土偶ならびにその関連資料を一堂に会し、土偶の発生・盛行・衰退の過程を追うとともに縄文人の造形美の真髄に迫った。</p>	A	順調
2121-11		<p>○文化庁海外展「侍の芸術」Art of Samurai: Japanese Arms and Armor. 1156-1868</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会期間 平成21年10月20日（火）～22年1月10日（日）(69日間) ・会場 ニューヨーク・メトロポリタン美術館 2 階「The Tisch 	A	順調

2121-12		<p>Galleries」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催 文化庁 ニューヨーク・メトロポリタン美術館 東京国立博物館 ・作品件数 209件(うち国宝34件 重要文化財60件 重要美術品6件) ・入館者数 187,064人 ・入場料金 一般20\$, シニア15\$, 学生10\$, 会員および12歳以下無料 ・アンケート結果 満足度ー% <p>本展は、日本刀とその刀装具や甲冑などの武器・武具を中心に、陣羽織などの衣裳、肖像画や合戦図絵巻・屏風などの絵画資料を展示した。実用性と同時に、独自の美意識に基づき発展した武器・武具に代表される武士の世界を総合的に展示する海外展としては初めての企画であった。</p> <p>○文化庁海外展 大英博物館帰国記念 「国宝 土偶展」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催期間 平成21年12月15日(火)～平成22年2月21日(日) (56日間) ・会場 東京国立博物館 本館特別5室 ・主催 文化庁、東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、毎日新聞社 ・作品件数 67件(うち国宝3件 重要文化財23件 重要美術品2件) ・入館者数 128,285人 ・入場料金 一般800円、大学生600円、高校生400円、中学生以下無料 ・アンケート結果 満足度 88.8% <p>本展は、イギリスの大英博物館で2009年9月10日から11月22日まで開催された <i>THE POWER OF DOGU</i> の帰国記念展で、国宝3件と重要文化財23件、重要美術品2件を含む全67件で構成された大英博物館展を「土偶のかたち」「土偶芸術のきわみ」「土偶の仲間たち」という新たな切り口で再構成する。</p>	S	順調
2122-1	<p>(京都国立博物館) 目標入場者数 13万人 ア 「開山無相大師 650年遠諱記念 妙心寺」(21年3月24日～5月10日) 妙心寺に伝わる室町から江戸時代の優品を展示(目標入場者数 3万人)。</p>	<p>【京都国立博物館】 ア 妙心寺</p> <p>妙心寺開山・関山慧玄(1277～1360)の650年遠諱にちなみ、東京国立博物館および京都国立博物館で行われた大規模な展覧会。妙心寺の歴史にとどまらず、妙心寺を中心に育まれた日本の禅文化、ひいては日本美術を幅広く紹介する機会となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催期間 21年3月24日～5月10日(43日間) ・会場 特別展示館 ・主催 京都国立博物館、臨済宗妙心寺派大本山妙心寺、読売新聞大阪本社 ・陳列品総件数 167件(うち国宝4件、重要文化財48件) ・海外からの出陳件数 1件(アメリカ・メトロポリタン美術館) 	S	順調

2122-2	<p>イ 「シルクロード 文字を辿ってーロシア探検隊収集の文物ー」(21年7月14日～9月6日) 敦煌及びその周辺で発見された文献の中から日本初公開の優品を展示(目標入場者数 2万人)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入場者数 106,081人(目標30,000人) ・入場料金 一般1300円、大高生900円、中小生400円 ・アンケート結果 満足度89% <p>イ シルクロード 文字を辿ってーロシア探検隊収集の文物ー ロシア・サンクトペテルブルクにあるロシア科学アカデミー東洋写本研究所所蔵の西域文献を中心に128件をコートン、クチャ・カラシヤール・トルファン、敦煌、カラホトの各地域に分類して展示し、合わせて関連特集陳列「中国の写本と版本」も開催した。ロシア探検隊収集の西域文献が、日本の博物館では初めて多数展示される大規模な展覧会となり、世界の敦煌学・東洋史の研究者から注目される展示となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催期間 7月14日～9月6日(48日間) ・会場 特別展示館 ・主催 京都国立博物館、ロシア科学アカデミー東洋写本研究所 ・陳列品総件数 128件 ・海外からの出陳件数 ロシア科学アカデミー東洋写本研究所127件・エルミターージュ美術館1件 <ul style="list-style-type: none"> ・入場者数 25,511人(目標20,000人) ・入場料金 一般1200円、大高生800円、中小生無料 ・アンケート結果 満足度80% ・関連講座 5回実施 	A	順調
2122-3	<p>ウ 「立正安国論」奏進七五〇年記念 日蓮と法華の名宝ー華ひらく京都町衆文化ー」(21年10月10日～11月23日) 「立正安国論」を中心に京都十六本山の名品を紹介(目標入場者数 3万人)。</p>	<p>ウ 日蓮と法華の名宝ー華ひらく京都町衆文化ー 文応元年(1260)、日蓮は鎌倉幕府前執権北条時頼に『立正安国論』を献じた。平成21年はそれから750年目の節目の年に当たり、それを記念して日蓮の生涯と日蓮法華信仰に関わる特別展を企画した。京都だけの開催ということもあり、京都十六本山を中心とする日蓮法華宗の寺宝と法華信徒の多かった京都町衆との関係を紹介することに重点をおいた。京都はかつて「題目の巷」と称され、日蓮法華宗は京都の発展に重要な役割を果たしたが、今日ではあまり関心の対象となっていない。その再評価を行うことを主眼とし、各寺院調査の成果を生かしてかつてない大規模展として成功裏に終えることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催期間 10月10日～11月23日(39日間) ・会場 特別展示館 ・主催 京都国立博物館、日蓮聖人門下連合会、日本経済新聞社、京都新聞社 ・陳列品総件数 203件(うち国宝4件、重要文化財55件、重要美術品6件) ・海外からの出陳件数 1件(ハーバード燕京図書館) 	S	順調

2122-4	<p>エ 「THE ハプスブルク」(22年1月6日～3月14日) ウィーン美術史美術館、ブダペスト美術館所蔵のハプスブルク家にまつわる優品を選びすぐって展示(目標入場者数 5万人)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入場者数 88,187人(目標30,000人) ・入場料金 一般1300円、大・高校生900円、中・小学生400円 ・アンケート結果 満足度79% <p>エ THE ハプスブルク 日本とオーストリア、ハンガリーとの国交樹立140周年を記念して、ウィーン美術史美術館とブダペスト国立西洋美術館所蔵品を中心としたハプスブルク家コレクションを展覧。明治天皇から寄贈された日本絵画の画帖と蒔絵から始まり、イタリア、スペイン、ドイツ、オランダ・フランドルの絵画を総覧し、クンストカンマーと呼ばれる彫刻・工芸の興味深い蒐集品を通して、西洋の宮廷美術を理解する機会を提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催期間 22年1月6日～3月14日(60日間) ・会場 特別展示館 ・主催 京都国立博物館、読売新聞大阪本社、毎日放送 ・陳列品総件数 116件 ・海外からの出陳件数 116件(ウィーン美術史美術館・ブダペスト国立西洋美術館・オーストリア工芸美術館・ウィーン家具博物館) ・入場者数 247,078人(目標50,000人) ・入場料金 一般1500円、大・高校生1000円、中・小学生500円 ・アンケート結果 満足度90% 	S	順調
2122-5		<p>○日本の美 国宝との出会い 当館が所蔵する日本美術の名品の中から平安時代から江戸時代に至る、大和絵、仏画、水墨画、琳派、写生画派、南画などの優品を選びすぐり、国宝、重要文化財を含む35件を展示。日本の美の真髄にふれ、その本質の一端を、富山市を中心とする北陸の方々を紹介する機会となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催期間 10月2日～11月8日(33日間) ・会場 富山県水墨美術館 ・主催 「日本の美 国宝との出会い展」実行委員会(北日本新聞社、富山県水墨美術館) ・特別協力 京都国立博物館 ・陳列品総件数 35件(うち国宝9件、重要文化財13件) ・入場者数 30,366人 ・入場料金 一般1,000円、大学生700円、小・中・高校生等無料 	S	順調
2123-1	<p>(奈良国立博物館) 目標入場者数 24.5万人 ア 「唐招提寺金堂平成大修理記念 国宝 鑑真和上展」(4月4日～5月24日) 鑑真和上をはじめとする唐招提寺の至宝約70件を一堂に展示(目標入場</p>	<p>【奈良国立博物館】 ア 国宝 鑑真和上展 ・会期 4月4日(土)～5月24日(日)(開館は45日間)。 ・会場 奈良国立博物館 東・西新館</p>	S	順調

2123-2	<p>者数 3.5万人)。</p> <p>イ 「聖地寧波－日本仏教1300年の源流～すべてはここからやって来た～」 日中交流の玄関口寧波の日本への影響を探る展示(目標入場者数 3万人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主催 奈良国立博物館、唐招提寺、TBS、毎日放送、朝日新聞社、日本経済新聞社 ・陳列品総数 74件(うち国宝12件、重文36件) ・入場者数 93,779人(目標35,000人) ・観覧料金 一般1,200円、高・大生800円、小・中生500円 ・アンケート結果 90.2% ・鑑真和上像(国宝)をはじめとする、唐招提寺所蔵の文化財の数々を一堂に展示した。 ・平成13年の東京都美術館における開催以来、当館の学術協力のもとで全国7会場を巡回してきた「国宝 鑑真和上展」の最終回にあたり、従来からの内容に本会場独自のコーナーや出陳品を加え、その集大成にふさわしい充実した展覧会となった。 <p>イ 聖地寧波</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会期 7月18日～8月30日(40日間) ・会場 奈良国立博物館 東・西新館 ・主催 奈良国立博物館、読売新聞大阪本社、NHK奈良放送局 ・後援 文化庁、中華人民共和国駐日本大使館、寧波市人民政府 ・特別協力 浙江省文物局、上海博物館 ・陳列品総数 175件(国宝10件、重文74件) ・入場者数 30,548人(目標30,000人) ・観覧料金 一般1,200円 高・大生800円 小・中生500円 ・アンケート結果 満足度75.4% 	A	順調
2123-3	<p>ウ 「第61回正倉院展」(予定) 正倉院に保管されている文化財を展示(目標入場者数 18万人)。</p>	<p>ウ 第61回正倉院展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会期 10月24日～11月12日(20日間) ・会場 奈良国立博物館 東・西新館 ・主催 奈良国立博物館 ・陳列品総数 66件 ・入場者数 299,294人 ・観覧料金 一般1000円 大・高生700円 小・中学生400円 ・アンケート結果 満足度79.3% 	A	順調
2124-1	<p>(九州国立博物館) 目標入場者数 33万人</p> <p>ア 「聖地チベット ポタラ宮と天空の至宝」(21年4月11日～6月14日) チベット文化を総合的に紹介する初の展覧会(目標人数 10万人)。</p>	<p>【九州国立博物館】</p> <p>ア 聖地チベット ポタラ宮と天空の至宝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会期間： 4月11日(土)～6月14日(日)(58日間) ・会場： 特別展示室 ・主催： 九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TNCテレビ西日本、中華文物交流協会、中国チベット文化保護発展協会 ・陳列品総件数： 123件(うち国家一級文物36件) ・入場者数： 140,917人(目標入場者数 100,000人) 	A	順調

2124-2	<p>イ 「国宝 阿修羅展」(7月14日～9月27日) 国宝阿修羅像を中心に天平彫刻の至宝を一同に展示(目標人数 12万人)。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入場料金： 一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円 ・ アンケート結果：満足度 90.6% ・ 展示構成： チベット自治区および河北省承徳にある世界文化遺産に登録された宮殿、寺院や博物館の所蔵品から、わが国初公開となる文化財123件を展示した。構成は、1「仏教伝来の道」、2「チベット仏教の世界」、3「天空のパレス ポタラ宮」、4「チベットと漢文化 500年の交流」から成る。 <p>イ 国宝 阿修羅展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開会期間： 7月14日(火)～9月27日(日)(68日間) ・ 会場： 特別展示室 ・ 主催： 九州国立博物館・福岡県、法相宗大本山興福寺、朝日新聞社、九州朝日放送 ・ 陳列品総件数：66件(国宝56件・重文8件) ・ 入場者数：711,154人(目標入場者数120,000人) ・ 入場料金：一般1,300円、大学生1,000円、高校生800円、小中生600円 ・ アンケート結果：満足度90.0% ・ 興福寺創建1300年記念と中金堂再建事業にあわせて企画開催されたもので、東京国立博物館をへての巡回展。創建時に埋納された鎮壇具や阿修羅像をはじめとする乾漆像、鎌倉復興期の慶派の諸像などを展示した。第1章「興福寺創建と中金堂鎮壇具」、第2章「阿修羅とその世界」、第3章「中金堂再建と仏像」、第4章「パーチャルリアリティ映像 よみがえる興福寺中金堂・阿修羅像」から構成される。 ・ 会期中記念講演会を3回(興福寺貫首多川俊映氏・同国宝館館長金子啓明氏・奈良大学教授東野治之氏)開催し、毎週土曜日には興福寺僧侶による講座を実施した。 	S	達成
2124-3	<p>ウ 「九州考古展」(仮称)(10月20日～11月29日) 対外交流における九州の役割を最新の成果を交えて展示(目標人数 3万人)。</p>	<p>ウ 古代九州の国宝</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開会期間： 平成21年10月20日(火)～11月29日(日)(37日間) ・ 会場： 特別展示室 ・ 主催： 九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社・NHK福岡放送局、NHKプラネット九州 ・ 陳列品総件数：400件(国宝5件、重文22件) ・ 入場者数：72,741人(目標30,000人) ・ 観覧料：一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円 ・ アンケート結果：満足度 88.7% ・ 対外交流における九州の歴史的な役割を、各地域の多様性に注目しつつ、考古学の成果により紹介した。展示構成は第一部「交流の島 	S	達成

2124-4	<p>エ 「京都妙心寺—九州・琉球の禅文化—」(仮称)(22年1月1日～2月28日) 妙心寺の歴史・文化と九州・琉球地域への信仰の展開を紹介(目標人数 8万人)。</p>	<p>九州」、第二部「九州とヤマト」および第三部「古墳を飾る」の三部からなる。</p> <p>エ 京都妙心寺—禅の至宝と九州・琉球—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会期間： 22年1月1日(金)～2月28日(日)(52日間) ・会場： 特別展示室 ・主催： 九州国立博物館・福岡県、臨済宗妙心寺派大本山妙心寺、西日本新聞社、TVQ九州放送 ・陳列品総件数： 124件(うち国宝4件、重要文化財35件) ・入場者数：130,231人(目標入場者数 80,000人) ・入場料金： 一般1,300円、高大生1,000円、小中生600円 ・アンケート結果：満足度 91.6% ・展示構成：妙心寺本山・塔頭および九州・沖縄における妙心寺派寺院の所蔵品124件を展示。構成は、第一章「京都妙心寺の名宝」、第二章「妙心寺と九州・琉球」から成る。 	A	順調
	<p>③展覧会広報活動の取組み 法人としての広報活動を展開する。 ・法人概要、年報を作成する。 ・法人ウェブサイトを活用する。</p> <p>(4館共通)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 年間スケジュールリーフレットの制作・配付 2) マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動の展開 3) ウェブサイトによる情報提供 	<p>③展覧会広報の取組み</p>		
2131	<p>(東京国立博物館) 平常展の活性化に重点をおいた広報活動を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「東京国立博物館ニュース」の編集・発行・配付(年6回) 2) 広報・宣伝制作物の企画・制作・配布等 3) 「総合案内パンフレット」(7か国語)「フロアガイド」(4か国語)等パンフレットの制作・配付 4) 電子メールマガジンの配信 	<p>【東京国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京国立博物館ニュース、フロアガイド、総合パンフレット、展示・催し物のご案内、庭園ガイドマップを改訂発行した。 ・ウェブサイトトップページのリニューアルをはかった。 ・博物館情報をメールマガジンにより配信した。 ・平常展の活性化を目指した広報展開を行った。 ・マスコミ媒体と連携した広報活動の展開をはかった。 ・共催者やPR会社と協力し、特別展の大規模なプロモートを実施した。 	A	順調
2132	<p>(京都国立博物館)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「博物館だより」の発行・配布(年4回) 2) 「News Letter」(英文)の発行・配布(年4回) 3) モバイルサイトによる情報提供(常時更新) 4) 「館内案内」リーフレット(6か国語)の作成・配布 5) メールマガジンの配信 6) 東山地区の建仁寺・智積院・東福寺などの寄託社寺と連携し、チラシの交換、ホームページのリンク等の広報活動を展開 	<p>【京都国立博物館】</p> <p>マスコミ媒体や公共交通機関等と連携した広報活動の展開 各展覧会の招待日にプレス発表会を開催 展示予定の新発見作品について、特別にプレス発表会を開催 「年間スケジュール」リーフレットの作成・配布 「博物館だより」の発行・配布(4回) 「News Letter」の発行・配布(4回) 「館内案内」リーフレット(6ヶ国語)の作成・配布</p>	S	順調

2133

(奈良国立博物館)

- 1) 平常展の魅力に重点化した博物館だよりを発行する。(年4回)
- 2) 電子メールサービスによる展覧会及びイベント情報の発信。
- 3) 特集陳列チラシの作成・配布
- 4) 館内配置図リーフレット(7カ国語)の作成・配布。
- 5) 地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開を図る。
- 6) 液晶ディスプレイによる情報提供を行う。

メールマガジンの発行(18回)
ウェブサイトによる情報提供(日本語・英語)
モバイルサイトによる情報提供
東山地区の建仁寺・智積院・東福寺などの寄託社寺と連携し、チラシの交換、ホームページのリンク等の広報活動を展開
京都市内4館(京都国立博物館、京都国立近代美術館、京都府文化博物館、京都市美術館)の連携協力の提携を結び、共通の展覧会情報パンフレットを作成・配布

【奈良国立博物館】

- ・奈良国立博物館だより 年4回発行
- ・奈良国立博物館リーフレット(7ヶ国語)発行
日本語2万部、英語1万部、韓国語8千部、中国語5千部、仏・独・西語各2千部
- ・奈良国立博物館展示案内を年2回発行
- ・電子メールマガジンによる博物館情報の発信
- ・配信回数13回、登録者4,970人
- ・特別展「聖地寧波」では、奈良県で開催された「まほろば総体」参加者向け入場割引券つきチラシを作成し配布
- ・特別展「聖地寧波」では観覧券と展覧会図録がセットになった「観覧&図録セット券」を発行
- ・平常展の入場割引券を発行(特別陳列「おん祭り」「お水取り」開催期間中)
- ・文化大使を任命し、奈良国立博物館の広報宣伝に一役買っている。
- ・特別展「国宝 鑑真和上展」、「聖地寧波展」、「第61回正倉院展」の広報のため、ポスター(B1、B2、B3)、チラシを作成した。特別展「聖地寧波」では先行ポスター、先行チラシを作成した。
- ・新聞社、テレビ局の広報媒体を活用した。特別展「国宝 鑑真和上展」ではTBSが特別番組を作成し、「正倉院展」ではNHKの日曜美術館が取り上げ、また読売新聞社が紙上における連載、特集、記事のほか、同社作成のポスター、看板が東京駅、新大阪駅等主要駅等に掲載された。
- ・「正倉院展」において、読売新聞社主催の「正倉院フォーラム」が東京、大阪、福岡で開催され、「正倉院展へのいざない」が名古屋で開催された。
- ・特別展では開催1ヶ月ほど前に記者発表を行った。来年度開催の特別展「平城遷都1300年記念大遣唐使展」に関しては、4ヶ月前の12月上旬に東京において記者発表を行った。
- ・特別展、特別陳列の会期前日にプレスレビューを行った。

A

順調

2134	<p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 文化交流展示室の展示ストーリーを、日本文化にはじめて接する海外の来館者にも理解しやすいような、外国語のパンフレットまたはガイドブックを刊行する。</p> <p>2) 特別展の実施に伴う広報・宣伝材料の制作</p> <p>3) 「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」の発行(年4回)</p> <p>4) 現在および過去や将来の展示リストを検索・紹介し、新鮮な展示情報を情報発信するためのウェブデータベースを整備する。</p> <p>5) 地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動の展開</p> <p>6) 九州観光推進機構を通じた海外への広報・営業活動の展開</p> <p>7) 文化交流展示室からの積極的な情報発信をはかるため、ポスター・ちらし・webコンテンツの活用を一層、促進する。</p>	<p>【九州国立博物館】</p> <p>①外国語のガイドブック(中国語)・マップ(英語・中国語・韓国語)を刊行した。</p> <p>②テーマを定めたトピック展示の特性を踏まえて、webコンテンツやちらし・ポスター・リーフレット・図録などを刊行し、新聞紙上で広報等を通じて新鮮な展示を来館者に提供できた。</p> <p>③特別展の実施に伴う広報・宣伝材料を制作した。</p> <p>④マスコミ媒体と連携した広報活動を展開した。</p> <p>⑤「九州国立博物館季刊情報誌アジアージュ」を発行した。(年4回)</p> <p>⑥ウェブサイトによる情報提供を行った。(日本語・英語)(随時更新)</p> <p>⑦地元の自治体・商工団体・観光団体等と連携した広報活動を行った。</p> <p>⑧九州観光推進機構を通じた海外への広報営業活動を行った。</p>	A	順調																																																																																					
2141	<p>④黒田記念館所蔵作品の公開機会拡大 (東京国立博物館)</p> <p>黒田記念館での展示の他、東京国立博物館本館において特集陳列を開催する。</p>	<p>④ 黒田記念館</p> <p>【東京国立博物館】</p> <p>・平成21年3月3日から4月12日まで、東京国立博物館本館の展示室において、特集陳列「黒田清輝のフランス留学」を開催した。(20年度事業実績として評価済)</p> <p>・平成22年2月23日から4月5日まで、東京国立博物館本館の展示室において、特集陳列「農村(田園)へのまなざし」を開催した。</p> <table border="1" data-bbox="1137 821 2098 1367"> <thead> <tr> <th>定量評価</th> <th>21年度</th> <th>20年度</th> <th>目標値</th> <th>評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>【平常展】外国語パネルの設置(%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>97%</td> <td>97%</td> <td>80%</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td>—</td> <td>100%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td>91%</td> <td>77%</td> <td>80%</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>九州国立博物館</td> <td>82%</td> <td>82%</td> <td>80%</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>【平常展】陳列替回数(回)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>316</td> <td>319</td> <td>200</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td>—</td> <td>39</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td>8</td> <td>12</td> <td>15</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>九州国立博物館</td> <td>431</td> <td>386</td> <td>300</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>【平常展】総陳列件数(件)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>6,601</td> <td>7172</td> <td>5,500</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td>—</td> <td>1081</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td>717</td> <td>605</td> <td>800</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>九州国立博物館</td> <td>2,106</td> <td>3146</td> <td>800</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>【特別展】開催回数(件)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	定量評価	21年度	20年度	目標値	評価	【平常展】外国語パネルの設置(%)					東京国立博物館	97%	97%	80%	A	京都国立博物館	—	100%	—	—	奈良国立博物館	91%	77%	80%	A	九州国立博物館	82%	82%	80%	A	【平常展】陳列替回数(回)					東京国立博物館	316	319	200	S	京都国立博物館	—	39	—	—	奈良国立博物館	8	12	15	C	九州国立博物館	431	386	300	A	【平常展】総陳列件数(件)					東京国立博物館	6,601	7172	5,500	A	京都国立博物館	—	1081	—	—	奈良国立博物館	717	605	800	B	九州国立博物館	2,106	3146	800	S	【特別展】開催回数(件)					A	順調
定量評価	21年度	20年度	目標値	評価																																																																																					
【平常展】外国語パネルの設置(%)																																																																																									
東京国立博物館	97%	97%	80%	A																																																																																					
京都国立博物館	—	100%	—	—																																																																																					
奈良国立博物館	91%	77%	80%	A																																																																																					
九州国立博物館	82%	82%	80%	A																																																																																					
【平常展】陳列替回数(回)																																																																																									
東京国立博物館	316	319	200	S																																																																																					
京都国立博物館	—	39	—	—																																																																																					
奈良国立博物館	8	12	15	C																																																																																					
九州国立博物館	431	386	300	A																																																																																					
【平常展】総陳列件数(件)																																																																																									
東京国立博物館	6,601	7172	5,500	A																																																																																					
京都国立博物館	—	1081	—	—																																																																																					
奈良国立博物館	717	605	800	B																																																																																					
九州国立博物館	2,106	3146	800	S																																																																																					
【特別展】開催回数(件)																																																																																									

	東京国立博物館	12	8	3~4	S
	京都国立博物館	5	3	2~3	S
	奈良国立博物館	3	4	2~3	A
	九州国立博物館	4	4	2~3	A
	【特別展】入館者数(人)				
	東京国立博物館	1,974,652		1,320,000	A
	阿修羅展	946,172	—	540,000	S
	カルティエ展	120,483	—	90,000	A
	染付展	52,731	—	70,000	B
	伊勢神宮展	114,796	—	110,000	A
	皇室の名宝展	447,944	—	350,000	A
	長谷川等伯展	292,526	—	160,000	S
	サムライ展(海外展)	(18,609)	—	—	—
	日本・その力と輝き展(海外展)	(47,192)	—	—	—
	アテネ・メトロ・ミュージアム	—	—	—	—
	The Power of Dogu展(文化庁海外展)	(65,564)	—	—	—
	侍の芸術展(文化庁海外展)	(187,064)	—	—	—
	土偶展(文化庁海外展の帰国展)	(128,285)	—	50,000	S
	京都国立博物館	466,857		130,000	S
	妙心寺展	106,081	—	30,000	S
	シルクロード展	25,511	—	20,000	A
	日蓮と法華の名宝展	88,187	—	30,000	S
	ハプスブルク展	247,078	—	50,000	S
	日本の美 国宝との出会い展	(30,366)	—	20,000	S
	奈良国立博物館	423,621		245,000	S
	鑑真和上展	93,779	—	35,000	S
	聖地寧波展	30,548	—	30,000	A
	正倉院展	299,294	263,765	180,000	S
	九州国立博物館	1,055,043		330,000	S
	聖地チベット展	140,917	—	100,000	A
	阿修羅展	711,154	—	120,000	S
	古代九州展	72,741	—	30,000	S
	京都妙心寺展	130,231	—	80,000	S
	【展覧会広報】				
	東京国立博物館				
	博物館ニュースの発行(回)	6	6	6	A
	京都国立博物館				

	博物館だよりの発行(回)	4	4	4	A
	News Letter の発行(回)	4	4	4	A
	奈良国立博物館 博物館だよりの発行	4	4	4	A
	九州国立博物館 季刊アジアージュの発行(回)	4	4	4	A

(2) 歴史・伝統文化の理解促進

<p>【中期目標】 歴史・伝統文化の理解促進に寄与するよう、機構の人的資源を活用した教育普及活動を実施すること。</p> <p>①子どもから高齢者までを対象とした幅広い学習機会を提供すること。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ること。</p> <p>②ボランティアや支援団体を育成し、相互の協力により教育普及活動の充実を図ること。</p>

<p>【中期計画】 歴史・伝統文化の理解促進を図るとともに、その中心的拠点としてふさわしい教育普及事業に重点化する。</p> <p>①学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等と連携協力しながら、講演会、ギャラリートーク等の学習機会を提供する。また、参加者数については、各館の年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう努める。</p> <p>②-1 教育普及活動の充実寄与するようボランティア活動を支援し、ボランティアの資質向上に努める。</p> <p>②-2 企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図る。</p>	<p>【主な計画上の評価指標】</p> <p>○講演会、ギャラリートーク等の参加者数の各館の年間平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにすること</p> <p>○ボランティア活動を支援すること</p> <p>○企業との連携や友の会活動の活性化等により博物館支援者の増加を図ること</p> <p>【20年度評価における主な指摘事項】</p> <p>○児童への働きかけなどについては、次世代を育て、今後の平常展への観覧者の増加に繋がるものであり、4館が共通して実施すれば一層効果のあるものが生まれると思うので、今後は4館が連携しつつ、切磋琢磨することが必要ではないか。</p> <p>○ボランティアについては、館毎の人数に大きな差があるが、人数の少ない館についてはもっと積極的に取り組んで欲しい。また、ボランティアの基礎訓練(顧客対応が重要)についてもしっかりとやって欲しい。</p>
--	---

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
2211	<p>(2) 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進を図り、国立博物館としてふさわしい教育普及事業に重点化する。</p> <p>① 学習機会の提供 (4館共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスメンバーズ(大学会員制度)による大学との連携を継続して実施する。 <p>(東京国立博物館)</p> <p>1) ナショナルセンターとして日本の歴史・文化及び東洋文化の理解促進を図るための教育普及の先導的事業を実施する。 本館 20 室を教育普及スペース「みどりのライオン」</p>	<p>(2) 日本の歴史・伝統文化及び東洋文化の理解促進</p> <p>①学習機会の提供</p> <p>【東京国立博物館】</p> <p>1)先導的事業のモデル化及び実践</p> <p>○親と子のギャラリー (平常展の一環として実施する教育普及展示) 「日本美術のつくり方」7/28~9/6(36日間)本館特別2室</p> <p>○体験型プログラムの実施</p>	A	順調

と位置づけ、適宜、小講堂等も活用し、内容に応じた環境を設定しながら事業を展開する。

○ファミリー向け教育普及的展示企画「親と子のギャラリー」の実施

- ・特集陳列「親と子のギャラリー 日本美術のつくり方」(7月28日～9月6日)

○体験型プログラムの実施

- ・特集陳列「親と子のギャラリー 日本美術のつくり方」など、平常展示に関連した一般向け及びファミリー向けのワークショップやアクティビティを実施する。
- ・本館 20 室「みどりのライオン」において、ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう」を継続して実施する。
- ・正月企画「博物館に初もうで」に関連して、ワークシートを用いたアクティビティを実施する。

2) 学校との連携事業を推進する。

- ・スクールプログラム(鑑賞支援・体験型プログラム等)を継続して実施する(小・中・高校生対象)。
- ・就業体験の受け入れを継続して行う(小・中・高校生対象)。
- ・単位制高校及び高校生向け講座を継続して実施する(高校生対象)。
- ・インターンシップを継続して実施する(大学院生対象)。
- ・東京芸術大学との連携事業を継続して実施する(大学院生対象)。
- ・全国高等学校美術・工芸教育研究会所属教員のための研修を継続して実施する。
- ・教員鑑賞会・ガイダンスを継続して実施する。

3) 文化財について分かりやすく理解するための列品解説・月例講演会・連続講座・教育普及イベント等を継続

オリジナルスタンプを使った「日本のもようでデザインしよう」をはじめ、平常展や特別展に関連した体験型プログラムを実施(ほぼ毎日実施)。伝統文化への理解を深める機会とした。

○「みどりのライオン」プロジェクト

みんなで楽しむ教育普及スペース「みどりのライオン」事業を本館 20 室で実施した。

2)-1 学校との連携事業の推進

- ・スクールプログラム(小・中・高等学校団体対象)ガイダンス、鑑賞支援プログラム、体験型プログラム、キャリア学習のためのプログラムなどを提供。伝統文化鑑賞の理解促進に寄与した。
- ・高等学校の単位制授業に3回にわたる教育プログラムを提供(共催:国立西洋美術館、東京国立近代美術館)。連携する高校以外からも広く参加を受け入れた。
- ・都内及び近県の小中学校教員を対象とした研修会を2回実施。
- ・全国高等学校美術・工芸教育研究会の研修会への協力。講演等3件(7月29～31日 共催:東京芸術大学)
- ・教員特別鑑賞会・ガイダンスの実施 計3回。
- ・大学院生を対象としたインターンシップを実施

2)-2 学校との連携の推進 大学との連携事業

- ・大学院生と当館研究員が連携して準備を行ない、大学院生がギャラリートークを行った。
- ・当館蔵仏画の制作工程模型を作成、展示し、その解説を行なった。
体験コーナーに於ける陳列期間:平成22年1月13日～4月18日
- ・上記2件の合計:大学院生8名、ギャラリートーク回数74回、参加者数2,636名
- ・キャンパスメンバーズ会員校を対象とした事業を実施した。
博物館セミナー 3回(8月19日、21日、27日 計6時間) 参加者 224名
教育連携事業 9日間(8月17・18・19・20・21・25・26・27・28日 計32時間)
参加者 15大学より、計23名

3) 講演会・列品解説・講座等の実施

講演会:実施 24 回(月例講演会 12 回、テーマ講演会 1 回、記念講演会 11 回)

A 順調

A 順調

A 順調

	<p>して実施する。</p>	<p>列品解説等：実施 126 回（ギャラリートーク等を含む） 連続講座：実施 1 回（3 日） 公開講座：実施 2 回 その他教育的イベント等： ・狂言上演 ・興福寺講座 ・恩賜上野動物園・国立科学博物館連携事業「上野の山でクマめぐり」 ・台東区連携事業「前野まさるとゆく“東京国立博物館建物探訪”」 ・マルチメディアを利用した日本伝統文化の普及活動：スイス・リートバルク美術館の事例 ・保存と修理の現場へ行こう</p>		
2212	<p>(京都国立博物館)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) モニターを委嘱し、提言を受けることで、博物館事業等運営の参考とする。 2) 展示・収蔵品に関連する土曜講座を開催する。 3) 夏期講座を開催する。 4) 京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座を担当する。 5) 京都橘大学との連携事業を継続して実施する。 6) 展示品解説シートとしての博物館ディクショナリーを作成し、館内で配布するとともに、京都市内小中学校へ配布する。併せてメールマガジンでの配信を行う。 	<p>【京都国立博物館】 ・博物館の事業・運営に対する意見等を聴くモニターを実施。 ・土曜講座を展覧会にあわせて開催（19 回） ・夏期講座「文化の波及と変容Ⅲ」を実施（7/29～31） ・「社会科教員のための向上講座について」(10/27) を実施（32 名参加） ・京都大学大学院人間・環境学研究科、歴史文化社会論講座を担当 ・キャンパスメンバーズを継続し、大学と連携（30 校） ・京都橘大学との連携を行い、ボランティアによる観覧者アンケート調査を実施 ・小・中学生向け作品解説シート（博物館ディクショナリー）を発行 ・「留学生の日」(10/25) を実施 ・「少年少女博物館くらぶ」（7/25）を実施 ・京都市内の小中学校への訪問授業（6/17、金閣小学校児童 160 名）(11/2、蜂ヶ岡中学校生徒 228 名) ・「文化財ソムリエ」（7 名）を対象としたスクーリング（10/19、11/2、12/7、1/18、2/15）</p>	A	順調
2213	<p>(奈良国立博物館)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 奈良県内小中学校 220 校にメールマガジンを配信する。 2) 奈良市内小学校 5 年生を対象に世界遺産学習授業を実施する。 3) 展示品に関するサンデートークを随時実施する。 4) 特別展等に際してシンポジウム及び講座を開催する。 5) 夏季講座を開催する。 6) 特別陳列に因み、伝統的行事を体験する催しを実施する。 7) 放送大学の面接授業を実施する。(約150名) 8) 奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施する。 9) 奈良教育大学・奈良市教育委員会と連携して世界遺産 	<p>【奈良国立博物館】 ・小中学校 220 校にメールマガジンを配信した。 ・世界遺産学習特別勉強会の共同開催 3/6 参加者数 50 名 講演会等 参加者数 3,421 人、実施回数 33 回 ・特別展に伴う公開講座の実施 16 回 参加人数 2,043 人（2009 年 4 月～2010 年 3 月） ・当館関係者によるサンデートークの実施 11 回参加人数 584 人（2009 年 4 月～2010 年 3 月、毎月 1 回） ・夏季講座の実施 8/18～8/20（1 回（3 日間））、参加者 391 名（/各日） ・大学等との合同講座 実施回数 4 回 参加人数 353 人 奈良県立大学との合同公開講座の実施 3 回（9/6、9/13、9/20）参加者総数 260 名 東京大学東洋文化研究所との合同公開講座 1 回（9/21）参加者数 93 名 ・鑑真和上・唐招提寺フォーラム 2009 の実施 5/2 参加者数 385 名 ・正倉院国際シンポジウムの実施 10/31 参加者数 184 名 ・奈良市教員研修の実施 8/25 参加者数 190 名</p>	A	順調

2214	<p>学習のプログラム開発を検討する。</p> <p>(九州国立博物館)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 博物館における体験型事業の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・教育普及ゾーンで活用する様々な教育キットの開発 ・幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供 ・博物館科学施設等において、博物館の諸活動を体験できるプログラムの開発 ・アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムの開発 2) 九州大学との共同研究の成果に基づき、平常展を利用して来館者のニーズに合った情報提供を行うためのプログラムを研究・開発する。 3) 学校教育との連携事業を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・職場体験(中学生)の受け入れを実施 ・ジュニア学芸員(高校生)事業の実施 ・博物館活用の促進を図るため、教員研修の場の設置 ・学校貸出キット「きゅうぱっく」の貸し出しを実施する。 4) シンポジウムを開催する。 5) 特別展記念講演会を開催する。 6) 文化交流展、特別展に関連した教育普及事業を実施する。 7) ギャラリートークを随時実施する。 8) 文化施設等へ講師を派遣する。 9) 特別展の内容に親しみをもたせ、より良く理解するためのワークショップを開催するとともに、文化交流展示の内容とも連携した事業展開を行う。 10) 近隣大学等と文化財保存技術および展示・教育普及に関する共同研究を計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放送大学の面接授業を実施した。(98名) ・奈良女子大学及び神戸大学との連携講座を継続して実施した。(半年および通年) ・世界遺産学習実践研修会(於: 奈良教育大学)の共同開催 1回 ・解説ボランティアによる作品解説 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>展示会場での解説</td> <td>305日(2009年4月～2010年3月)</td> </tr> <tr> <td>学校団体案内</td> <td>37件(同上)</td> </tr> <tr> <td>一般グループ案内</td> <td>47件(同上)</td> </tr> <tr> <td>正倉院展の講堂解説</td> <td>112回(正倉院展会期中毎日4～7回)</td> </tr> <tr> <td>世界遺産学習の受入</td> <td>30件(奈良市内の全小学校5年生を対象に実施)</td> </tr> </table> <p>【九州国立博物館】-1</p> <ol style="list-style-type: none"> ①毎週火曜日(火曜休館の週は休み)に研究員によるミュージアムトークを実施した。(月2回～4回で15～30分程度。1回の平均参加人数は30名程度である。開催にあたっては昨年と同様に講師の調整は担当研究員が行い、実際の運営にあたってはボランティアコーディネーターの指導により、ボランティアの手で行われている。当館では展示替えが頻繁に行われていることから、展示解説ボランティアにとっても資料学習の良い機会となっている。 ②学校教育と連携事業を実施した。 ③特別展記念講演会・シンポジウムを開催した。 <p>-2</p> <ol style="list-style-type: none"> ①体験型展示室「あじっば」における展示・体験活動の充実 <p>「あじっば」のうち、アジア各国の伝統文化・生活文化等を紹介する「屋台」において延べ13回、「あじ庵」において延べ2回、「あじぎやら」において延べ4回の展示替えを行った。従来からの体験プログラムの展開に加え、新たに「タングラム」(中国を起源とする、7つのパーツを組み合わせてさまざまなシルエットをつくるパズル)を追加した。また、小・中学生層を対象に、博物館学芸員の仕事の一部を体験するプログラム「なりきり学芸員体験」を実施し、新たなヴァージョンとして「なりきり考古学者」を開発・実施した。また、ベトナム民族学博物館の「Mid Autumn Vietnam-Japan 2009」に協力し、新規開発した「屏風のしくみ」「貝合わせをつくろう」のワークショップを実施した。</p> ②夏休み子ども向けイベント「いこうよ!あじっば夏祭り」の実施 <p>夏休み子ども向けイベント「いこうよ!あじっば夏祭り」を7月18日～20日に実施した。</p> ③初等・中等教育との連携 <p>学校貸出キット「きゅうぱっく」の運用を継続しつつ、改善点の抽出、新たなコンテンツの可能性について検討した。また、中学生の職場体験の受け入れ、高校生を対象とした博物館理解のためのプログラム「ジュニア学芸員活動」を実施した。</p> ④高等教育との連携 <p>博物館学芸員課程を履修する学生のための「博物館実習」を実施し、また、筑紫女学園大学との連携による「ガムランワークショップ」を実施した。</p> ⑤教員を対象としたプログラムの実践 	展示会場での解説	305日(2009年4月～2010年3月)	学校団体案内	37件(同上)	一般グループ案内	47件(同上)	正倉院展の講堂解説	112回(正倉院展会期中毎日4～7回)	世界遺産学習の受入	30件(奈良市内の全小学校5年生を対象に実施)	A	順調
展示会場での解説	305日(2009年4月～2010年3月)													
学校団体案内	37件(同上)													
一般グループ案内	47件(同上)													
正倉院展の講堂解説	112回(正倉院展会期中毎日4～7回)													
世界遺産学習の受入	30件(奈良市内の全小学校5年生を対象に実施)													
			A	順調										

	<p>11) 放送大学の面接授業を実施する。(講師数8人)</p> <p>12) 博物館実習生の受け入れを実施する。</p> <p>13) インターンシップによる研修生の受け入れを実施する。</p>	<p>福岡県教育センターとの連携により、キャリアアップ講座「伝統と文化の社会科授業づくり」を実施した。また、県高等学校歴史研究会研修会を3回実施した。</p> <p>-3 キャンパスメンバーズ制度に、教育機関(大学・専門学校・高校)が、新規および継続で入会した。また、会員校からの依頼で特別展の出張講義を実施した。</p> <p>キャンパスメンバーズ加入数 29校 大 学 16校 短期大学 5校 専門学校 1校 高等学校 7校</p> <p>特別展の出張講義 2件</p>	A	順調
2221-1	<p>②-1 ボランティア活動の支援 (東京国立博物館)</p> <p>1) 各種教育普及事業及びイベント等の補助活動の充実を図る。</p> <p>2) 点字や手話による博物館案内を実施する。→(処理番号2311-1参照)</p> <p>3) 各種解説ツアーを継続して実施する。</p> <p>4) ボランティア自身の企画立案による解説ツアーの充実を図る。</p> <p>5) 東京芸術大学学生ボランティアによる活動を継続して実施する。</p>	<p>②-1 ボランティア活動の支援 【東京国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動充実、ハンズオン体験コーナー等で作業を補助する活動を継続して展開した。 ボランティアによるガイドツアー、ワークショップ等の充実を図った。 実施回数 474回、参加人数13,432人 児童・生徒の就業体験を受け入れた。 学校数 32校、生徒数 114人 館内の施設誘導案内を行い、来館者サービスに努めた。 実施期間：通年(開館日は基本的に毎日実施) <p>実施場所：館内4箇所(本館1・2階エントランス、本館17室、本館20室)</p>	A	順調
2222-1	<p>(京都国立博物館)</p> <p>1) 大学(京都橘大学)との学術交流による特別展覧会観覧者アンケート(反応収集・集計・分析)ボランティアを実施する。</p> <p>2) 調査・研究支援ボランティアを受け入れ、各種事業活動の充実を進める。</p>	<p>【京都国立博物館】</p> <p>大学(京都橘大学)との学術協定に基づき、学生18名が特別展覧会のアンケート・ボランティアとして活動した。</p> <p>「日蓮と法華の名宝」展の会期中にあたる10月20日から11月13日までの毎火・水・金曜日(11/3を除く)に、当館職員による事前講習ののち、来館者に声かけしアンケートを行った。</p> <p>調査・研究支援ボランティアの募集と各種事業活動の充実を進めた。大学院生等10名が、当館職員が行う収蔵品調査、社寺調査等の調査・研究業務の補助として、調査作品の計測、調書の作成、撮影等を行った。また、展示替えの際、作品の移動、収納等の作業の補助を行った。</p> <p>「文化財ソムリエ」を対象としたスクーリング(10/19、11/2、12/7、1/18、2/15)</p>	A	順調
2223-1	<p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) ボランティアを受け入れ、展示解説、イベント、学習普及事業補助等の充実を図る。</p> <p>2) ボランティアに対する指導助言体制を充実するとともにボランティアに対する研修の充実を図る。</p>	<p>【奈良国立博物館】</p> <p>特別展、特別陳列の開催ごとに1~2回、当館職員による展示内容の研修を実施した。ボランティア全員に全展覧会の図録を配布し、解説のための学習資料とした。</p> <p>また、高度な内容を含む特別展(今年度は特別展「聖地寧波」)に対しては、学芸部研究員に対する事前の研究会にボランティアも参加し、専門知識の強化をはかった。</p>	A	順調

2224-1	<p>(九州国立博物館)</p> <p>3) ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。 4) 外国語対応のできる解説ボランティアを充実させる。</p> <p>1) ボランティアを受け入れ、展示解説部会、教育普及部会、館内案内部会(日本語、英語、中国語、韓国語)、環境部会、イベント部会、資料整理部会、サポート部会、学生部会の充実を図る。 2) ボランティアに対し資質向上を目的に基礎研修・専門研修を実施する。 3) ボランティア同士のグループ別学習の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正倉院展会期中にはボランティアによる講堂解説を実施した。教育室がスライド資料と原稿を作成し、立会研修を行った後、1～2週にわたる自主トレーニングを経て、現場に臨むよう指導した。 ・展示内容に関する疑問について質問用紙を用意し、学芸部職員がこれに回答する等の適切な対応を行った。 また、朝のボランティアのミーティングに学芸部職員が立ち会い、質問等に応えている。 ・ボランティア室の移動に伴い、新しい部屋の環境整備を行い、蔵書を増加した。 ・顔写真入りの新しいボランティア証を作成し配布した。 <p>【九州国立博物館】</p> <p>① 展示解説ボランティアが来館者(個人・団体)に対して4階文化交流展示室内を案内 ② 体験型展示室「あじっば」内において、教育普及ボランティアが来館者の体験活動のサポート ③ 館内案内ボランティアが来館者に4カ国語(日本語・中国語・英語・韓国語)で対応。またバックヤードツアーの実施 ④ 博物館科学課の指導のもと、環境ボランティアがIPM活動や館内の環境整備をサポート ⑤ イベントボランティア・学生ボランティアを中心に、季節に沿ったイベントの企画・実施 ⑥ サポートボランティアによるボランティア広報紙の作成、及び他館とのボランティア交流の企画・実施 ⑦ 資料整理ボランティアによる館所有の土人形の調書作成、及びデータベース化 ⑧ 土日を中心とした手話ボランティアとの協力による障がい者対応 ⑨ 他団体との共催による子ども向けイベントの実施、及び他館イベントへの参加 〔対応来館者数〕※事前予約団体分のみ(当日受付対応数は除く) 展示解説：4,118人 館内案内：5,249人 バックヤード：3,028人 〔研修会〕 全体研修：5回 部会研修会：149回 グループ研修会：40回</p>	A	順調
2221-2	<p>②-2 博物館支援者の増加 企業との連携及び「友の会」活動の活性化を図る。</p> <p>1) 「友の会」等の会員制度によるリピーターの拡大に努める。 2) 「友の会」会員を対象とした事業を実施する。 3) 企業等と連携し、広報活動やイベントによる博物館の認知度向上に努める。 4) 公共交通機関等とのタイアップによる広報の充実に努める。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 賛助会員制度の継続・拡充を図る。 2) 地域、企業との連携・拡充を図る。</p>	<p>②-2 博物館支援者の増加</p> <p>【東京国立博物館】 友の会、パスポート及び賛助会等の会員の確保に努めるとともに、地域や企業との連携を推進した。 1) 友の会・パスポート・平常展割引パス 会員数</p>	A	順調

種 別	21 年度	(参考) 20 年度
友の会 (1 万円)	2,085 人	1,913 人
パスポート	一般 4,000 円	20,392 人
	学生 2,500 円	1,206 人
平常展割引バス (2,000 円)	24 人	30 人

・オンラインによる友の会、パスポートの申込受付数:331 名(20 年度は 319 名)

2) 賛助会 会員数

	21年度	(参考)20年度
特別会員	16団体	13団体
維持会員	24団体・個人178人	26団体・個人157人

・会員対象の特別鑑賞会等の実施 特別展内覧会 4 回 事業報告会 1 回

3) 地域、機関との連携

①上野のれん会、上野法人会、上野の山文化ゾーン協議会等、地域の会合等に参加するとともに、台東区及び台東区所管財団法人、東京都、財団法人東芝国際交流財団、株式会社東京美術、三菱商事株式会社等と、展覧会の同時期開催、イベントへの協力、「留学生の日」協賛、障害者向け内覧会等、さまざまな事業を行った。

②日本大学芸術学部との共催で、所沢市教育委員会及び新座市教育委員会後援、埼玉県民芸術文化祭協賛事業として、埼玉県所沢市に位置する柳瀬荘を会場に、「柳瀬荘アート・教育プロジェクト」を開催し、ワークショップ、美術学科教職員作品展、コンサートなど8つのプログラムを行った。(参加者合計約 766 名)

【京都国立博物館】

・支援団体が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力した。

・企業及び大学との連携により、施設を活用したイベントの実施及び広報活動の充実を図った。

・「京都市内4館連携協力協議会」の実施

・「友の会」事業を継続して実施した。

会員数 2,517 人

【奈良国立博物館】

・友の会
会員数 2,799 人(一般 2,668 人、学生 103 人、家族 28 人)

・賛助会
特別支援会員:5 団体、特別会員:2 団体、一般会員(個人):32 人、(団体):17 団体

・特別展の実施に対して企業等から協力金等を積極的に獲得した。

・奈良観光イベント「ライトアッププロムナード・なら 2009」、「なら燈花会」、「なら瑠璃絵」に積極的に協力した。

2222-2 (京都国立博物館)

1) 支援団体が行う文化財の鑑賞会・見学会等に協力する。

2) 企業等との連携により、施設を活用したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。

3) 展覧会事業への企業からの各種支援(協賛・協力)を募る。

2223-2 (奈良国立博物館)

1) 賛助会員制度の継続・拡充を図る。

2) 地域、企業との連携・拡充を図る。

3) 支援団体との連携により施設を活用したイベント等を実施し、認知度向上に努める。

A 順調

A 順調

2224-2	(九州国立博物館) 1) 寄付金の獲得に努める。 2) 財団や近隣地域等と連携したイベントの実施及び広報活動の充実を図る。	【九州国立博物館】			A	順調	
			①友の会及びパスポート会員は昨年度より増加している。				
			②支援団体や近隣地域と連携したイベントを実施した。				
			定量評価	21年度	20年度	目標値	評定
			学習機会の提供 講演会等参加者数(人)				
			東京国立博物館	12,546	12,332	10,915	A
			講演会	5,600	7,134		
			連続講座(夏期講座)	320	356		
			公開講座	76	68		
			列品解説	6,550	4,774		
			京都国立博物館	3,002	3,413	5,181	C
			土曜講座	2,791	3,254		
	夏期講座	179	159				
	奈良国立博物館	3,421	3,655	3,542	B		
	公開講座	2,043	2,706				
	夏季講座	391	362				
	サンデートーク	584	587				
	九州国立博物館	6,806	5,507	5,255	A		
	シンポジウム	3,849	1,555				
	特別展記念講演会	1,622	2,670				
	特別展連続講座	0	0				
	ミュージアム講座	50	186				
	ミュージアムトーク	1,285	1,096				
	放送大学の面接授業の実施(人)						
	奈良国立博物館	98	178	150	C		
	九州国立博物館	50	37	8	S		
	小中学校へのメールマガジンの配信(校)						
	奈良国立博物館	220	220	220	A		

(3) 快適な観覧環境の提供

【中期目標】国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管理運営を行い、入館者の期待に応えること。

- ①高齢者、身体障害者、外国人等を含めた入館者本位の快適な観覧環境を形成すること。
- ②入場料金及び開館時間の弾力化など、利用者の要望や利用形態等を踏まえた管理運営を行うこと。
- ③ミュージアムショップやレストラン等のサービスの充実を図ること。

【中期計画】

(3) 快適な観覧環境の提供

国民に親しまれる施設を目指し、入館者の立場に立った観覧環境の整備や利用者の要望を踏まえた管

【主な計画上の評価指標】

- 施設のバリアフリー化を進めること
- 利用者のニーズを踏まえ、入場料金や開館時間の弾力かなどの管理

	<p>理運営を行う。</p> <p>①施設のバリアフリー化を進め、高齢者、身体障害者、外国人等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供する。</p> <p>②一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。調査結果から入館者のニーズを把握し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善を行う。</p> <p>③ミュージアムショップやレストラン等のサービスについては利用者の意見を収集し、改善する。</p>	<p>運営の改善を行う</p> <p>○利用者の意見を踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等を改善すること</p> <p>【20年度評価における主な指摘事項】</p> <p>○入場者の増大もあり、混雑対策も限界に来つつある。炎天下の行列は大変であり、もう少し夜間展示を増やして観客の分散化を図ったり、日陰を作るなど工夫して欲しい。</p> <p>○来館者アンケートや満足度・意識調査だけでなく、外部の専門家を含む「第三者プロジェクトチーム」を結成するなど、新しい視点から改善策を講ずる時期に来ているのものと思われる。</p> <p>○寄託品で所有者が写真撮影を望まない展示物は、撮影不能となっているが、もう少し丁寧な説明ができないか検討して欲しい。</p> <p>○建物の制約はあると思うが、障害のある人や高齢者にやさしい施設を目指して取り組んでおり、地道な活動であるが、アジア諸国の範となって取り組んで欲しい。</p>		
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
2311	<p>(3) 快適な観覧環境の提供</p> <p>① 観覧環境の整備プログラム等の策定 (4館共通)</p> <p>特別展において音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入館者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 点字版パンフレット等を配布する。 2) 多言語による案内及び誘導サイン等を順次整備する。 3) より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備する。 4) 本館2階「日本美術の流れ」のテーマ解説及び主な展示作品の解説をまとめた日本語パンフレットを継続して作成し、配布する。 5) 外国人に「日本美術の流れ」展示を理解してもらうために、より基礎的な解説を盛り込んだ、英語、中国語、韓国語のカラーパンフレットを継続して制作・配布する。 	<p>(3) 快適な観覧環境の提供</p> <p>①観覧環境の整備プログラムの策定</p> <p>【東京国立博物館】</p> <p>○点字解説等の改訂 視覚障害のある方に構内を紹介するための、点字版パンフレットの作成に取り組み、本年度あらたに15部を増刷した。</p> <p>○手話通訳つきガイドツアーの試行 生涯学習ボランティアによるガイドツアー「たてもの散歩」において、手話通訳つきガイドを月1回開始した(9月19日、10月17日、11月21日、12月19日、1月30日、2月20日、3月20日)</p> <p>○社団法人東京都盲人福祉協会より視覚障害当事者を招き、ボランティア内「点字グループ」メンバーと、視覚障害者への博物館サービスについてヒアリングを行った(12月1日)。</p> <p>○「日本美術の流れ」鑑賞のため、4ヵ国語(日本語、英語、中国語、韓国語)パンフレットを制作</p> <p>・日本語：テーマ解説、主な展示作品の解説を収録するため、作品の</p>	A	順調

展示替えに応じて更新。

- ・英語、中国語、韓国語：日本美術の基礎知識を盛り込んだ外国語パンフレットを配布した。

○子供向けワークシート

見学のポイントを示し、書き込み、スケッチ等を促すシートを3種制作した。「本館見学マップ」「暮らしの道具今昔」「日本の伝統もよう」である。

○より快適な観覧環境を構築するため、展示照明を順次整備した。

- a. 本館特別5室 特別展『国宝 土偶展』のため、従来よりもレンズ仕様等の光学性能に優れたカッタースポットライトを補充し、展示効果の高い照明を行った。
- b. 明治期の「歴史的展示ケース」に光ファイバー照明を取付け、特別展『染付』等に使用した。

○音声ガイドによる情報提供

下記の特別展で実施した。(貸出数：21年度計 360,901件)

- ・特別展「国宝 阿修羅展」(4/1～) 173,192件(会期中3/31～: 174,903件)
- ・特別展「伊勢神宮と神々の美術」 25,147件
- ・特別展「染付—藍が彩るアジアの器」 5,716件
- ・特別展「皇室の名宝—日本美の華—」 85,665件
- ・特別展「国宝 土偶展」 15,938件
- ・特別展「長谷川等伯」 55,243件

○その他観覧環境の整備

- ・日ざしの強い日や夏季の特別展等の混雑時に、お客様の熱中症対策として、入場待ち及び敷地内移動用の日傘の貸出、日よけ用テント、給水所の設置を実施した。
- ・混雑時で雨天の場合は、傘立て置き場にテントを張り、利用時に濡れないように配慮した。
- ・混雑した特別展で、休日を中心に看護師の館内常駐を実施した。
- ・館内外の利用案内や展示紹介看板について、新規に作成し直して整備した。
- ・お客様への貸出用車いすを10台購入した。このうち4台は座高調節式にした。
- ・新型インフルエンザの流行を防ぐため、各展示施設入口に消毒用アルコールを設置し、各展示施設の案内カウンター等にマスクを常備し、希望されるお客様へ実費にて販売した。
- ・特別展の際に障がい者内覧会を開催した。(三菱商事株式会社と共

2312	<p>(京都国立博物館)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 快適な観覧環境を提供するための平常展示館の建替プログラムを推進する。 2) 6カ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、仏語、西語)リーフレットを継続して制作する。 3) 混雑が予想される展覧会について、入館者調整や陳列品の配置や音声ガイドの解説場所等の工夫を行い、展覧会場の快適な環境維持に努める。 	<p>催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招き、顧客対応研修会を実施した。 ・上野消防署の協力により、普通救命講習会および防災訓練を実施した。 <p>【京都国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平常展示館の建替に伴う南門売店増築工事が完了した。 ・平常展示館の建替工事に着手し建物解体工事が完了した。 ・6カ国語の「展示案内」リーフレットを制作した。 ・展示テーマごとに外国語(英語)パネルを設置した。 ・特別展覧会において音声ガイドによる展示解説を実施した。 ・特別展覧会において入館待ち時間の情報等をHP等できめ細かく発信し、観覧の便を図った。 ・来館されるお客様によりよい環境で観覧していただくため、HP等で展示室内での注意事項を掲載し、展示室内でのマナー向上について協力をお願いした。 ・当館職員並びに売店、レストラン従業員、(財)京都古文化保存協会学生ボランティアを対象として「マナー講習会」を開催し、接客技能の修得に努めた。 ・東山消防署の協力により、地域と連携した消防訓練を実施した。また、普通救命講習及びAEDの取扱講習会を開催した。 	A	順調
2313	<p>(奈良国立博物館)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設の計画的な整備を実施する。 2) 7カ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、仏語、独語、西語)リーフレットを継続して制作する。 	<p>【奈良国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本館、西新館、仏教美術資料研究センターの改修工事に着手。 ・「正倉院展」期間中に入場待ち列用テントを設置、看護師の館内常駐を実施。 また混雑緩和のため、入場者数を調整したり、11月1日は団体入場受付の取りやめを行ったり、混雑状況をホームページ等で情報提供した。 さらに、地元ボランティア団体と協力して外国人用案内ブースを設置、英語による案内を行った。 オータムレイト券購入者に記念品(第2回のポスターを模したしおり)を配布した。 ・新型インフルエンザの流行を防ぐため、消毒用アルコールを増設。 ・新たに客数情報システムを導入することにより、展示室内の観覧者数を正確に把握できるようにし、混雑時に適切な入場案内を行えるようにした。 ・特別展において音声ガイドの貸出を行い、入館者が展示内容に理解を深めながら観覧できるようにした。 ・ケース内の環境を保持し、展示品が鑑賞しやすいことを目的とし 	A	順調

2314	<p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 快適な観覧環境を提供するための展示施設等の調査・分析及び検討を進める。</p> <p>2) 7カ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、仏語、独語、西語)リーフレットを継続して制作する。</p>	<p>て、ケース内単独の調湿装置、発熱の少ないLED照明、光ファイバー、高透過低反射ガラスをそなえた独立ケースを3台新造した。</p> <p>・7カ国語リーフレットを制作した。</p> <p>【九州国立博物館】</p> <p>①特別展ごとに展覧会の内容のより深い理解を助けるための音声ガイドを作成した。</p> <p>特別展では、観覧者の理解を助けるための教育普及プログラムを実施した。</p> <p>②中国からの大規模団体客ツアーに対応するため、文化交流展示室の内容を紹介する中国語ガイドブックを作成した。</p> <p>③英語・中国語・韓国語による簡単な展示解説付マップを作成し、配布した。</p> <p>④リーフレットを引き続き7カ国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語)を作成した。</p> <p>⑤九博概要は新たに英語を追加し、4カ国語(日本語、英語、中国語、韓国語)とした。</p> <p>⑥大混雑した「国宝阿修羅展」において、休館日に障がい者の日を設けることで、障がい者の方にも静かな観覧環境を提供した。</p>	A	順調
2321	<p>② 一般入館者の満足度調査及び専門家の批評聴取</p> <p>一般入館者、専門家を対象に満足度調査を定期的実施し、調査結果を展示等に反映させるほか、必要なサービスの向上に努める。</p> <p>(4館)</p> <p>入館者のニーズを引き出すため入館者調査を実施し、その結果を改善に生かす。</p> <p>(京都国立博物館・奈良国立博物館)</p> <p>特別展等に関し、専門家の展覧会評を求め、広報誌等に掲載する。</p>	<p>②一般入館者の満足度調査及び専門家の批評聴取</p> <p>【東京国立博物館】</p> <p>○特別展アンケート</p> <p>すべての特別展で実施し、どの展覧会も75～80%と概ね高い満足度となった。</p> <p>また、「国宝 土偶展」から新規にタッチパネル式アンケートシステムを導入した結果、回収率が従来約3倍となった。</p> <p>○平常展満足度調査(21年4月1日～22年3月31日)</p> <p>回収サンプル数 997件 (日本語751件、英語193件、韓国語47件、中国語6件)</p> <p>満足度 80%(とても満足44%、やや満足36%、どちらともいえない6%、やや不満2%、とても不満2%、無回答10%)</p> <p>○「東京国立博物館来館者調査研究会」報告書の作成</p> <p>過去3年間の平常展満足度調査及び昨年度実施した非来館者意識調査の結果を、館内に設置した東京国立博物館来館者研究会において分析し、具体的な改善策を提言した。</p> <p>○「博物館における外国人見学者の受入れ体制に関する現状把握調査」への協力</p> <p>観光庁が実施した、外国語による情報提供の現状把握を目的とする現地調査及びグループディスカッションに全面的に協力し、課題点</p>	A	順調

2322		<p>等を整理した。</p> <p>【京都国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 入館者アンケートを実施 <ul style="list-style-type: none"> 特別展覧会「妙心寺」満足度 89% <ul style="list-style-type: none"> 回答数 918 件（良い 59%、まあまあ良い 30%、どちらともいえない 2%、あまり良くない 1%、良くない 1%） 特別展覧会「シルクロード—文字を辿って—」満足度 80% <ul style="list-style-type: none"> 回答数 696 件（良い 46%、まあまあ良い 34%、どちらともいえない 11%、あまり良くない 1%、良くない 4%） 特別展覧会「日蓮と法華の名宝」満足度 79% <ul style="list-style-type: none"> 回答数 1056 件（良い 57%、まあまあ良い 22%、どちらともいえない 4%、あまり良くない 1%、良くない 1%） 特別展覧会「THE ハブスブルク」満足度 90% <ul style="list-style-type: none"> 回答数 1955 件（良い 58%、まあまあ良い 32%、どちらともいえない 4%、あまり良くない 2%、良くない 1%） 特別展等に関する専門家の展覧会評を求め、「博物館だより」に掲載した。 	A	順調
2323		<p>【奈良国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平常展アンケート（全開館日） <ul style="list-style-type: none"> 回答数 1,633 件（良い 68.4%、普通 12.8%、良くない 5.7%、無回答 13.1%） 英語版平常展アンケート（全開館日） <ul style="list-style-type: none"> 回答数 70 件 特別展アンケート <ul style="list-style-type: none"> 「国宝 鑑真和上展」 <ul style="list-style-type: none"> 回答数 263 件（良い 90.2%、普通 4.9%、良くない 3.0%、無回答 1.9%） 「聖地寧波展」 <ul style="list-style-type: none"> 回答数 106 件（良い 75.4%、普通 15.1%、良くない 6.6%、無回答 2.9%） 「第 61 回正倉院展」 <ul style="list-style-type: none"> 回答数 1,091 件（良い 79.3%、普通 12.8%、良くない 5.4%、無回答 2.5%） 特別展について、専門家の展覧会評を「博物館だより」に1回掲載 	A	順調
2324		<p>【九州国立博物館】</p> <p>①館内に設置しているアンケート調査から得られた意見・要望に対して、可能なものについては改善を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 平常展アンケート（満足度） 回答数 568 件 <ul style="list-style-type: none"> （とても良い 38%、良い 28%、普通 13%、あまりよくない 5%、よく 	A	順調

		<p>ない4%、未記入他12%)</p> <p>②昨年度に引き続き、来館者が利用するエリアを中心に、ユニバーサルデザインの視点に立って既存施設の点検を行った。今年度に整備できた事項としては、階段の識別性向上、トイレのサイン設置・改善、トイレのターゲットシール貼りなどがあげられる。施設整備の面では、一層のレベルアップが図られ、来館者サービスの向上につながることができた。</p>		
2331	<p>③ ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実 ミュージアムショップやレストランの利用者等の意見を把握し、関係者との協議のうえ、利用者サービスの向上に努める。 (東京国立博物館)</p> <p>1) オリジナルグッズを開発し、サービス向上に努める。</p>	<p>③ ミュージアムショップやレストラン等館内環境の充実 【東京国立博物館】 ミュージアムショップやレストラン等の利用者サービスの向上に努めた。また、ミュージアムショップに関連した企画等に協力した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミュージアムショップを運営する東京国立博物館運営協力会(以下「協力会」という。)&「ミュージアムショップグッズ開発等会議」を開催し、商品の充実及びオリジナル商品の製作について協議・検討を行った。 ・新たな絵はがきについて、3年計画中3年目の今年度は、32種類を製作した。 ・書道博物館と連携した特集陳列「趙之謙」の開催期間中、書道博物館のオリジナルグッズを販売し、当館と他館との連携事業に協力した。 ・ミュージアムシアター企画「洛中洛外図」にあわせたリーフレットを販売し、当館と企業との連携事業に協力した。 ・収蔵品をモチーフとした紙袋を1種、本館の装飾をモチーフとした包装紙2種および紙袋2種をあらたに製作し、サービスの向上に努めた。 ・レストランでは、正月にお年玉プレゼントや甘酒の振る舞いサービスの実施、展覧会にあわせメニューを変える等サービスの向上に努めた。 	A	順調
2332	<p>(京都国立博物館)</p> <p>1) ミュージアムショップのリニューアルを行い、サービス向上に努める。 2) レストラン利用者にアンケート調査を行いサービス向上に努める。</p>	<p>【京都国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当館の観覧者サービスの一環として欠かせないものとしてミュージアムショップやレストランがある。これらの運営は、当館が主体となって運営すべきであるが、人員や財源等の問題から長年に亘って外部業者に委託を行っている状況にある。また、今年度からインフォメーションコーナーを設け、南門施設として、ミュージアムショップとともにリニューアルさせた。これにより、3施設とも入場券のないお客様にも利用可能となった。 ・利用者と直に接する南門施設の従業員を対象に接客研修を行った。 	A	順調

2333	<p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) オリジナルグッズを開発し、サービス向上に努める。</p> <p>2) ミュージアムショップのホームページをリニューアルし、利用促進に努める。</p>	<p>【インフォメーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展覧会関係及び京都観光などのチラシを配置し、各種の案内を行っている。 ・館外に案内所を設け、入場券が無くても利用していただける施設とし、当館の案内だけでなく、京都市観光協会の協力を得て、京都市内の観光案内等も行うことで利用者に喜んでいただいている。 <p>【ミュージアムショップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵はがき販売総数は 350 種類におよび、そのうち当館所蔵品をデザインとして監修した絵はがき数は 159 種類に上っている。 ・当館とミュージアムショップが協力し、オリジナルグッズとして収蔵作品のクリアファイル、また、新商品としてグリコお菓子の詰合せを販売し好評を得ている。 <p>【レストラン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新メニューを取り扱うことで利用者へのサービスを図った。 ・33種類のパフェを揃え、利用者の要望に応えた。 <p>【奈良国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「正倉院展」では常設のレストラン及びミュージアムショップ以外に、敷地内に飲食店やグッズ販売等のショップが出店した。また、奈良県と連携して地下回廊で県内において生産された物産品を販売する等、地域経済に貢献した。 ・平城遷都 1300 年にちなんでミュージアムショップで記念グッズの取扱量を増やした。 ・博物館のホームページリニューアルに伴い、ミュージアムショップの部分を全面改訂し、閲覧者に商品情報及び通信販売方法をわかりやすく工夫した。 ・ミュージアムショップで博物館監修のオリジナルグッズを販売し、今年度も新商品を追加した。 	A	順調
2334	<p>(九州国立博物館)</p> <p>1) オリジナルグッズの開発や特別展に関連した商品の提供など、サービスの向上に努める。</p> <p>2) 特別展に関連した特別メニューを提供するなど、サービスの向上に努める。</p>	<p>【九州国立博物館】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ミュージアムショップでは、特別展、文化交流展の展示内容に即した商品陳列を行い、オリジナル商品の陳列面積を増やすとともに地場産業のお菓子・グッズなどを提供した。 ② レストランでは、特別展に関連したメニューを期間限定で提供した。 	A	順調

3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

(1) 収蔵品等に関する調査研究成果の発信

【中期目標】 収蔵品等に関する調査研究成果を多様な方法により積極的に公表し、広く博物館関係者の知見の向上に資すること。				
【中期計画】		【主な計画上の評価指標】		
(1) 収蔵品等に関する調査研究成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関わる刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー、シンポジウムを開催する。		○刊行物の発行、学会、インターネット、各種セミナー、シンポジウムを通じて研究成果を広く公表すること。		
処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
3111	(1) 調査研究成果の発信 (東京国立博物館) 1) 博物館情報アーカイブを運用し、収蔵品・調査研究等に関する情報公開の充実を図る。→(処理番号 6611 参照) 2) 国際的な講演・研究集会を開催する。→(処理番号 3211 参照) 3) 紀要・図版目録等を刊行する。 4) 修理報告書を刊行する。 5) 法隆寺献納宝物調査概報を刊行する。 6) 研究誌「MUSEUM」(年6回)を刊行する。	(1) 調査研究成果の発信 【東京国立博物館】 定期刊行物(研究誌『MUSEUM』・紀要・図版目録・修理報告書・法隆寺献納宝物調査概報・研究図録)6件、特別展図録・特集陳列印刷物(特別展図録『染付一藍が彩るアジアの器』・『趙之謙とその時代～趙之謙生誕百八十年記念展』等)10件、特集陳列リーフレット(古代ガラスの発達「吹きガラス」への道等)3件、その他(『東洋美術100選』英語版・中国語版)2件を刊行した。これらの出版物により、国内外に広く当館の収蔵品に関する調査研究成果を発信することができた。 【京都国立博物館】 ・仏教美術に関するシンポジウム「予言と調伏のかたち」を開催(10/23) ・研究紀要「学叢」第31号を刊行 ・社寺調査の成果を盛り込んで特別展覧会「妙心寺」を開催し、図録を刊行した ・修理報告書を刊行した(1本) ・社寺調査の成果を盛り込んで特別展覧会「日蓮と法華の名宝」を開催し、図録を刊行した ・サンクトペテルブルクにおける調査を盛り込んで特別展覧会「シルクロード 文字を辿って」を開催し、図録を刊行した ・ウィーンにおける調査成果を盛り込んで特別展覧会「THE ハプスブルク」を開催し、図録を刊行した 【奈良国立博物館】 ・研究紀要「鹿園雑集」を刊行し、同誌及び各種の学術誌において、研究員各自の収蔵品等に関する調査研究成果を発表した。 ・上掲の三つの特別展覧会中に、「鑑真和上・唐招提寺フォーラム 2009」(5月2日、神戸新聞松方ホール、参加者数 385名)、正倉院学術シ	A	順調
3112	(京都国立博物館) 1) 仏教美術に関するシンポジウムを開催し、報告書を刊行する。 2) 特別展覧会関連事業として国際シンポジウムを開催する。→(処理番号 3212 参照) 3) 研究紀要「学叢」を刊行するとともに、学術研究公開の一環として既刊分を順次ウェブサイトで公開する。 4) 社寺調査報告書を刊行する。 5) 文化財修理報告書を刊行する。 6) 社寺調査の成果を盛り込んで特別展「日蓮と法華の名宝」を企画し、併せて図録を作成する。		A	順調
3113	(奈良国立博物館) 1) 研究紀要「鹿園雑集」を刊行し、ウェブサイトで公開する。 2) 正倉院展に因むシンポジウムを開催する。 3) 国際的な講演・研究集会を開催する。→(処理番号3213参照) 4) 文化財修理報告書刊行のため、資料整理等を実施する。		A	順調

3114	(九州国立博物館)	<p>5) 入場無料ゾーンを利用し、調査研究活動実績をパネル等で公開する。</p> <p>1) 研究紀要「東風西風」の刊行 2) 国際的な講演・研究集会の開催 3) 文化財修理に関する印刷物の刊行 4) 保存修復活動の成果を教育普及事業に反映させる。</p>	<p>ンポジウム「皇室と正倉院宝物」(10月31日、奈良県新公会堂、参加者数184名)を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度に引き続き、当館紀要「鹿園雑集」12号(平成22年3月発行)に「奈良国立博物館文化財保存修理所 修理一覧(平成20年度)」を掲載した。併せて修理報告資料を整理した。 前年度に引き続き、ホームページ上で研究紀要『鹿園雑集』のバックナンバーを公開し、また文化財保存修理所で修理した文化財を、入場無料ゾーンを利用し写真パネル等で展示した。 『国宝 鑑真和上展』(特別展図録)、『聖地寧波ー日本仏教1300年の源流』(特別展図録)、『第61回正倉院展』(特別展図録)、『The 61th Annual EXHIBITION OF SHOSO-IN TREASURES』(特別展英語版図録)、『おん祭と春日信仰の美術』(特別陳列図録)、以上5冊の展覧会目録を刊行した(以上は全て作品解説付き、展覧会担当者の総論や各論等を掲載)。 読売新聞「鹿園観照ー奈良国立博物館で見る名宝」及び産経新聞に「祈りの美」を連載し、展示作品について定期的な紹介を行った。また特別展覧会開催期間中にも読売新聞・朝日新聞紙上で出陳品紹介の連載を行った。 <p>【九州国立博物館】</p> <p>①CTスキャン調査研究成果の報告 研究発表(当館紀要および関連学会)、講演、テレビ番組『東風西声』第4号(当館紀要) 文化財保存修復学会大会第31回大会 6月13・14日 日本文化財科学会大会第26回大会 7月11日・12日 東アジア文化遺産保存学会 10月16日 中国考古学会 10月31日</p> <p>②ハノイ・ベトナムフェア関連イベント「ベトナム文化講演会」 ベトナム歴史博物館及び国内からベトナムに関する研究者を招聘し、ベトナム陶磁、ドンソン時代の青銅器、世界遺産ホイアン、九博所蔵文書とベトナム史に関する講演会を開催。</p> <p>③トピック展示「進化する博物館Ⅱ」平成22年2月9日～3月28日</p> <p>④トピック展示「巨大掛軸をめぐる文化交流」の開催と図録刊行。 展覧会は平成22年2月21日から3月28日。</p> <p>⑤研究紀要『東風西声』第5号を刊行(3月発行)</p>	A	順調					
						<table border="1"> <thead> <tr> <th>定量評価</th> <th>21年度</th> <th>20年度</th> <th>目標値</th> <th>評定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究誌の刊行 東京国立博物館(MUSEUM)</td> <td>6回</td> <td>6回</td> <td>6回</td> <td>A</td> </tr> </tbody> </table>	定量評価	21年度	20年度	目標値
定量評価	21年度	20年度	目標値	評定						
研究誌の刊行 東京国立博物館(MUSEUM)	6回	6回	6回	A						

(2) 海外研究者の招聘

【中期目標】 国内外の博物館関係者との研究会の開催や研究者の交流等を行い、国際的な博物館の拠点となることを目指すこと。				
【中期計画】 (2) 海外の優れた研究者を招聘し国際シンポジウムを開催するなど博物館活動に対する示唆が得られるよう努める。		【主な計画上の評価指標】 ○海外の優れた研究者を招聘し、博物館活動に対する示唆を得ること。 【20年度評価における主な指摘事項】 ○今後は、研究者が対象者限定として受け入れられたのかなど、交流の「背景」についてもわかり易く説明して欲しい。また、全体に「短期」なものが目立つが、評価指標として「人数」だけでなく、「滞在延日数」を使うことも検討して欲しい。		
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
3210	<p>(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施 (国立文化財機構) 日中韓国立博物館長会議、ANMA理事会・定期大会、アジア博物館研究集会を東京及び福岡で開催する。</p> <p>(4館共通) 1) 海外の博物館・美術館等の研究者を招へいし、海外の研究者との交流を促進する。(20人程度：東京6、京都5、奈良6、九州3) 2) 当館職員を海外の博物館・美術館等に研究交流並びに研修のため派遣する。(22人程度：東京6、京都6、奈良6、九州4)</p>	<p>(2) 海外研究者の招聘等研究交流の実施 【国立文化財機構】 ・文化庁と国立文化財機構の共催事業として「アジア博物館研究集会」を開催し、アジアの伝統文化と世界への発信をテーマに、10カ国・12名によるスピーチと、5カ国・6名によるパネルディスカッションを行った。海外参加者数：17ヶ国・地域、27館、40名。 ・自国の伝統文化をどのように保護し、次世代へ継承していくのか、アジア伝統文化をどのように世界に発信するのかについて、相互に情報共有し、またその重要性を再確認する場となった。</p>	A	順調
3211-1	<p>(東京国立博物館) 1) 外国人研究員・外国人研修生を受け入れる。(2人程度) 2) 諸外国における国際会議、研究集会等へ積極的に参加する。</p>	<p>【東京国立博物館】 海外より計26名の研究者を招へいし、当館研究員延べ16名を海外に派遣して、展覧会事業の推進および学術交流を行った。また、日中韓国立博物館長会議、アジア国立博物館協会理事会・定期大会およびアジア博物館研究集会の主催館として、日中韓三館の協力体制を確認するとともに、アジアの国立博物館間における連携を深めた。海外参加者数：17ヶ国40名。 さらに、韓国より1名、スコットランドより1名研修生を受け入れ、博物館の運営・活動について、当館のノウハウを学んでいただく機会を提供した。</p>	A	順調
3211-2				

3212	<p>(京都国立博物館)</p> <p>1) 諸外国における国際会議へ積極的に参加する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際シンポジウムの開催 「伝統文化を伝えるために博物館ができること」というテーマで1月24日に開催した。伝統文化はどの国でも人々にとって縁遠いものになりつつあるが、国の特色を示すものとして、保護、継承が望まれる。伝統的な美術工芸作品を所蔵、展示する博物館は、そのために努力しているが、観覧者と作品の間に横たわる溝を埋めるのは容易でない。有効な方法を、事例報告、パネルディスカッション、ポスターセッションによって探ろうと企図したものである。 【京都国立博物館】 ・海外からの研究者の招聘 29名 ・海外への研究員の派遣 13名 うち、国際会議への派遣 3名 ・国際シンポジウム「法華の人と文化―その行動と思想―」(11/14)を開催 ・文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業「中国近代絵画に関する国際研究交流」を推進。ワークショップ「中国近代絵画研究者国際交流集会」を開催した(12/16-17) 	A	順調
3213	<p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) 国際交流協定を締結している博物館を中心として、海外の博物館との交流を活発に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【奈良国立博物館】 ・国際交流協定を結んでいる4館のうち3館との間で研究員の招聘及び派遣を行い、文化財の調査研究を実施した。内訳は中国・上海博物館(館員3名を6日間)、中国・河南博物院(研究員2名を1ヶ月間)、韓国国立慶州博物館(研究員1名を各1ヶ月間)である。 ・正倉院展開催に際し、韓国国立慶州博物館から館長ほか1名を招聘、正倉院宝物の保存管理や日韓両国の文化財行政等について意見交換を行った。 ・特別展「聖地寧波」における海外からの文化財借用に際し、外国人研究者(米国4名、中国6名、韓国4名)をクーリエとして、また中国・浙江省の文化財関係者4名を代表団として受け入れ、同展出陳作品及び文化財の管理・展示等に関する情報交換を活発に行った。 ・特別展「聖地寧波」会期中の8月8日・9日に実施した国際学術シンポジウム「舍利と羅漢―聖地寧波をめぐる美術―」では、外国人研究者4名(米国・中国・台湾)が司会・研究発表を担当した。 ・特別展「聖地寧波」の事前調査のために中国・浙江省に4名の研究員を派遣し、開催に際してはクーリエとして4名の研究員を中国・韓国に派遣した。併せて今後の両国における文化財調査に向けた情報収集を行った。 ・特別展「第61回正倉院展」では正倉院宝物の源流をシルクロード 	A	順調

3214	(九州国立博物館) 1) 国際交流活動推進へ向けての基盤を整備するとともに海外博物館等との交流を実施する。 2) 海外の文化財研究者や修理技術者を招聘し、文化財保存修復施設を活用した専門的な国際交流セミナーやワークショップを開催する。	に探る取材のため研究員を派遣し、パネル展示や連載記事に協力した。 ・22年度の特別展「平城遷都1300年記念 大遣唐使展」開催の事前調査のため中国にのべ2名の研究員を派遣し、中国で制作された関連作品を主たる対象とした事前調査・資料収集を行った。 【九州国立博物館】 ①海外研究者の招聘(37人) ・JICA草の根技術協力事業「文化財の保存と地域の活性化」研修生受け入れ ・ベトナム文化講演会による招聘 ・平成21年度文化庁 アジア諸国博物館・美術館研究協力事業による招聘 ・平成21年度九州国立博物館文化財保存国際交流セミナーへの招聘 ・国際シンポジウムによる韓国研究者の招聘 ②海外への研究者派遣(46人) ・ベトナム民族博物館での中秋節イベントへの協力 ③国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流ー祈りのかたち日本と韓国ー」開催	A	順調																																																													
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>定量評価</th> <th>21年度</th> <th>20年度</th> <th>目標値</th> <th>評定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>海外研究者招聘(人)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>26</td> <td>15</td> <td>6</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td>29</td> <td>9</td> <td>5</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td>29</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>九州国立博物館</td> <td>37</td> <td>18</td> <td>3</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>外国人研究員・研修生の受入れ(人)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>研究員派遣(人)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>16</td> <td>25</td> <td>6</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td>13</td> <td>18</td> <td>6</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td>30</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>九州国立博物館</td> <td>46</td> <td>35</td> <td>4</td> <td>S</td> </tr> </tbody> </table>			定量評価	21年度	20年度	目標値	評定	海外研究者招聘(人)					東京国立博物館	26	15	6	S	京都国立博物館	29	9	5	S	奈良国立博物館	29	9	6	S	九州国立博物館	37	18	3	S	外国人研究員・研修生の受入れ(人)					東京国立博物館	2	4	2	A	研究員派遣(人)					東京国立博物館	16	25	6	S	京都国立博物館	13	18	6	S	奈良国立博物館	30	6	6	S	九州国立博物館
定量評価	21年度	20年度	目標値	評定																																																													
海外研究者招聘(人)																																																																	
東京国立博物館	26	15	6	S																																																													
京都国立博物館	29	9	5	S																																																													
奈良国立博物館	29	9	6	S																																																													
九州国立博物館	37	18	3	S																																																													
外国人研究員・研修生の受入れ(人)																																																																	
東京国立博物館	2	4	2	A																																																													
研究員派遣(人)																																																																	
東京国立博物館	16	25	6	S																																																													
京都国立博物館	13	18	6	S																																																													
奈良国立博物館	30	6	6	S																																																													
九州国立博物館	46	35	4	S																																																													

(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施

【中期目標】国内外の文化財の修理・保存処理の充実に寄与すること。

【中期計画】

(3) 博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。

【主な計画上の評価指標】

○博物館等関係者や修理技術関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施すること

処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
3311	(3) 保存修理者への研修プログラム 保存修理事業者を対象とした研修会を開催するとともに、インターンの受け入れや保存修理事業者と協力した研修会を開催する。	(3) 保存修理者への研修プログラム 【東京国立博物館】 1. 特定非営利活動法人文化財保存支援機構が主催する専門家セミナーに東京国立博物館が共催し、東京国立博物館を会場として「第1回文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠ（後期）」（平成21年8月3日（月）～14日（金）の10日間）、及び「第2回文化財保存修復専門家養成実践セミナー・レベルⅠ（前期）」（平成21年8月31日（月）～9月11日（金）の10日間）を開催した。東京国立博物館は講師・プログラムの選定、およびセミナー会場としての修理施設の提供を行った。本セミナーの対象は、社会で活動している文化財保存修復専門家及び専門家を目指す学生である。内容としては、国内外で活躍できる高度な能力を持つ専門家を育成するために、基礎能力の格段の向上を目指すものであり、既に現場で活躍している講師陣による実践セミナーである。 2. 平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業により「古代染織品の保存・活用に関する国際研究交流」を12月15日～20日に実施し、国内外の専門家による作品調査会、専門家によるワークショップ及び一般参加者も含めた国際シンポジウムを開催し、古代染織品についての保存に関して理解を深めた。 3. 文化財保存修復学会との共催により、公開シンポジウム「文化財をまもるー文化財のまもり手を育てるー（文部科学省科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公开发表（B）」）」を開催した。 4. 文化財保存修復学会との共催により、特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」展にちなみ修理技術者を対象にした研修会を3月20日（土）に開催。「十六羅漢図」の修理事例及び「国宝阿修羅」の輸送事例の発表、特集陳列の解説を実施した。 5. 大学院生のインターンを平成22年2月8日（月）～19日（金）間での間、2名受け入れた。	A	順調
3312		【京都国立博物館】 ・毎月1回文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、修理技術者に指導・助言を行った。また、2か月に1回修理技術者と当館との定例会議を開催した。 ・当館にて開催の特別展覧会において修理技術者に対する定例の研修会を実施した。 参加者 「妙心寺」展 52人 「シルクロード文字を辿って」展 39人	A	順調

3313		<p>「日蓮と法華の名宝」展 39人 「THE ハブスブルク」展 25人</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財修復に関わる大学院生のインターンシップ実習を実施し、報告書を作成した。 参加大学院生：3名 <p>【奈良国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○修理所巡回を一年のうち6回実施した。館長、副館長及び学芸部研究員が修理所の各3工房を視察した。修理途中の文化財の修理状況を継続的に観察し、修理の工程を広く知る場を設け、館全体の修理の認識を高めることに努めた。 ○平成22年2月15日(月) 午後5時から6時30分。当館講堂。文化財保存工房の絵画書跡の修理状況について、近年の実績のなかから、春日曼荼羅(愛知県美術館)、泉福寺経(当館蔵)の修理を取り上げ、修理品の概要、修理中の調査及び新知見、修理方針、修理技術などについて、パワーポイントを駆使して発表し、他の修理所工房のスタッフ、学芸部研究員と討議を行い、文化財修理に対する多様な価値観及び思想について見識を深めた。あわせて解説ボランティアも傍聴し、修理に関する理解を深めることが出来た。 	A	順調
3314		<p>【九州国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①紙文化財保存基礎講座 <ul style="list-style-type: none"> a 文化財保存修復研修(地元大学の文化財保存技術専攻学生7名対象)8月17~21日 b 古文書保存基礎講座(地元博物館文化財関係者17名対象)1月20日、27日 ②文化財保存交流セミナー <ul style="list-style-type: none"> a 「漆工品の保存修復」7月14日 参加者61名 b 「IPM・もっと知りたいシリーズ 甲虫の話」22年2月28日(日) ③文化財保存国際交流セミナー <ul style="list-style-type: none"> a 「海外招聘事業 韓国の装こう修理」12月22日 参加者16名 b 「海外招聘事業 ベトナムの手漉き紙」22年2月5日 参加者18名 c 「中国古代青銅器の鑄造技術を探る」22年2月27日 ④ミュージアム支援者育成事業(文化庁受託事業) <ul style="list-style-type: none"> 「市民と共にミュージアム IPM」 研修会4回、ワークショップ4回、施設見学4回、シンポジウム1回 登録者50名 	A	順調

(4) 公私立の博物館等への貸与の推進

【中期目標】 収蔵品の地方における観覧の機会を確保するため、貸与に関する情報を公開するなど、収蔵品の貸与を推進すること。				
【中期計画】		【主な計画上の評価指標】		
(4) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、公私立の博物館等に対し、展示等の充実に寄与するため貸与を推進する。収蔵品の貸与については、貸与に関する情報を公開するなど具体的措置を講ずることとする。		○公私立博物館等に対する支援のため、収蔵品の貸与に関する情報を公開すること		
		【20年度評価における主な指摘事項】 ○今後は貸与に関する情報公開を一層進めて欲しい。		
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
3411	(4) 収蔵品の貸与 (東京国立博物館) 1) 国内の博物館等で開催する展覧会へ収蔵品を1,000件貸与する。 2) 長崎歴史文化博物館の平常展示のため、引き続き約80件を長期貸与する。 3) 海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ50件貸与する(海外交流展出品作品を含む)。 4) 国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。	(4) 収蔵品の貸与 【東京国立博物館】 ・国内の公立・私立の博物館が実施した特別展および平常展示に、列品および寄託品を多数貸与した。 ・考古資料相互貸借事業は、二つの博物館と協力して実施した。 ・平成17年度に始まった長崎歴史文化博物館に対するキリシタン関係遺物約80件の長期貸与は本年度も継続して実施中である。同館への貸与品と、九州国立博物館への長期管理換品、そして当館での展示品とがそれぞれ一定の質を保つよう、調整している。 ・イタリア共和国ミラノ市のパラッツォレアーレで開催された「日本・その力と輝き 1568-1868」に、「特別協力」の立場で参加し、展覧会開催に貢献した。 ・韓国国立中央博物館の平常展示のため、平成22年2月に東南アジアの彫刻5件を貸与した。貸与期間は2年間の予定である。 平成18年度以降貸与先件数・貸与件数とも連続して減少している。地方自治体等の財政難による展覧会規模の縮小が背景にあると思われる。	B	順調
3412	(京都国立博物館) 国内外の博物館等へ収蔵品を貸与する。(約120件)	【京都国立博物館】 ・68機関に対し428件の収蔵品貸与を行った。(うち海外2機関に対し28件) 館蔵品の貸与件数：201件 寄託品の貸与件数：227件 計 428件 ・ウェブページでの「貸出作品リスト」の公開	A	順調
3413	(奈良国立博物館) 国内外の博物館等へ収蔵品を貸与する。(約100件)	【奈良国立博物館】 ・館蔵品と寄託品の貸出は、展覧会にして34件、作品件数にして108件。	A	順調

3414	(九州国立博物館) 収蔵品の充実に努め、貸与の体制を整備する。	[貸与先内訳] (のべ) 国立 3 館、公立 23 館、私立 6 館、その他 2 館	A	順調		
		[貸与作品内訳] 国宝 7 件、重要文化財 42 件、その他 59 件 館蔵品 54 件 (絵画 15 件、彫刻 3 件、書跡 5 件、金工 5 件、考古 26 件) 寄託品 54 件 (絵画 32 件、彫刻 12 件、書跡 4 件、金工 1 件、漆工 1 件、考古 4 件)				
		【九州国立博物館】 国内 14 機関・海外 1 機関に所蔵品および借用品を貸与した。				
		定量評価	21 年度	20 年度	目標値	評価
		収蔵品の貸与件数(件)				
		東京国立博物館	1,104	1,205	1,180	B
		国内展覧会への貸与	913	1012	1,000	B
		うち長崎歴史文化博物館	80	80	80	A
		海外展覧会への貸与	192	113	50	S
		京都国立博物館	428	246	120	S
		奈良国立博物館	108	163	100	A
		九州国立博物館	89	105	—	—

(5) 公私立博物館等に対する援助・助言

【中期目標】 全国の博物館等の運営に対する援助、助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努めること。				
【中期計画】 (5) 公私立博物館等に対する援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。なお、援助・助言の実施については今期 5 年間の実績が前中期目標期間の実績を上回るよう努める。		【主な計画上の評価指標】 ○公私立博物館等に対する援助・助言の実績が前中期目標期間の実績を上回ること。 【20 年度評価における主な指摘事項】 ○展覧会・審議会・講演のケースが多いが、助言の成果も報告して欲しい。		
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
3511	(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進 (4 館共通) 公私立の博物館・美術館が開催する展覧会及び運営等の援助・助言をする。 (東京国立博物館) 新規貸与館に対する環境調査は、東京文化財研究所と協力して指導助言を行う。	(5) 公私立博物館・美術館等に対する援助・助言の推進 【東京国立博物館】 文化庁や地方公共団体等の文化財関係事業にて協力 (78 件)	A	順調

3512	(京都国立博物館) 「京都国立博物館所蔵 日本のこころ 美の神髄」(仮称)(富山県水墨美術館)	文化財の展示にかかる指導助言(12件) 講演会やセミナー等における講演等での協力(37件) 作品の展示・保存環境についての調査・指導(12件)	A	順調																										
		【京都国立博物館】 文化財の展示、修理にかかる指導助言(18件) 文化財の調査にかかる指導助言(31件) 講演会、セミナー等における講演等での協力(17件) 地方公共団体の文化財保護審議会等会議にて協力(48件)																												
3513	(奈良国立博物館) 「石山寺の美—観音・紫式部・源氏物語」(富山県立水墨美術館、浜松市美術館、北九州市立美術館)	【奈良国立博物館】 ・「石山寺の美 観音・紫式部・源氏物語」(富山会場=富山県水墨美術館、21年4月4日~5月17日、石山寺・本展実行委員会主催。浜松会場=浜松市美術館、同7月18日~8月23日、同館・静岡新聞社・静岡放送・石山寺主催。北九州会場=北九州市立美術館、同9月12日~10月18日、同館・石山寺・毎日新聞社主催)において学術協力を行い、出陳作品の選定・集荷・陳列・保存・返却の助言ならびに補助、目録の編集協力等を行い、展覧会全般に関して協力援助を行った。 ・「信貴山秘宝展」(名鉄百貨店本店、10月8日~13日)において学術協力を行い、集荷・陳列・撤収・返却の指導及び作品解説執筆などを行い、展覧会全般に関して協力援助を行った。	A	順調																										
		【九州国立博物館】 公私立博物館等で開催された研究会および講演会において指導・助言を行った。																												
3514	(九州国立博物館) 地域の自治体と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。		A	順調																										
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>定量評価</th> <th>21年度</th> <th>20年度</th> <th>目標値</th> <th>評定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公私立博物館・美術館への指導助言(件)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>139</td> <td>134</td> <td>40</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館</td> <td>114</td> <td>114</td> <td>12</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td>25</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>九州国立博物館</td> <td>39</td> <td>47</td> <td>12</td> <td>S</td> </tr> </tbody> </table>			定量評価	21年度	20年度	目標値	評定	公私立博物館・美術館への指導助言(件)					東京国立博物館	139	134	40	S	京都国立博物館	114	114	12	S	奈良国立博物館	25	5	5	S	九州国立博物館
定量評価	21年度	20年度	目標値	評定																										
公私立博物館・美術館への指導助言(件)																														
東京国立博物館	139	134	40	S																										
京都国立博物館	114	114	12	S																										
奈良国立博物館	25	5	5	S																										
九州国立博物館	39	47	12	S																										

4 文化財に関する調査及び研究の推進

(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

【中期目標】 文化財の各分野に関する基礎的・体系的な調査及び研究や、総合的な視点に基づく文化財の調査研究手法の開発等を推進することにより、国及び地方公共団体における文化財保護施策の企画立案及び文化財の評価等に係る業務の基盤形成に寄与すること。
特に、文化財保護法の改正によって新たに保護の対象となった文化的景観、民俗技術などに関する調査及び研究を推進し、今後の指定等の業務に係る基礎的な知見を形成すること。

【中期計画】

(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。

- ①文化財保護法の一部改正に伴い新たに保護対象となった文化的景観、民俗技術に関する基礎的・体系的な調査・研究を実施し、今後の指定をはじめとする保護施策に関する資料と指針を提供する。
- ②我が国の有形文化財及びそれに係る諸外国の文化財に関し、以下の課題に重点的に取り組む。
 - i 日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性の解明
 - ii 我が国における近現代美術の歴史の解明
 - iii 美術や文化財に対する理解を深めるための美術の創作のプロセスの解明
 - iv 古都所在寺社所蔵の歴史資料・書跡資料等に関する原本調査を通じた日本の歴史、文化の研究
 - v 歴史的建造物の保存・修復・活用に関し重点物件に係る調査・研究を通じた基礎データの収集整理・公開
- ③我が国の古典芸能及び伝統的工芸技術等の無形文化財の伝承実態を把握するとともに、その伝承・公開の基礎となる技法・技術を明らかにする。
- ④我が国の風俗習慣、民俗芸能、民俗技術など無形民俗文化財の現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等を明らかにするとともに、各地の保存団体や保護行政担当者等とこれら研究成果及び問題意識の共有化を図り、「無形民俗文化財の映像記録作成ガイドライン(仮称)」等の指針を作成し公表する。
- ⑤平城京、藤原京、飛鳥地域を中心とした我が国及び関連する中国・韓国等諸外国の遺跡の発掘調査並びに共同研究を行うとともに、出土品・遺構の調査研究及び庭園等に関する基礎的な調査・研究を実施し、それにより古代日本の都城の構造及び建造物の様式並びに瓦・陶磁器・金属器等の手工業生産技術の実態やその変遷過程、庭園等の変遷過程、飛鳥地域の歴史等の解明に寄与する。
- ⑥遺跡の保存・整備・活用に関する一体的な調査・研究、技術開発の推進及び整備事例のデータベース化等により、個々の遺跡の現況に応じた適切な保存修理・整備に資する。また、これに関連して、平城宮跡・藤原宮跡の整備・公開・活用に関する調査・研究を行い、文化庁が行う平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡の整備・復原事業に関して、専門的・技術的な協力・助言を行う。

【主な計画上の評価指標】(1)～(5)共通

- 中期計画に示された課題や文化財保護政策のニーズに沿って、研究の目的、テーマを適切に設定すること。
- それぞれの調査研究を計画に沿って適切に実施すること。また、我が国の文化財保護政策上、緊急に保存修復の措置等が必要となった場合において、必要な実績的調査研究を迅速かつ適切に実施すること。
- 調査研究の成果により我が国の文化財保護政策に寄与するとともに、学術雑誌等への論文の掲載、学会、研究会での発表、データベースの追加等により定量的観点からも調査研究の成果を確保すること。

【20年度評価における主な指摘事項】(1)～(5)共通

- 運営費交付金の枠内における研究費の増額に加え、競争的資金の取得戦略を機構全体で立てて、着実に進めて欲しい。
- 災害時に対応した文化財地理情報システムの開発成果をより一層関係者に知らせ、面的な更なる普及を望む。

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
	(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究	(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進		

4111	<p>や研究交流も含めて以下の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。</p> <p>① 文化財保護法の一部改正に伴い新たに保護対象となった文化的景観、民俗技術に関する基礎的・体系的な調査・研究を実施し、今後の指定をはじめとする保護施策に関する資料と指針を提供する。</p> <p>ア 文化的景観の体系化や保護策に関する研究の一環として、文化的景観に関する基礎資料集を作成するとともに、文化的景観の計画論に関する研究集会を開催する。また、ケーススタディーとして高知県四万十川流域の文化的景観に関する調査研究報告書の作成を進める。</p>	<p>①ーア 文化的景観に関する調査研究</p> <p>文化的景観に関する基礎的な情報の収集、四万十川流域や宇治の文化的景観に関する現地調査等を通じて、文化的景観の価値評価、保存計画立案、整備・活用事業の基本的な考え方を整理し、報告書・論文・Web サイトを通じて成果を報告した。また、文化的景観研究集会(第2回)を開催し、価値評価と計画策定の考え方につき情報発信するとともに、昨年度開催の研究集会(第1回)の成果報告書を刊行した。</p>	A	順調
4112	<p>イ 民俗技術に関して、都道府県・市町村における保護の現状に関して、年中行事に用いられる道具類に関する技術伝承を中心に調査を行い、資料を収集する。(④と一体で実施)</p>	<p>①ーイ 民俗技術に関する調査・資料収集(④ 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究と一体的に実施)</p> <p>民俗技術の伝承実態、民俗芸能の伝承組織について現地調査と資料収集を行い、その成果を『無形文化遺産研究報告』などに報告した。また無形民俗文化財研究協議会を開催し、無形民俗文化財の保存と活用に関する現実的課題への対応を協議し、その成果を報告書にまとめ、関係者、関係機関等に配布した。さらに地方自治体で作成された無形文化遺産に関する記録の所在情報を整理・データ化し、データベース構築の検討を行った。</p>	A	順調
4121	<p>② 我が国の有形文化財及びそれに関わる諸外国の文化財に関し、以下の課題に重点的に取り組む。</p> <p>ア 日本を含む東アジア地域における美術の価値形成の多様性を解明するために、報告書を平成21年度に刊行することを目指して、近年の記録媒体や分析手法等の進展に対応しながら調査研究し、美術史研究の資料学的基盤を整備、確立して、国内外の研究交流を行う。</p>	<p>②ーア 東アジアの美術に関する資料学的研究</p> <p>(1)情報資料の収集のための調査：近現代美術の保存・修復に関する欧州調査。</p> <p>(2)美術史研究のためのコンテンツの形成：『日本絵画史年記資料集成(15世紀)』のデータ入力。古記録・文献史料記載絵巻関係資料のデータ化。</p> <p>(3)研究会の開催：研究会「セインズベリー日本藝術研究所と英国の文化財アーカイブ」の開催。オープンレクチャーの開催。</p> <p>(4)研究成果報告書の編集・刊行：『黒田清輝フランス語資料集』の刊行。</p>	A	順調
4122	<p>イ 我が国における近現代美術の歴史を解明するために、日本の近現代美術に関する研究資料を収集、整理し、総合的な視点に基づく研究手法を開発するとともに、多様化する現代美術の動向に関する調査研究を行い、基礎資料を形成する。</p>	<p>②ーイ 近現代美術に関する総合的研究</p> <p>未公開資料の調査研究として、黒田清輝関連資料、笹木繁男主宰現代美術資料センター寄贈資料の整理・調査を進め、既刊の『日本美術年鑑』所載データをウェブ上に公開するための準備を行った。資料にもとづく研究協議、成果公開としては、研究会を通じて近現代美術に関する研究協議を行った。</p>	A	順調
4123	<p>ウ 美術の創作のプロセスを解明して、美術や文化財に対する理解を深めるために、報告書を平成22年度に刊行することを目指して、文化財に関する諸分</p>	<p>②ーウ 美術の技法・材料に関する広領域的研究</p> <p>本研究は美術作品が基盤としている材料・技法・制作の過程等を文献史料あるいは作品に対しての科学的手法による分析を援用しながら解明することを目的とする。本年度は天平時代の脱活乾漆像、近世</p>	A	順調

	野と連携しながら、基礎的なデータを収集、蓄積し、制作過程や技法、材料の歴史の変遷を明らかにする調査研究を行う。	の屏風などについて実地調査した。また、奈良時代史料にあらわれた彩色語彙の収集につとめ、データベースをホームページ上で公開し、逐次、その更新に努めた。		
4124	エ 日本の歴史、文化の源流等の実態を探るため、古都所在寺社が所蔵する歴史資料・書跡資料等に関する調査結果の報告書及びデータベースを作成することを旨とし、今年度は興福寺、東大寺、石山寺、大宮家等の所蔵資料の原本調査、記録作成を実施するとともに、その一部公表に向けて整理検討を行う。	②一エ 古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究 興福寺については、戦国時代大和国の飢饉・一揆等の生々しい実態を記した資料を紹介することができた。天候不順による凶作と年輪年代の関係も読み取れる興味深い資料である。唐招提寺に関しては、絵図調査の知見に基づいて、学会発表を行った。近世の絵図だが、江戸時代前期の絵図は古代の伽藍配置を窺うに足る内容を持っている。また、平城宮・京に関わる絵図・古文書調査を進めた。	A	順調
4125	オ わが国の文化財建造物の保存・修復・活用に向けた歴史的建造物、伝統的建造物群及び近代化遺産等に関する基礎データを蓄積し、分析・研究を行うとともに、古代建築の今後の保存と復原に資するため、古代建築の諸構法についての再検証を行い、得られた成果を整理する。	②一オ 歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究 文化財建造物の保存修理に関する基礎データである所内保管資料の整理等の作業を行い、「建造物現状変更説明」については出版物として刊行・配布し、「ガラス乾板」については画像をデジタルデータ化し、一般公開を推進した。また、古代建築の技法に関する再検証作業を継続的に実施した。このほか、受託事業により、各種歴史的建造物の調査をおこなった。	A	順調
4131	③ 平成 22 年度に無形文化財の伝承実態に関する報告書の刊行を旨とし、21 年度は前年度に収集した無形文化財に関する音声・映像記録のデータベースの構築に努め、その成果の一部を公開講座として発表する。さらに能楽・雅楽における楽器、能楽の資料調査、文楽における美太夫節曲節資料の調査、関西の歌舞伎資料の調査を実施する。また、伝統芸能の中で伝承の変化の著しい謡曲、講談の記録作成を行う。 工芸技術については技法書や映像資料等の収集を行う。また、無形文化遺産分野についての国際的研究交流として、韓国をはじめとする近隣諸国との研究交流を実施する。	③ 無形文化財の保存・活用に関する調査研究 文化財保護委員会が作成した音声資料、現在伝承されている狂言歌謡、文化財保護法による工芸技術の保護の実態等について調査研究をおこなうとともに、無形文化遺産部所蔵音声資料の整理をおこない、伝承の危ぶまれる伝統芸能について実演記録を作成した。無形文化遺産分野での国際的研究交流では、韓国国立文化財研究所の無形文化遺産研究室との合意書に基づき、研究員の相互派遣を実施した。	A	順調
	④ 我が国の風俗慣習、民俗芸能、民俗技術など無形民俗文化財の現在における伝承の実態、伝承組織、公開のあり方等について考察し、平成 22 年度に報告書を刊行することを旨として、平成 21 年度は、無形民俗文化財の現代における伝承実態、伝承組織、公開のあり方等について、現地調査公開実態調査等を実施し、データの蓄積を図る。また、無形民俗文化財研究協議会を実施し、その成果を報告書にまとめる。さらに、無形民俗文化財の映像記録についての全国的なデータベースについて、昨年収集した情報を整理分析し、データベースの構築を行う。	④ 無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究 ①一イ参照		
4151-1	⑤ 国家の形成過程や当時の生活実態の解明に向けて、遺跡の発掘調査、出土品・遺構等に関する調査研究及び文化財建造物に関する基礎的調査研究を実施する。 ア 平城京跡及び飛鳥・藤原京跡について、古代都城の実体解明のため本年度は以下の地区の発掘調査を実施する。	⑤一ア一 平城宮跡東院地区(第 446 次)の発掘調査 南隣の調査区においても検出していた大規模な総柱建物を検出し、東院西辺部の利用状況を明らかにした。 また塀や回廊など区画施設が、数度にわたり建て替えられた状況を検	A	順調

	(平城京跡)平城宮跡第一次大極殿院地区・東院地区、興福寺境内、薬師寺境内ほか	出した。東院地区全体の構成と性格を明らかにするという点において非常に大きな成果である。		
4151-2	(飛鳥・藤原京跡)藤原宮跡朝堂院地区、甘樫丘東麓遺跡ほか	⑤-ア-2 平城宮跡第一次大極殿院地区内庭広場(第454次)の発掘調査 (1)奈良時代前半の第一次大極殿院内庭広場の礫敷舗装の変遷を明らかにした。 (2)楼閣の増築にともない、地表面の傾斜を変更し、広場の排水計画を改めた様子を確認した。 (3)SD5590の北で、矩形の大土坑を検出した。 その他、遺物として包含層より乾元重宝(唐銭・758年発行)が1点出土した。	A	順調
4151-3		⑤-ア-3 薬師寺(第457次)の発掘調査 薬師寺中心伽藍の東方にある東院堂の北東の調査区(D1・D2地区)で、未知の建物跡を検出した。掘込地業をもち、精緻な版築をしており、基壇外装には二上山産凝灰岩を用いている。現在の東院堂は1733年に南向きから西向きに変えた記録が残るが、この遺構は奈良時代に創建された東院の主要な建物跡と考えられる。	A	順調
4151-4		⑤-ア-4 興福寺南大門跡(第458次)の発掘調査 調査の結果、南大門の基壇および建物の規模、基壇外装(地覆石)の変遷、基壇造営以前の地形および基壇築造の過程などを明らかにした。さらに、基壇上では金剛力士像の基礎2基と、創建時の鎮壇具埋納遺構などを発見した。また、調査期間中に2度の記者発表をおこない、9月27日には現地説明会を開催した。	A	順調
4151-5		⑤-ア-5 平城宮跡東方官衙地区(466次)の発掘調査 (1)奈良時代後半の官衙の、区画内の建物配置を確認した。 (2)建物の礎石が当時の位置をとどめている状態を確認した。 (3)東方官衙地区を南流する基幹排水路が東へ折れ曲がることを確認した。	A	順調
4151-6		⑤-ア-6 藤原宮跡朝堂院地区の発掘調査 大極殿院回廊の東南隅と朝堂院北面回廊との接続部の発掘調査を実施し、回廊の建設から解体までに至る遺構や、大極殿院内庭・朝堂院朝庭の礫敷を確認した。また、下層遺構の調査では、藤原宮造営期に資材運搬などに利用されたと考えられる南北・東西の大溝など検出し、これらの変遷から藤原宮の造営過程の解明につながる重要な手がかりを得た。	A	順調
4151-7		⑤-ア-7 甘樫丘東麓遺跡の発掘調査 第157次調査では、7世紀前半から8世紀にかけての石垣、掘立柱建物、掘立柱塀、石敷遺構、石組溝、土器廃棄土坑、土器埋設遺構など	A	順調

		を検出した。特に、調査区中央で検出した石垣遺構は、前回の調査と合わせて全長 34mにおよぶものであることが判明し、構造・時期に関する資料が得られた。第 161 次調査では、谷の北東の斜面に設定した調査区において掘立柱列を検出し、丘陵上においても遺構の展開することを確認した。		
4152-1	イ 出土遺物及び遺構に関する調査、分析、復原的研究を総合的・多角的に実施することを目的として、平成 21 年度及び平成 20 年度以前の発掘により出土した出土遺物(木製品・金属製品・土器・土製品・木簡・瓦等)の分類分析研究及び保存処理を実施するとともに遺構の研究を行う。そしてその成果の一部を『平城宮発掘調査報告』、『平城宮木簡七』、『平城宮整備報告』、『平城宮大極殿復原研究』瓦編等として刊行する。	⑤-イー1 平城京跡出土遺物・遺構の調査研究等 本年度の発掘調査で出土・検出した遺物・遺構の整理・分析研究、図面・写真の作成などの基礎作業を行い、平成 22 年刊行予定の『奈良文化財研究所紀要 2010』の報告を準備した。併せて、昨年度以前の発掘調査で出土した遺物についての調査を継続して実施した。また、『地下の正倉院一二条大路木簡の世界』を開催した。	A	順調
4152-2		⑤-イー2 飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等 本年度の発掘調査により出土した木製品・金属製品・石製品・動植物遺存体、土器・土製品、瓦埴類などの整理、分析研究、及び発掘遺構の図面・写真資料の整理・作成、分析作業を年間を通じて実施し、成果の一部を公表した。	A	順調
4153	ウ アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する調査研究並びに研究協力について、北魏洛陽城等に関する中国社会科学院考古研究所との共同研究、中国の生産遺跡(唐三彩窯跡及び生産品)に関する河南省文物考古研究所との共同研究、隋唐墓に関する遼寧省文物考古研究所との共同研究、日本の古代都城並びに韓国古代王京に関する韓国国立文化財研究所との共同研究を協定に基づいて実施する。	⑤-ウ アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究 A：漢魏洛陽城において 1800 m ² の共同発掘調査を実施。日中双方で都城研究についての討論会を開催。 B：遼寧省における隋・唐代墓出土品の調査を実施。 C：黄冶窯および白河窯で生産した陶磁器の系統的把握の基礎視点が明確になるとともに漢魏洛陽城出土陶器との比較研究を実施。 D：日本の古代都城ならびに韓国古代王京の形成と発展に関する共同研究を実施。	A	順調
4154	エ 平安時代庭園に関する調査・研究の一環として、平成 21 年度は平安時代中期・後期の発掘遺構・現存庭園・史料等について情報収集・調査を行うとともに、関係する研究者を集めて研究会を開催する。	⑤-エ 庭園に関する調査研究 国際研究会を開催し、東アジアにおける日本庭園、とりわけ「浄土庭園」の位置づけを明らかにし、その成果を報告書(英語版・日本語版)として取りまとめた。また、過年度の成果について、報告書を刊行・配布するなど、その普及等をおこなった。	A	順調
4155	オ 飛鳥時代の壁画古墳についての調査研究を行うとともに、東アジアにおける工芸美術史研究の一環として、鏡や梵鐘を中心とした工芸品の調査を行う。また、飛鳥時代木造建築遺物の研究として、山田寺出土部材の研究を行う。	⑤-オ 東アジア史における飛鳥の研究及び飛鳥時代工芸技術の研究 山田寺出土部材については、経年的に計測調査をおこなっており、本年も計測を継続した。その結果、大きな変化がないことを確認した。飛鳥地域の壁画古墳の研究としては、四神図を中心に研究を進め、関連文献の収集、奈良文化財研究所所蔵出土遺物における朱雀・鳳凰文の調査、群馬県立歴史博物館所蔵の唐代壁画墓四神図の模写等の調査をおこなった。飛鳥時代の工芸技術の研究としては、奈良県平吉(ひきち)遺跡出土の casting 関連遺物および奈良市出土鏡の調査を行った。	A	順調

4161	<p>⑥ 遺跡の保存・整備・活用に関する一体的な調査・研究、技術開発の推進及び整備事例のデータベース化等により、個々の遺跡の現況に対応した適切な保存修復・整備の向上に資する。また、これに関連して、平城宮跡・藤原宮跡の整備・公開・活用に関する調査・研究を行い、文化庁が行う平城宮跡及び飛鳥・藤原宮跡の整備・復原事業に関して、専門的・技術的な協力・助言を行う。</p> <p>ア 遺跡の調査・保存・整備計画段階から整備後における管理・運営と公開・活用に至るまでの調査研究を行うとともに、庭園等を含め遺構の露出展示を伴う整備事例の資料収集・現地調査を踏まえたデータベース構築を進め、露出展示の成果と課題を整理する。また、遺跡の内外に展開する景観と遺跡整備の在り方に関する研究集会を開催する。</p>	<p>⑥ーア 遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究</p> <p>遺跡等における遺構露出展示について、基礎的な情報収集をおこなうとともに、その意義や分類などについて検討を進め、遺構露出展示の持続的管理に関する検討をおこなうとともに事例に関する整理を改訂した。また、過年度の成果について、報告書を刊行・配布するなど、その普及等をおこなった。</p>	A	順調
4162	<p>イ 遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術ならびに監視技術の開発的研究の一環として、遺跡の水分状態や石材の劣化状態を把握する技術の応用研究、平城宮跡遺構展示館等における遺構安定化薬剤の実地試験に取り組む。</p>	<p>⑥ーイ 遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究</p> <p>遺跡内の水分移動を推察し、さらに露出展示した場合の変化を予測するために、遺跡の土を採取してこれらの不飽和水分移動特性の推定をおこなった。そして、その成果とボーリング調査による土層層序、地下水面に関する情報をもとに、遺構における水分移動のシミュレーションをおこなった。また、数値実験をつうじて、水を用いた土質遺構の安定化の可能性について検討した。</p>	A	順調
4163	<p>ウ 平城宮跡、藤原宮跡について、公開活用及び整備の具体的方策を研究し、文化庁が行う平城宮跡第一次大極殿正殿復原をはじめとする整備・公開・活用に関して、専門的・技術的な援助・助言を行う。文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究として、国内外の機関との共同研究や研究交流も含めて以下の課題に取り組むことにより、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関する基盤の形成に寄与する。</p>	<p>⑥ーウ 文化庁が行う平城宮跡第一次大極殿正殿復原をはじめとする整備・公開・活用に関する専門的・技術的な援助・助言</p> <p>長年にわたって行ってきた第一次大極殿に関する諸研究を、報告書に纏めた。また、文化庁が行う第一次大極殿復原事業に伴う文部科学省文教施設部主催の会議等に参加し、専門的な観点から、助言を行った。さらには、平城宮跡の国営公園化に伴って、国営飛鳥歴史公園事務所が主催する『平城宮跡 基本計画検討委員会』及び『国営平城宮歴史公園第一次大極殿院広場設計検討業務検討委員会』開催にあたり事務局に資料提供するとともに委員会に出席した。</p>	A	順調

(2) 文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進

<p>【中期目標】最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究を通じて、文化財の保存・修復に係る技術・技法や材料の開発・評価等を推進し、文化財の保存や修復の質的向上に寄与すること。</p>	
<p>【中期計画】</p> <p>(2) 文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進</p> <p>文化財の調査手法に関する以下の研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。</p> <p>①光に対する物性を利用した高精彩のデジタル画像を形成する手法に関する調査・研究を行い、文化財の色や形状・肌合いなどを正確かつ詳細に再現することを目指す。</p>	<p>【主な計画上の評価指標】</p>

<p>②小型可搬型機器の開発及び応用研究を行い、文化財の材質調査をその場でできるようにする。また、有機化合物の物質同定を目的とした新規手法の検討及びその応用研究を行い、金属文化財や顔料など無機化合物に関する元素分析及び構造解析手法の確立等を目指す。</p> <p>③遺跡調査における新たな指標や属性分析法の確立に関する研究会等を行い、全国における遺跡調査・研究の質的向上と発掘作業の効率化に資する。</p> <p>④木質古文化財の年輪年代測定法等を進め、考古学・建築史・美術史の研究に資する。</p> <p>⑤遺跡出土の動植物遺体や古土壌の考古科学的分析により、過去の生業活動の解明と環境復元を行う。</p>				
処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
4211	<p>(2)文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進 文化財の調査手法に関する以下の研究・開発を推進し、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与する。</p> <p>① 光に対する物性を利用した高精細デジタル画像を形成する手法に関し、文化財の色や形状・肌合いなどを正確かつ詳細に再現し、公開することを目指して、調査・研究を行う。</p>	<p>(2)文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進 ① 高精細デジタル画像の応用に関する調査研究 脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財の高精細な画像や特殊撮影画像の公開と多目的な利用に供すべく、平等院と行った共同研究成果を『平等院鳳凰堂調査資料目録—近赤外線画像編—』として刊行した。また、他機関との共同調査研究として宮内庁三の丸尚蔵館と「春日権現験記絵巻」「動植彩絵」の調査撮影を行った。また、奈良国立博物館との共同調査研究として「大徳寺五百羅漢図」の判読がこれまで出来なかった銘文の解読を行った。また、昨年、撮影と調査を行った春日大社所蔵の春日権現験記絵巻披見台の報告書ならびに法隆寺金堂釈迦三尊ならびに薬師如来台座(下座板絵)の報告を行った。</p>	A	順調
4221	<p>② 可搬型蛍光X線分析装置による彩色文化財の材質調査を推進するとともに、有機染料分析のための光学的調査方法の基礎的検討を行う。また、文化財の材質構造に関する調査・助言を行う。</p>	<p>② 文化財の非破壊調査法の研究 ポータブル蛍光X線分析装置や反射分光システム、デジタル顕微鏡システムなど複数の非破壊的手法を用いて、博物館・美術館等の所蔵作品の彩色材料調査を実施した。また、分光学的手法に関する染料分析の高度化のための検討を併行して行った。</p>	A	順調
4231	<p>③ 遺跡調査における新たな指標や属性分析法の確立に関する研究等を行い、全国における遺跡調査・研究の質的向上と発掘作業の効率化に資する。</p> <p>ア 官衙関連遺跡及び寺院遺跡の資料収集を行い、その指標や基本的属性分析を踏まえた資料のデータベース化を推進し、適宜一般公開する。</p>	<p>③-ア 遺跡データベースの作成と公開 官衙関係遺跡の建物データについて、各遺跡における建物群の性格・建物の性格を細分化して追加した。とくに、官衙における門遺構のデータを重点的に収集し、データベースの更新および公開をおこなった。また、寺院遺跡の属性分析をふまえたデータベースを、九州から近畿地方の一部まで公開した。</p>	A	順調
4232	<p>イ 遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法を研究し、実地テストを通じたデータの収集と分析を行う。</p>	<p>③-イ 遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究 遺跡の測量・探査技術の向上と有効利用法の研究を推進し、大学や地方公共団体と連携して実践をおこなった。測量では、三次元レーザーキャナーおよび写真測量の技術的検討をおこない、遺跡・石造物や考古遺物の図化法の検討と摩滅資料の判読、安価で導入可能な機器の試験を実施した。探査では、GPRの走査方法改善と新たな機器の</p>	A	順調

4241	④ 遺跡出土木材、木造建築物、木造美術工芸品などの年輪年代測定を実施し、考古学、建築史学、美術史、歴史学研究に資する。とりわけ、当研究所で開発したマイクロフォーカスX線CTやデジタル画像による非破壊年輪年代測定法は、非破壊を原則とする文化財調査に大変有効であるので、実施事例の拡充を図るとともにさらなる技術の進歩を目指す。これらの研究成果を、学会、学術論文、各種報告書として発表する。	試作、GPSによる位置精度向上実験をおこない、多様な条件下で建物跡の確認に成功した。		
4251	⑤ 動植物遺存体による環境考古学的研究の継続を行う。また、各種計測機器、マイクロスコープを活用して実験品や出土骨に残る加工痕の観察方法を確立し、骨角器製作技術や動物解体技術の研究を推進する。さらに中国、韓国、台湾や、北米北西海岸の日本の先史時代の動植物利用と対比できる遺跡の発掘に積極的に参加し、これまで国内の遺跡で開発してきた微細遺物選別法の実践を行い、東アジア、環太平洋世界の中での農耕・牧畜の起源や動植物利用に関する比較研究を行う。	④ 年輪年代学研究 3府県下3遺跡から出土した考古学関連の木材試料、2府県下3棟の建造物、7府県下9躯の木彫像ならびに1件の現生木試料群に対して年輪年代調査を実施した。また、マイクロフォーカスX線CT装置を用いた文化財の高精度な非破壊分析を2件実施した。さらに、年輪の非破壊計測に関する技術開発にも取り組んだ。以上の研究成果の一部を、論文等7件、学会発表等4件として発表するとともに、特許1件を取得した。	A	順調
		⑤ 遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究 国内外の学会や研究会において、環境考古学とくに貝塚や湿地遺跡から明らかとなる動物利用などの研究成果を発表し、研究交流を深めた。研究の基礎となる動物骨格標本についても継続的に収集するとともに、広く活用されるように所蔵標本リストの公開を行った。また、継続して分析を行っている佐賀県東名遺跡や兵庫県兵庫津遺跡について、発掘報告書を執筆した。	A	順調

(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進

【中期目標】 国や地方公共団体の要請に応じて、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急性の高い文化財の保存・修復に係る実践的な調査及び研究を実施すること。	
<p>【中期計画】</p> <p>(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として、先端的調査研究等の推進</p> <p>最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究として以下の課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。</p> <p>①生物被害を受けやすい木質文化財(社寺等建造物、彫刻など)の劣化診断や被害防止対策を確立する。</p> <p>②環境の調査手法、モデル実験やシミュレーション技術を用いた環境の解析手法の確立のための研究及び実践を行い、文化財を取り巻く保存環境の現状を把握し、改善することに資する。</p> <p>③屋外文化財の保存・修復の手法を確立する。また、文化財の防災についてその予防と被災後の情報収集を行い、文化財防災のネットワーク化の一層の推進を図る。</p> <p>④考古資料の材質・構造の調査法に関して、特にレーザーラマン分光分析法や高エネルギーX線CT・CR法の実用化を図る。また、考古資料の保存・修復に関する実践的な研究を実施する。</p> <p>⑤伝統的修復材料や合成樹脂などの物性、製作技法、利用技法に関する調査・研究をもとに、修復材料・技法の評価及び開発を行う。また、海外の文化財保存担当者を対象に、日本の修復材料の使用法や修理技術に関する研修等を行い本国での基本的な作品の取り扱いや保存処理に反映させる。</p> <p>⑥近代の文化遺産に特徴的な鉄、コンクリート、プラスチックなどの複合素材及び技法について国際共</p>	<p>【主な計画上の評価指標】</p>

同研究を実施し、その成果をもとに国内所在の近代文化遺産の保存・修復に関する手法を開発する。				
処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
4311	(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する先端的調査研究等の推進 最新の科学技術の活用による保存科学に関する先端的な調査及び研究や、伝統的な修復技術、製作技法、利用技法に関する調査及び研究として以下の課題に取り組むことにより、文化財の保存や修復の質的向上に寄与する。	(3) 科学技術の活用等による文化財の保存科学や修復技術に関する先端的調査研究等の推進 ① 文化財の生物劣化対策の研究 歴史的建造物での生物被害状況調査で日光輪王寺本殿の虫害を調査した結果、オオナガシバンムシによる被害であることが明らかになった。今年度は、レジストグラフやC Tなどの手法を用いて、さらに詳細な調査を行い、殺虫処理についても検討を進めた。また、調査結果および修理、今後の殺虫処理などに関する専門家向け研究会を開催し、今後取り組むべき問題点を明らかにした。	A	順調
4321	① 生物被害を受けやすい木質文化財(寺社等建造物、彫刻など)の劣化診断や被害防止対策の確立のため、調査研究を行う。最終年度に報告書を刊行する。	②文化財の保存環境の研究 文化財施設内の温湿度解析の対象として、いくつかの博物館を選択し、熱・換気回路網計算プログラムを用いて温湿度解析を行った。空気汚染物質への対策研究としては、建築部材から発生する汚染ガスの簡易測定法に関して、実験を行い、研究成果をまとめた。また、12月8日に「文化財の保存環境を考慮した博物館の省エネ化」というテーマで研究会を開催した。さらに「文化財施設内の温湿度解析および建築部材内の熱・水分移動解析に関する研究会」というテーマで研究会を開催した。	A	順調
4331	② 環境の調査手法、モデル実験やシミュレーション技術を用いた環境の解析手法の確立のための研究及び実践を行う。最終年度に報告書を刊行する	③-1 周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究 石造文化財や木造建造物など屋外に位置する文化財について周辺環境の観測を行った。また、その結果に基づいて劣化要因を解明し、周辺環境の影響を軽減する方法および修復材料・技法の開発・評価を行った。詳細には、(1)白杵磨崖仏における劣化要因調査、凍結防止策やクリーニング手法の検討、(2)木造建造物の腐朽菌や藍藻類の生息分布と周辺環境の調査、(3)大韓民国・国立文化財研究所との共同調査、共同研究発表会等を実施した。	A	順調
4332	③ 韓国と日本国内の石造・木質文化財調査を行い、磨崖仏などの劣化要因究明及び修復材料・技術の開発を日韓共同で行う。また、東大寺法華堂及び戒壇堂安置仏像群の防災体制に関する基礎的調査を行う。さらに、文化財防災情報システムを活用した防災体制の整備に関する調査研究を進める。	③-2 文化財の防災計画に関する調査研究 平成21年度は、(1)東大寺法華堂安置仏像群および塑像四天王立像(戒壇堂所在)の耐震対策を講ずるため、対象となる仏像の三次元計測を行うとともに、重心など三次元計測から得られた情報を用地震による転倒可能性について考察を行った。(2)地理情報システム(GIS)に基づいた文化財防災情報システムの開発では、行政機関における活用実験を継続した。	A	順調
4341	④ 考古資料の材質・構造の調査法に関して、特にレーザーラマン分光分析法や高エネルギーX線C T・C R法の実用化を図る。また、考古資料の保存・修復に関する実践的な研究を実施する。 ア 考古遺物の完全非破壊非接触分析法としてのレーザーラマン分光法の応用を目指し、標準試料及び考古遺物のラマンスペクトルの収集蓄	④ 考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究 1) ガラス製品のレーザーラマン分光分析に関する文献を収集し、標準試料のスペクトルを集積した。 2) 九州国立博物館と共同で、平安時代の錠前をXCT撮影し、三次元モデルを製作した。	A	順調

	<p>積並びにデータベースの構築を継続する。</p> <p>イ 高エネルギーX線CT法及びX線CR法を応用し、考古遺物の内部構造並びに材質推定法の基礎的研究を行う。</p> <p>ウ 繊維製遺物や漆製遺物などの有機質遺物の分析法の実用化とデータベース作成を行う。</p> <p>エ 木製遺物に対する超臨界溶媒乾燥法の基礎的研究と実用化を目指し、強化含浸薬剤の検討並びに乾燥条件の基礎データの集積と検討を行う。</p> <p>オ 遺跡及び遺物の保存修復の現状と課題を広く検討するため、保存科学研究集会を開催する。</p>	<p>3) 漆製遺物および繊維製遺物の分析をおこない、データを集積した。</p> <p>4) トレハロース含浸処理した試料からトレハロースを析出させる、貧溶媒法の応用実験に取り組んだ。</p> <p>5) 「遺構・遺物の保存と展示・活用の諸問題」の研究集会を九州国立博物館と共催した。</p>		
4351	<p>⑤ 伝統的な文化財修復材料及び関連技術の現地調査、自然科学的な分析などを行う。文化財などの修復に使用された合成樹脂の劣化状態を調査する。また、海外の文化財保存担当者を対象に、漆及び漆を用いた文化財についての材料学・保存修復などの講義と、クリーニングなどの実技を行い、基礎的な知識を教授する。在外の日本古美術品を対象に事前調査及び修復を行い、修復後、展示活用する。さらに、専門家を現地に派遣して修復を行う。</p>	<p>⑤-1 伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究</p> <p>1. 建造物に使用する漆塗装の耐候性向上に向けた基礎実験の調査結果を纏めるとともに、日光東照宮や厳島神社などの建造物における過去の塗装修理に関する基礎資料の蓄積を図った。また、あらたにPY-GC/MS分析装置を用いた建造物の塗装材料をはじめとする各種修復材料の分析を開始した。</p> <p>2. 岩手県二戸市浄法寺地区周辺で継続していた漆塗料および漆工品生産に関する伝統技術の調査は、本年度を持ってこれを終了した。また、新たに伝統的な膠材料に関する調査研究を開始した。</p> <p>3. 研究所が所蔵する過去の修復事業の資料を分類整理、目録作成、ネガフィルムのデジタルデータ化は継続してこれを進めた。</p> <p>4. 「建造物の塗装材料である漆塗料-その現状と課題-」というテーマで、2010年1月21日に研究会を開催し、計111名の参加を得た。発表：本多貴之(明治大学/東文研)「漆塗料の劣化メカニズムを探る」、北野信彦(東文研)「建築文化財における漆塗装の歴史」、佐藤武則(日光社寺文化財保存会)「日光社寺建造物群における漆塗装の修理」、西和彦(文化庁)「建築文化財における塗装修理の考え方」</p>	A	順調
4352		<p>⑤-2 国際研修「紙の保存と修復」</p> <p>I C C R O Mと共同の開催である国際研修(2009年9月2日～9月15日)『漆の保存と修復 2009』は、9カ国10名(オーストリア、ハンガリー、ポーランド、ロシア、ドイツ、英国、ポルトガル、カナダ、米国)の研修生で行い、日本における漆工の歴史、漆の科学と調査方法、伝統的な漆工技術、漆工品や漆塗装の修復理念の講義と修復方法の基礎実習を行った。またスタディーツアーを9月6日～9月9日の3泊4日で企画し、日本産漆の80%ちかくを生産している二戸市浄法寺町周辺を訪れ、日本の漆文化財の歴史と伝統、現状を視察した。アンケート：回収率100%、満足度100%。</p> <p>一方、東京文化財研究所独自の国際研修『漆工品の保存と修復』(2009年9月16日～10月15日)は、2カ国2名(ハンガリー、ドイツ)の研修生で行った。研修内容は東京都港区實相寺所蔵の会津松平家縁の常香盤を題材として、修</p>	A	順調

4353		<p>復技術者の山下好彦氏から漆塗料を使用した本格的な保存修復作業の実践実習を行った。またスタディーツアーを9月21日～9月23日の2泊3日で企画し、姫路、奈良、京都の漆文化財の現地見学を行った。さらに修復対象の教材である常香盤を所蔵する東京都港区内の實相寺の視察を10月5日に行った。</p> <p>また、上記の漆の国際研修に使用するテキストブック『漆 -中級編-』を作成した。</p>		
		<p>⑤-3 在外日本古美術品保存修復協力事業</p> <p>平成21年度は、7館11点の作品(絵画5点、工芸品5点)を修復した。うち2点(絵画1点、工芸品1点が20年度からの継続、4点(絵画2点、工芸品2点)を海外で修復した。工芸品の事前調査はロイヤルコレクション/ドロットホルム城、グリプスホルム城、アムステルダム国立博物館、ライデン民族学博物館などヨーロッパで4館17点の調査を行った。また、平成20年度に修復した絵画、工芸品の修理状況をまとめて「在外日本古美術品保存修復協力事業」の報告書を刊行した。</p>	A	順調
4361	⑥ ドイツ技術博物館との共同研究に関する打ち合わせ及び欧米での修復事例調査を行う。船の科学館・手宮機関車庫などでの劣化調査、かかみがはら航空宇宙科学博物館・大樹町航空宇宙実験施設などでの測定データの回収と評価、日本航空協会所蔵の青焼き図面の劣化調査と資料収集を行い、再発色に関する研究を進める。	<p>⑥ 近代の文化遺産の保存修復に関する研究</p> <p>今年度は近代化遺産の中でも屋外保存されている文化財の保存と修復に関して研究を行った。中でもコンクリート建造物の保存に関する関係者を招き、研究会を開催しそれぞれの立場からコンクリート建造物の保存と活用に関する発表をし問題点の整理や解決法についての討論を行った。また、設計図面などに多く使われている青図の再発色に関する研究も実施した。屋外展示されている鉄道車両や航空機などの文化財の防錆対策のため、試験片を使った屋外暴露試験にて、塗装仕様と劣化速度の相関についても検討している。昨年度の研究会をまとめた報告書を刊行した。</p>	A	順調

(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施

【中期目標】 -----				
【中期計画】			【主な計画上の評価指標】	
(4) 高松塚古墳、キトラ古墳の保存対策事業など、我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。				
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
4411	<p>(4) 我が国の文化財保護政策上重要かつ緊急に保存及び修復の措置等を行うことが必要となった文化財について、国・地方公共団体の要請に応じて、保存措置等のために必要な実践的な調査・研究を迅速かつ適切に実施する。</p> <p>① 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に</p>	<p>(4)</p> <p>①-1 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力(1)</p> <p>高松塚古墳では、壁画の状態記録のため損傷図面を作成した。天井石2の漆喰層陥没、青龍の表層面損傷、漆喰層陥没以外のすべての項目について、</p>	A	順調

4412	関して技術的に協力する。	透明シートへの描き込みを完了した キトラ古墳では、5～6月、10～11月、11～12月の3期にわたり、集中的に漆喰の取り外しを行った。石室内の点検及びカビ処置も定期的に行った。また、石室内微生物調査および環境調査は継続して行った。		
4421	② 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関して技術的に協力する。	①-2 文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力(2) 文化庁が進める高松塚古墳仮整備事業や保存・活用に関する事業が円滑かつ適切に施工されるよう協力するとともに、来年度刊行予定の『国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策事業報告書』に関する編集作業を鋭意進めた。 今年度のキトラ古墳壁画の剥ぎ取り作業を支援するとともに、今後のキトラ古墳壁画、および古墳の保存、活用、整備の方向性を議論・検討するための技術的な支援・協力を行った。	A	順調
4431	③ 国土交通省が行う大和紀伊平野土地改良事業大和平野県営飛鳥2工区の調査及び保存活用に関して技術的に協力する。	② 国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力 昨年度の試掘調査の成果をもとに檜隈寺の主要伽藍の存在する丘陵の東裾部および、講堂北西約25mの地点の発掘調査を実施した。丘陵東裾部からは掘立柱建物やそれらを区画する掘立柱塀を検出し、檜隈寺の主要伽藍に関連する建物群の具体的状況を明らかにした。また講堂北西の調査区では、7世紀前半から中頃までのL字形カマドをもつ竪穴住居を検出し、渡来系という檜隈寺の特徴を補強する重要な資料を得ることができた。 ③ 国土交通省が行う大和紀伊平野土地改良事業に関する技術的協力 「大和平野県営飛鳥2号幹線(右岸)その3」について、山田道、大官大寺にかかる部分にたいして嚴重立会のかたちで対応することとなった。	A	順調

(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

【中期目標】有形文化財の収集・保管・公衆の観覧等に必要の調査研究を計画的に実施すること。	
【中期計画】 (5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究を実施し、その保存と活用を推進することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与する。 ①収集・保管に関する研究を実施し、有形文化財の保存に寄与する。 i 保存環境の調査研究等を実施することにより、収蔵品の保存環境の向上を図る。 ii 日本の文化財及び日本の文化に影響を与えた東洋諸地域を中心に東洋全般にわたる各国固有の文化財の調査研究を実施する。 iii 収蔵品の調査研究を重視し、特に重要な項目については特別調査を実施する。また、特別展及び海外展実施に向けた事前調査を実施する。 iv トータルケアシステム構築に向けた応用研究を実施し、有形文化財の恒久的保存と持続的公開を具現化する。	【主な計画上の評価指標】

<ul style="list-style-type: none"> v 修復文化財に関する調査研究を実施し、補修紙製作、剥落止め等修復方針決定に寄与する。 vi 収蔵品について、科学的分析に基づく保存・修復に関する調査研究を実施し、文化財の適切な保存・展示・活用に反映させる。 <p>②公衆への観覧を図るための研究を実施し、有形文化財の活用に寄与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> i 有形文化財の展示デザインシステムを構築するための応用研究を実施する。 ii 博物館情報学を構築するための研究を実施する。 iii 博物館教育理論の構築に関する研究を実施し、有形文化財理解の推進に寄与する。 iv 京都文化を中心にした文化財の調査研究を実施し、展示することにより、国民の文化財保存に対する意識の高揚に寄与する。 v 平安仏教とその造形に関する調査研究を実施し、展示することにより、国民の文化財保存に対する意識の高揚に寄与する。 vi 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究を実施し、展覧会の活性化に反映させる。 vii 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究を実施し、仏教美術の解説の充実を図る。 viii 仏教美術の光学的調査研究を実施し、作品の材料・技術の解明に寄与する。 ix 日本とアジア諸国との文化交流に関する文化財の調査研究を実施し、これらの文化財の収集・保管・展示、教育普及事業等を展開する。 				
処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
4511-1	<p>(5) 有形文化財に係る調査研究</p> <p>① 収集・保管のための調査研究の実施 競争的資金の獲得に努めつつ、収蔵・寄託する文化財に関する研究、保存・展示環境の改善に関する研究を進めるとともに、次の研究課題に重点的に取り組む。 (東京国立博物館)</p> <p>1) 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究」</p>	<p>(5) 有形文化財に係る調査研究</p> <p>① 収集・保管のための調査研究の実施</p> <p>【東京国立博物館】</p> <p>1) 収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究 館蔵品・寄託品・それらの関連品および今後収集・展示の対象となりうる文化財と、その周辺領域に関して、美術史・考古学・博物館学の各見地から学会・研究会・学術雑誌上で各種の発表をした。</p>	A	順調
4511-2	<p>2) 特別調査法隆寺献納宝物(第28次)「聖徳太子絵伝」第3回</p>	<p>2) 特別調査法隆寺献納宝物(第31次)「聖徳太子絵伝」第5回 本年度は、国宝聖徳太子絵伝10面のうち9面と10面を調査対象とした。従来料絹については大柄な立湧文を織り出した綾絹の使用は認められていたが、新たに菱文様の綾絹が使用されている箇所が発見された。また、剥落や劣化などにより画の見えないところについて、現法隆寺絵伝に嵌められた吉村法眼周圭充貞の模写(天明7年=1787)を比較検討することによって、その内容が新たに確認できた。</p>	A	順調
4511-3	<p>3) 特別調査「書跡」第7回(17年度写経1回、18年度写経2回実施、19年度古文書1回、20年度古文書2回実施)</p>	<p>3) 特別調査「書跡」第7回 当館所蔵の手鑑装・卷子装・折本装・掛幅装・屏風装の古写経について、法量計測、写真撮影を実施するとともに、書写された文字の筆致、卷子装の軸端や使用された料</p>	A	順調

		紙の材質分析, 奥書に記載された事項の検討等から書写年代推定した。また掛幅装や手鑑装の古写経は断簡であるため, 書写経文の検討によってその原典を可能な限り特定して, 当館所蔵古写経の基礎データ情報を整理した。		
4511-4	4) 特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究—尾形光琳風雷神屏風を中心に	4) 特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究—尾形光琳風雷神屏風を中心に 当館収蔵の狩野永敬筆「十二ヶ月花鳥図屏風」、土佐光祐筆「栄華物語図屏風」、尾形光琳筆「竹梅図屏風」を対象として、蛍光エックス線と実体顕微鏡による分析調査を行ない、データの集積を進めた。	B	ほぼ 順調
4511-5	5) 応挙館障壁画の復元に関する調査研究(今年度は、主に修理未了(まくりの壁画)の障壁画について検討)	5) 応挙館障壁画の復元に関する調査研究(今年度は、主に修理未了(まくりの壁画)の障壁画について検討) 現在まくりの状態である壁面の現状を調査検討し、その保存状態を把握したことで、適切な修理方法を決定するための重要な参考資料を得ることができ、今年度は壁画3枚の修理を実施することができた。さらに来年度以降に修理が実施される予定の壁面の保存状態を把握し、あわせて表現技法の詳細を把握することができた。	A	順調
4511-6	6) 館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	6) 館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究 * 明治時代前期に博物館が収集した洋書のうち、歴史的意義の深いものについて、調査を行った。 * 前年度に調査を行った書籍も含め、明治初期の館蔵の洋書に関する特集陳列を企画して展示するとともに、学術的意義を紹介したパンフレットを作成、配布した。	A	順調
4511-7	7) ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関する研究(今年度は報告書の執筆)	7) ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関する研究 ザールデリー遺跡の発掘調査報告書の和文執筆、英文翻訳を行なった。翌年度の出版に向けて、出版社の選定などの準備を進めている。	A	ほぼ 順調
4511-8	8) 博物館の環境保存に関する研究	8) 博物館の環境保存に関する研究 東京国立博物館は二酸化炭素削減に関して、省エネ法に関する規制及び東京都環境確保条例に基づく規制を受けるために複雑な対応が強いられる。そうした社会的な方向性に対応するために、保存科学的観点からの行動指針について検討した。	A	順調
4511-9	9) 東洋民族資料に関する調査研究	9) 東洋民族資料に関する調査研究 1. 当館所蔵の東洋民族コレクションの総合的なデータベースの作成により、研究・展示・保存などに必要な基礎情報が従来よりも一層充実した形で整備された。 2. とくに台湾先住民族の資料について、民族誌や最新の研究成果と照合することで、過去の台帳の記載内容を補足、修正することができた。 3. 特集陳列「南太平洋の暮らしと祈り」を実施し、当館が所蔵する南太平洋将来の代表的な民族資料15件を陳列することで、調査研究の成果を公開した。	A	ほぼ 順調
4511-10	10) 韓国国立中央博物館所蔵の高麗漆器の保存に関する国際共同研究(韓国国立中央博物館)	10) 韓国国立中央博物館所蔵の高麗漆器の保存に関する国際共同研究 数百の小片に分かれた断片の詳細な観察を通じて、各小片の位置、箱の形状及び寸法、木地及び塗膜の構造、顔料の種類、螺鈿・描金の組成などについて多数の知見を得ることができた。	A	順調

4511-11	11) 日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究(科学研究費補助金)	11) 日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究(科学研究費補助金) 今年度は、東京国立博物館で開催された特別展「伊勢神宮と神々の美術」に出品の静岡・伊豆山神社の男神立像、島根・成相寺の神像 23 体、岐阜・華厳寺の十一面観音立像を調査し、美術史的基礎データ、写真データ、樹種の科学的識別のための木片資料の収集を実施した。昨年調査した一部の像のサンプルについて放射性炭素年代測定を試み、今後の研究への応用の可能性を協議した。これまでの研究成果の一部を研究論文としてまとめた。	A	順調
4511-12	12) 東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究(科学研究費補助金)	12) 東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究(科学研究費補助金) 東京国立博物館・陽明文庫・三の丸尚蔵館などに収蔵されている作品で、装飾料紙を用いた古筆・典籍を中心に、展示履歴などによって把握できる情報をもとに、調査対象となる作品のリストを完成させた。昨年度に引き続き、今年度は作成したリストをもとにデジタル写真撮影と、作品の筆跡および料紙に関する基礎調査を実施した。また、今年度は最終年度にあたるため、これまでの研究成果をまとめて、報告書を作成した。	A	順調
4511-13	13) 目録学の構築と古典学の再生(科学研究費基盤S。研究代表者：田島公 東大教授。平成 19-23 年度)	13) 目録学の構築と古典学の再生(科学研究費補助金) *昨年度に続いて、列品のうち歴史資料及び和書に含まれる、公家の儀礼や家職に関する絵画資料を網羅的に確認し、調査を行った。一部については、写真撮影により画像を作成する。 *国宝『延喜式』の詳細調査実施に向けて、予備的な調査と打ち合わせを行った。	A	順調
4511-14	14) 国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究 一 館史資料の分析を中心に 一(科学研究費補助金)	14) 国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究 一 館史資料の分析を中心に 一(科学研究費補助金) 東京国立博物館保管の近代彫刻 208 件について、列品録・列品台帳の資料調査と、作品調査を実施した。作品調査では、調書と写真を作成した。それらをまとめた上で『東京国立博物館図版目録』(近代彫刻篇)を刊行した。	A	順調
4511-15	15) 油彩画の材料・技法に関する共同調査(平成 21 年～平成 23 年)	15) 油彩画の材料・技法に関する共同調査 平成 20 年 11 月から開始し、可能な限り月 1 回のペースで調査を進めてきた。調査は朝 10 時から午後 17 時までであり、1 回の調査では終了しない調査もあるが、これまでのところ調査が終了した作品は、11 点におよぶ。次第にデータが蓄積されているが、その中から、今年度は 3 点についての調査内容を発表する紀要(45 号)を出版する予定である。	A	順調
4511-16	16) 荻原守衛「女」の石膏原型とブロンズ鑄造に関する共同研究(平成 21 年～平成 22 年)	16) 荻原守衛「女」の石膏原型とブロンズ鑄造に関する共同研究 3 次元計測を石膏原型に対して実施し、取得したデジタル 3 次元画像を元に、デジタルデータの解析を行った。表面のテクスチャー等を様々に変化させ、デジタルプリンターによる立体縮小模型を作製し、原寸大ブロンズ鑄造に向けた準備を行った。最適なテクスチャーに基づいた原寸大鑄造を実施した。	A	順調
4511-17	17) 博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(科学研究費基盤(S)・平成 20 年～平成 24 年)	17) 博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(科学研究費補助金) これまでに集積した各種のデータを博物館の空間と関連付けて保存・検索できるデ	A	順調

		ータ活用システム「文化財収蔵場所環境情報管理システム」の主要部分の構築を完了した。具体的には、各種保存カルテ、各種写真記録、各種環境記録、作品・関連資料の所在情報を統合的に扱うことが可能になる。		
4511-18		18) 東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究—「正倉院裂」を中心に—(科学研究費補助金) 作品のデジタル画像について、個々に番号を付けるとともに、各作品については、現状、法量、品質、技法、用途等についての詳細を記録化する作業を行った。 東博が所蔵する正倉院関係資料についても、デジタル写真での記録撮影を進め、詳細データを収集した。	A	順調
4511-19		19) 文化財保護の歴史に関する基礎的研究(科学研究費補助金) 東博に収蔵されている関連作品や関連資料について、展示履歴などによって把握できる情報をもとに、調査対象となる作品のリストを完成させた。一部、デジタルカメラによる記録撮影やスキヤニングによるデータ保存を進めている。また、特集陳列「皇室と東京帝室博物館」で関連資料を公開するとともに、図録を作成した	A	順調
4511-20		20) 隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究(科学研究費補助金) 中国陝西省及び河南省において実施した現地調査によって得た内容を整理し、開催した研究集会等を通じて、隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する検討を行なった。	A	順調
4511-21		21) 原三溪旧蔵近代絵画・彫刻に関する基礎的研究(科学研究費補助金) 今年度は、原三溪旧蔵近代絵画・彫刻に関する関連資料の収集、先行研究の整理、資料のデータ整理とデータベース化を進めた。また、昭和初年に行われた「明治大正名作展」に関する関連資料の収集、先行研究の整理、データ整理を行った。さらに、書簡調査など、基礎資料調査を集中して行うことで、次年度以降の本格的な調査研究、論文執筆に必要な基礎的作業を大幅に推進することができた。	A	順調
4511-22		22) 高度な復元作業のための制作空間の情報化(科学研究費補助金) 復元職人(上野修路)が作業前に行う文化財の調査風景、調査状況のビデオ記録の編集解析をおこなった。ビデオ記録時間は編集後、約7時間(400分)となり、現在それらの編集映像のデータベース化を開始している。 また、タッチディスプレイや3Dディスプレイ、映像インターフェースなどの調査を行い、次年度の閲覧デバイス設計のための基礎調査をおこなった。	A	順調
4511-23		23) 狩野晴川院養信筆「法隆寺什物図」の研究(科学研究費補助金) 本年度は、「法隆寺什物図」の基礎データをそろえる第一歩として、全巻の写真撮影を行い、合わせて翻刻のための部分写真も撮影した。同時に、全巻の計測・細部の観察も行った。また、作品の具体的な考察へ向けて、調査で得た情報を整理し、表として整備する作業に着手した。	A	ほぼ 順調
4511-24		24) 東京国立博物館所蔵写真資料データベース科研(科学研究費補助金) これまで未整理であった写真資料を整理し、公開することができた。また、本事業の成果として、平成22年5月24日～7月4日に「清朝末期の光景—小川一眞・早崎梗吉・関野貞が撮影した中国写真—」の特集陳列を行う。	A	順調

4511-25	<p>25) 東京国立博物館所蔵古文書データベース(科学研究費補助金) 当館書跡列品の内、B1721 諸寺院文書、B1854-1875 白河結城家伝来文書、B1773 里見家伝来文書、B1829 堀部家伝来古文書などの古文書群、B1761 三島神社文書などの古文書写に加え、B1627 古文書、B1719 古文書、B1898 松平定信書状、B1913 徳川頼宣書状、B1932 徳川斉昭書状、B2034 毛利家家老連署申渡書、B2035 毛利就隆任官状、B2045 徳川家康書翰などの掛幅装の古文書のデータベース化を完了。</p>	A	順調
4511-26	<p>26) 東京国立博物館所蔵印譜データベース(科学研究費補助金) 小林斗盒(庸浩)氏寄贈による懐玉印室コレクションのうち中国古銅印譜について撮影を行い、データを入力した。平成22年6月に「東京国立博物館情報アーカイブ(http://webarchives.tnm.jp/archives/)において、東京国立博物館所蔵印譜WEBデータベース」として公開予定である。</p>	A	順調
4511-27	<p>27) 明治時代の宝物調査における写真資料に関する調査—横山松三郎、小川一眞、早崎稔吉、安村喜当の事跡を中心に— 鄭州から西安に至る行程、杭州・紹興、上海、北京で現地調査を行い、宝物調査で撮影された写真資料と対照できる画像を撮影した。また、茨城県天心五浦美術館において早崎結吉の日記を調査し、写真が撮影された状況を検証した。これらの成果により、平成22年5月24日～7月4日に「清朝末期の光景—小川一眞・早崎稔吉・関野貞が撮影した中国写真—」の特集陳列を行う。</p>	A	順調
4511-28	<p>28) 古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究(科学研究費補助金) 東京国立博物館に収蔵されている古典籍・古文書を中心に、形態、料紙などについてデータを収集した。また、料紙の製作技法に関する成果の一部を、全国漢文教育学会の『新しい漢字漢文教育』第49号において公開した。</p>	A	順調
4511-29	<p>29) 金沢北条氏領下総国下河辺庄の総合的研究(科学研究費補助金) 室町から江戸時代(15～17世紀)にかけての下総国下河辺庄(埼玉県吉川市・春日部市・庄和町・松伏町、千葉県野田市、茨城県古河市・五霞町)の支配に関連する古文書・古記録など文献資料を収集した。特に在地領主戸張氏の変遷が解明できた。</p>	A	順調
4511-30	<p>30) 東アジアの書画料紙における装飾加工と保存に関する総合的研究 東京国立博物館の所蔵作品を中心に、国内外の資料の情報を精査し、調査対象となる作品のリスト作成と選定を行い、書画料紙基礎データベースを構築した。さらに、調査では料紙の材質、製法や、保存状態などから、書画料紙の加工技術の変遷などを考察した。</p>	A	順調
4511-31	<p>31) 東京国立博物館所蔵ラゲーザ寄贈資料の研究 これまで、ほとんど知られてこなかった東京国立博物館のラゲーザ寄贈関連作品を整理し、イタリアでの現地調査なども加わり、より詳細な情報提供が可能となった。成果として全容は、平成22年3月発行の第45号東京国立博物館紀要に掲載される予定である。</p>	A	順調
4511-32	<p>32) 曹洞宗寺院に伝来した中世彫刻の調査及び研究 曹洞宗大本山永平寺と、道元が永平寺開創前に開いた京都・興聖寺、福井・吉峰寺</p>	A	順調

4511-33		を調査。永平寺に、従来知られていなかった中世彫刻7件(鎌倉時代2件、南北朝時代5件)を見出し、精査、撮影を実施した。		
4511-34		33) 特別調査「工芸」第1回 昨今、三次元計測やX線CTスキャン等の新型光学機器を用いた文化財調査が話題を集め、さまざまな研究機関で行われるようになってきたが、機種やシステムの違いもあり、同じ専門分野の研究者であってもその調査結果を共有しがたい状況にある。そこで今年度の本調査会では、独立行政法人文化財機構国立博物館4館および文化庁の工芸関係者が集まり、上記のような新型光学機器を用いた調査の一例を同時に実見した上で、調査方法やその結果得られるデジタルデータの活用性について討議を行った。 新型光学機器を用いた工芸品の調査方法の確立や、調査の結果得られるデータの形式の標準化を目指すための共通認識を築くことができた。	A	順調
4511-34		34) 高精細デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究 本年度は、テックサイエンス社 Alicona 機と Tesco 社 X線 CT スキャン機器での文化財(刀装具)撮影のための安全面と撮影精度を落とさない治具開発のための打ち合わせ、設計、試作、検証を行った。	A	順調
4512-1	(京都国立博物館) 1) 近畿地区(特に京都)社寺文化財の調査研究	【京都国立博物館】 1) 近畿地区(特に京都)社寺文化財の調査研究 調査対象寺院については、既に長岡京市教育委員会による悉皆的調査が行われており、書画については特に新たな作品の発見はなかったが、制作時期・作者等について詳細な知見を得ることができた。一方、工芸品については江戸時代の花籠約50枚をはじめとして、これまでの調査では漏れていた作品を多数調査することができた。	A	順調
4512-2	2) 鎌倉仏教とその造形に関する調査研究	2) 鎌倉仏教とその造形に関する調査研究 仏教美術研究上野記念財団助成による研究発表・座談会「予言と調伏のかたち」を開催した	A	順調
4512-3	3) 日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察(科学研究費補助金)	3) 日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察(科学研究費補助金) 平成19年度に調査を行なった静岡建徳寺についての調査報告を当館発行の『学叢』第31号(平成21年5月発行)に発表した。また、20-21年度に行なった調査の結果を中間報告会にて報告するとともに、中間報告書をかねた資料集の発行を行なった(平成22年1月)。また浜松市の黄檗寺院である大雄寺と宝林寺において本調査を行ない、調書作成と写真撮影を行なった(平成22年3月)。	A	順調
4512-4	4) 建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究(科学研究費補助金)	4) 建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究(科学研究費補助金) 8月、9月、12月と都合3回の調査を実施し、全体180箱のうち、第141箱から第160箱までの調査をほぼ終了している。	A	順調
4512-5	5) 修復文化財に関する資料収集及び調査研究	5) 修復文化財に関する資料収集及び調査研究 平成21年度に新規搬入された作品の「修理計画書(設計書)」にもとづき、データを入力し、平成19年度に完成、搬出した作品については、各工房より提出された「修	A	順調

			理解説書(報告書)」にもとづき、データを追加、更新した。また、平成16年度に修理が完成した作品に関する報告を『京都国立博物館文化財保存修理所修理報告』第5号に掲載した。また、修理時に発見された銘文24件を「銘文集成」として報告した。		
4512-6	6) 文化財の保存・修復に関する調査研究(奈良文化財研究所との共同研究)	6) 文化財の保存・修復に関する調査研究(奈良文化財研究所との共同研究) 長野県中野市の柳沢遺跡は、東日本で初めて銅鐸と銅戈が同時に出た遺跡として注目される。本調査研究では、この柳沢遺跡から出土した青銅器の材質調査と製作技術の検討を行った。	A	順調	
4512-7	7) 近世絵画に関する調査研究	7) 近世絵画に関する調査研究(客員研究員) 京都を中心とした近世絵画に関する作家研究、作品研究については、着々と研究が進んでいる。「長谷川等伯展」(平成22年度)、「上田秋成展」(平成22年度)等について、当館連携協力室長に、作品情報をはじめ、さまざまな助言を行った。	A	順調	
4512-8	8) 訓点資料としての典籍に関する調査研究	8) 訓点資料としての典籍に関する調査研究(客員研究員) 平安時代の古写経の訓点については、その成果の一部を9月発行の『訓点語と訓点資料』第一二三輯(訓点語学会)に「宝幢院点の成立に関する一考察—源信・寂照・延殷・皇慶を巡って—」と題した論文にまとめた(宇都宮氏)。加えて当館に保管されている古写経などに付された訓点の調査を行った。	A	順調	
4512-9	9) 彫刻に関する調査研究	9) 彫刻に関する調査研究 特別展覧会「日蓮と法華の名宝」展出品作品に関して研究を進め、その成果を同展目録に作品解説として発表した。また、平成19年度に科研による調査を行なった、静岡県建徳寺の仏像についての調査報告を、当館発行の「学叢」第31号に執筆した。	A	順調	
4512-10	10) 出土・伝世古陶磁に関する調査研究	10) 出土・伝世古陶磁に関する調査研究 前年度から継続していた建仁寺両足院所蔵陶磁の調査を継続して実施し、建仁寺両足院の調査では、中国製の青花の鉢や碗など、近い将来に開催を計画している「清朝陶磁」展への出品候補となる作品を複数見いだすことができた。また、年度当初計画には含まれていなかったが、大阪市文化財協会の佐藤隆氏が交付を受けた西田記念東洋陶磁史研究助成金から、分担金の交付を受け、当館で所蔵している仁清御室窯跡出土陶片の基礎的整理作業として、実測図の作成に取り掛かることができた。	A	順調	
4512-11	11) 近代建築に関する調査研究	11) 近代建築に関する調査研究 本年度は、片山と岡倉が直接関与した基本設計図の選び出しと調査を行ない、以下の点を明らかにした。 ・京都博物館の設計過程とその特徴 ・各設計図の設計過程における位置づけ ・設計に携わった技師の役割	A	順調	
4512-12		12) 漆工芸に関する調査研究 当館に持ち込まれた作品の調査や個人コレクター宅での調査(琉球漆器・輸出漆器・根来など)、特別展覧会の準備(妙心寺展・日蓮展・THE ハブスブルク展・永青文庫展など)、科研調査(昨年度末のイタリア調査の内容を今年度整理)、社寺調査(長岡京光明寺)や個人調査(イギリス貴族の館・大英博物館)など、さまざまな機会に作品	A	順調	

4512-13		<p>を観察、計測、撮影してデータの蓄積につとめ、これまでのデータの分析と文献調査による研究の成果を、当館開催の展覧会をはじめ、国内外の展覧会やシンポジウムに還元した(展覧会図録の作品解説を除く)。また、科学研究費を用いた調査で漆工品のCT スキャンも試みた。さらには、新規購入品 2 点を京都国立博物館の収蔵品に加えることもできた。</p>		
		<p>13) 中国近代絵画に関する調査研究 国内外から研究者を招き、当館所蔵の中国近代絵画作品調査とその成果をふまえたワークショップ開催という二つの中核事業により、当該分野に関する新知見を多数得ることができた。とくに、昭和初期に中国・南京総領事だった須磨弥吉郎氏のコレクションに関する調査では日中間の芸術交流の多様性を確認できた。こうした成果をワークショップ論文集としてまとめ、関係者、関係機関等に配布した。</p>	A	順調
4513-1	(奈良国立博物館) 1) 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施	<p>【奈良国立博物館】 1) 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施 奈良を中心とする諸社寺への働きかけを行って所蔵文化財の調査を実施し、その成果を展示に反映させるとともに、今後の展示活動等に活用できる資料の蓄積、将来の調査に向けた調整などを行った。</p>	A	順調
4513-2	2) 仏教美術等の光学的調査研究(東京文化財研究所との共同研究)	<p>2) 仏教美術の光学的調査研究(東京文化財研究所との共同研究) 中国・南宋時代の仏教絵画の基準作として有名な重要文化財五百羅漢図(大徳寺蔵)82 幅について、初めて本格的な光学調査を実施し、従来知られていなかった金泥の銘文を多数発見することができたことに加え、顔料や絵絹について高精細画像及び基礎データを入手できた。さらに前年度までに調査を開始していた聖徳太子及び天台高僧像(一乗寺蔵)と春日権現験記絵披見台(春日大社蔵)についても追加調査を実施し、蛍光画像・近赤外線画像及び基礎データを入手することができた。</p>	A	順調
4513-3	3) 仏教美術写真収集及びその調査研究	<p>3) 仏教美術写真収集及びその調査研究 館内外の文化財のカラーおよびモノクロ撮影を多数実施し、資料を整備することができた。また、X 線撮影をおこなうことにより、内部構造や製作技法に関して有用な情報を得ることができた。 これらは情報システムに登録し、管理運用するとともに、インターネット通して外部へも情報提供をおこなっている。また、特別観覧や写真カードにより、研究者・学術出版界・一般の利用にも供している。</p>	A	順調
4513-4	4) 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	<p>4) 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究 学術交流協定を締結している中国・韓国の博物館等との間で研究員の派遣・受け入れを行い、活発な研究交流・情報交換を行うことができた。また特別展開催の前提として行った、中国・朝鮮半島で制作された文物に対する調査研究の成果を、展示及び図録等に反映させることができた。</p>	A	順調
4513-5	5) 当館所蔵品についての調査研究(客員研究員)	<p>5) 当館所蔵品についての調査研究(客員研究員) 新収蔵品に対する調査研究を重点的に実施し、平常展での公開と併行して研究成果を広く発信することができた。従来からの収蔵品についても継続的に調査研究を行</p>	A	順調

4513-6	6) 奈良時代の仏教美術と東アジア世界(科学研究費補助金)	い、その成果を展示及び刊行物などに反映することができた。 6) 奈良時代の仏教美術と東アジア世界(科学研究費補助金) 前年度から3ヵ年の計画で、①蛍光X線分析装置による光学調査を中心に、東大寺金堂鎮壇具(国宝)についての基礎データを収集し、その体系化を行う。②東大寺法華堂諸像の修理時に(財)美術院によって撮影された彩色文様写真を研究資料として活性化し、文様史的検討を加える。③館蔵及び寄託の古写経に関する基礎データの集積と料紙分析を行い、国籍問題の解決を図る。という三つの課題を柱として、研究計画調書に記載した体制で研究を進めている。	A	順調
4513-7	7) 統一新羅期の道具瓦集成(科学研究費補助金)	7) 統一新羅期の道具瓦集成(科学研究費補助金) 2008年度から3ヵ年の計画で、韓国国内で最も多い所蔵資料数を誇る韓国国立慶州博物館(以下、慶州博)ほか、韓国国立中央博物館や東国大学校博物館などの所蔵資料を中心に、実測や写真撮影、熟覧を行い、資料化を進めている。	A	順調
4513-8	8) 古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程(科学研究費補助金)	8) 古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程(科学研究費補助金) 過去2ヶ年の実測図作成に引き続き、X線写真や4×5フィルムへの撮影を行い、基礎情報を充実させた。さらに報告書作成のため各メンバーに遺物別の分担を割り振り、それぞれ図版の作成とデータのとりまとめを推進した。	A	順調
4514-1	(九州国立博物館) 1) 日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	【九州国立博物館】 1) 日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究 タイ王国芸術局、国立博物館事務局と共同研究を実施した。タイ芸術局の研究員3名を受入れ、文化財保存と展示、地域共生について研究を実施。研究員3名をタイに派遣、現地シンポジウムで日本の建造物保存、タイの博物館の市民共生プログラムについて相互に発表した。これを踏まえ平成22年度に日タイの文化を比較する展覧会を開催する。 日本と韓国の巨大掛軸をテーマとする展示、国際シンポジウムを開催した。	A	順調
4514-2	2) 文化財の材質・構造等に関する共同研究	2) 文化財の材質・構造等に関する共同研究 国宝阿修羅展に出品された八部衆・十大弟子像など、奈良時代の脱活乾漆像の保存状態と内部構造をデジタル情報として記録できた意義は大きい。この情報は今後の保管管理に役立つだけでなく将来の修理の基礎情報や脱活乾漆像の製作技法を解明する学術的な基礎情報として役立つことが期待される。	A	順調
4514-3	3) 博物館における文化財保存修復に関する研究	3) 博物館における文化財保存修復に関する研究(客員研究員) 吉備国際大学から2名、九州産業大学から2名、別府大学から3名の合計7名が参加した。少人数のため、実践的な研修が実施できた。	A	順調
4514-4	4) 博物館危機管理としての市民協同型 IPM システム構築に向けての基礎研究	4) 博物館危機管理としての市民協同型 IPM システム構築に向けての基礎研究(科学研究費補助金) 研修会等参加登録者は、九州国立博物館および地域連携機関のボランティアからなるが、毎回大変熱心な参加状況であり、市民の関心の高さがうかがえ、積極的な意見を集約することが可能となり、ミュージアム IPM 支援者育成プログラム案策定に充分	A	順調

		活かすことができた。今後は、本プログラムにより支援者育成を具体的に進める目途が得られた。公開シンポジウムでは市民の活動報告と専門家の講演により、市民の理解を深めることができた。		
4514-5	5) 文化遺産の保全に寄与する保存環境の構築	5) 文化遺産の保全に寄与する保存環境の構築 平成 18 年秋の特別展に福岡市内の神社が所有する市指定品の絵馬を借用した所、カビ被害が認められたので、同年当館保存修復施設で処置を実施し返却した。翌 19 年に再度カビが発生し、当館が指導助言依頼を受け、処置を行うと共に、神社宝物庫についての環境調査を平成 21 年 11 月まで実施し、保存環境ならびに日常管理の改善が必要であることがわかった。	A	順調
4514-6	6) 東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究 (UNESCO との共同)	6) 東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究 (UNESCO との共同) 中国においては UNESCO との共同調査により、貴州省内の少数民族布衣族と苗族の手漉き紙技術について調査した。 日本においては、美濃、越前、金沢、富山の手漉き和紙製作現場 5 ヶ所を調査した。	B	ほぼ 順調
4514-7	7) VR画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築 (科学研究費補助金)	7) VR画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築 (科学研究費補助金) 今年度の研究では、装飾古墳のうち石室 4 基 (佐賀市西隈古墳・宗像市桜京古墳・武雄市勇猛寺古墳・みやこ町古墳)、横穴墓 2 基 (泉崎村泉崎横穴・南相馬市羽山横穴) を対象とした。その結果、本研究によってデジタルアーカイブされた装飾古墳の総数は、石室 12 基・横穴墓 6 基で、福岡・大分・佐賀・熊本・福島の各県に亘った。特に、福島県の彩色壁画をもつ横穴墓の調査ができたことは、研究の広がりを考える上で大きな成果となった。また、今までの研究の中間報告として、報告書の作成と裸眼立体視による映像を作成して当館で展示を行った。	A	順調
4514-8	8) 近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勸業博覧会出品作品の研究 (科学研究費補助金)	8) 近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勸業博覧会出品作品の研究 (科学研究費補助金) 第一回内国勸業博覧会、第二回内国勸業博覧会の出品作品について、現存作品についての情報を収集し、それらについての画像データ集成を行なった。第二回内国勸業博覧会については当時出版の博覧会を紹介する文献から、画像による作品データが残されており、これもデジタル化して収集した。	A	順調
4514-9	9) トルキ山遼墓出土品から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術 (科学研究費補助金)	9) トルキ山遼墓出土品から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術 (科学研究費補助金) フフホトの内蒙古文物考古研究所および内蒙古博物館の作品資料調査 2 回 (延べ 5 名) と内モン自治区内の赤峰博物館、巴林右旗博物館、上京博物館などの資料調査 (延べ 4 名) を実施したほか、内蒙古文物考古研究所研究員らを招聘し、関西地区の資料調査および関係機関見学を実施した。	A	順調
4514-10	10) 室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究 (科学研究費補助金)	10) 室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究 (科学技術振興機構) 本年度は当該テーマについて次の二つの観点から研究し、下記の成果を得た。 (1) 足利将軍家が所蔵した中国仏画に注目し、これらに対する歴史的な認識を考察した。その陳列方法を分析することを通じて、室町時代の道釈画に対する意義付けに	A	順調

4514-11	11) 近世初期日本絵画における粉本使用例の基礎調査(科学研究費補助金)	<p>ついて知見を得た。</p> <p>(2)新出の『印譜集』(ハーバード大学燕京図書館蔵)を中心に、中国仏画に依拠して絵画を制作した室町時代の水墨画家に関する基本資料を収集した。</p> <p>11) 近世初期日本絵画における粉本使用例の基礎調査(科学研究費補助金)</p> <p>昨年度までの調査成果を踏まえ、主に以下の点で成果を得た。</p> <p>(1)「平家物語図屏風」(アメリカ・パークコレクション)や「三十六歌仙扁額」(福岡・宗像大社)など粉本を使用したと思われる 16 世紀の絵画作品のうち、代表的な 2 件についての基礎調査を行った。</p> <p>(2)東京芸術大学が所蔵する「住吉家鑑定控」の基礎調査を行った。</p>	A	順調
4514-12	12) 埴輪に認められる赤色顔料についての基礎的研究(科学研究費補助金)	<p>12) 埴輪に認められる赤色顔料についての基礎的研究(科学研究費補助金)</p> <p>埴輪に認められる赤色顔料は、全てベンガラであった。出土ベンガラは直径 1μm のパイプ状粒子を含むものと、これを含まないものに大別されるが、中国・四国、近畿地方ではパイプ状粒子を含むベンガラを用いる地域と、これを含まないベンガラを用いる地域があることがわかった。</p>	A	順調
4514-13	13) 被災した近現代歴史資料の救済のための簡便な真空凍結乾燥法の開発(科学研究費補助金)	<p>13) 被災した近現代歴史資料の救済のための簡便な真空凍結乾燥法の開発(科学研究費補助金)</p> <p>昨年度の歴史資料に続き本年度は写真資料での応用を試みた。被災を想定して、写真プリントを劣化させその要因や速度を考察した。水損によるプリントの固着も試し、原因を調べた。劣化条件の異なるサンプルを、真空凍結乾燥法で救済することが可能かを、本科研で作製した可搬式の簡便な真空凍結乾燥装置で試験をした。</p>	A	順調
4514-14	14) 近世初期対馬藩の政治構造と日朝交流(科学研究費補助金)	<p>14) 近世初期対馬藩の政治構造と日朝交流(科学研究費補助金)</p> <p>プロジェクト責任者が、平成 21 年 3 月 31 日付で退職(文化庁文化財部文部科学技官採用)したため、年度実績なし。</p>	F	—
4514-15		<p>15) X線CTスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析</p> <p>泉屋博古館の所蔵品を中心に、中国古代青銅器の内部構造データを系統的に集積したデジタルアーカイブを構築した。この成果を基に、中国側の古代鑄造技術研究者とも協力して共同研究を展開した。さらに、科学的な調査結果と広く観覧者に公開するためにトピック展示を実施した。</p>	A	順調
4521-1	<p>②公衆への観覧を図るための研究</p> <p>特別展、特別陳列等の展示の対象となる文化財の調査研究を行い、展示に反映させるほか、次の研究課題に重点的に取り組む。(東京国立博物館)</p> <p>1) 博物館環境デザインに関する調査研究</p>	<p>②公衆への観覧を図るための研究</p> <p>【東京国立博物館】</p> <p>1) 博物館環境デザインに関する調査研究</p> <p>展示のデザインのクオリティの向上を成立させるための設計技術や、デザインを実現・維持するための現場監理・物品管理に関する技術について、過去の事例や、他館における具体的な事例を調査した。</p> <p>また以上の技術・手法を、当館においてどのようなシステムで導入・実施が可能かを整理し、実現可能なものについては館内の展示において実施した。</p>	A	順調

4521-2	2) 博物館教育に関する調査研究	2) 博物館教育に関する調査研究 本館 20 室「みどりのライオン」での博物館ガイダンスやハンズオン体験コーナー、制作工程模型展示は年間で 10 万人を超える利用者があり、当館における博物館教育プログラムとして定着している。加島及び鈴木は、このプログラムを博物館教育の見地から調査研究し口頭発表した。	A	順調
4521-3	3) 博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築(科学研究費補助金)	3) 博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築(科学研究費補助金) 本年度は 4 年間の研究期間の最終年度にあたるため、これまでの調査研究成果を踏まえ、実験的な博物館教育プログラム「応挙館で美術体験」、博物館教育国際シンポジウム「伝統文化を伝えるために博物館ができること」を開催し、研究のまとめをおこなった。	A	順調
4521-4	4) 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	4) 博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究 東京国立博物館における収蔵品管理システムのプロトタイプについて、収蔵品検索機能、平常展管理機能、鑑査会議管理機能、貸与管理機能の各機能を継続的に運用し、改善すべき課題を抽出するとともに随時改善を重ねて性能向上を図った。また、鑑査会議管理機能における修理関連機能の機能要件を調査のうえ実装した。さらに、文化財移動情報登録システム等の外部システムとの連携について検討・実装を進めた。	A	順調
4521-5	5) 凸版印刷と協同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究を実施する。	5) 凸版印刷と協同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究を実施する 東京国立博物館と凸版印刷のスタッフが共同で、本年度は東京国立博物館の収蔵品の中かから洛中洛外図屏風 舟木本(重要文化財)について①デジタルアーカイブによる情報蓄積、②VR(バーチャルリアリティ)手法を用いたコンテンツの開発、③ミュージアム・シアターでのコンテンツの一般公開に関する調査研究を行なった。	A	順調
4521-6		6) クウジット株式会社と協同で、ロケーションアンプを利用した作品鑑賞補助実験「LocationAmp for 法隆寺宝物館」を実施する クウジット株式会社が開発した位置測位システムを用いた 아이폰(携帯端末機)に、東博と共同で製作した法隆寺宝物館に展示されている国宝灌頂幡ほか以下の 7 作品の解説データコンテンツを入力し、博物館来館者に実際に利用いただく実験を行い、博物館の作品鑑賞補助ツールに関する調査研究を行った。	A	順調
4521-7		7) 彫刻におけるデジタル立体造形の可能性と表現方法の研究・教育への応用(科学研究費補助金) 東京芸術大学美術館所蔵品の立体データアーカイブ作成の研究とデジタルデータによる教育としての応用研究ならびにコンピューター造形システムによる各入力プロセスの造形表現の研究を継続的に行ってきた。こうした研究におけるさまざまなデータをベースにしたレプリカを作成し、専門的な教育利用としての「触れる彫刻」の研究に反映させている。	A	順調
4522-1	(京都国立博物館) 1) 文化財情報に関する調査研究	【京都国立博物館】 1) 文化財情報に関する調査研究 ・当館のホームページや文化財情報システムに関する調査研究を実施	A	順調

4522-2	2) 西域出土文献に関する調査研究	<ul style="list-style-type: none"> ・現情報システムの現状調査と検討会の実施、およびシステム改良の実施 ・ウェブサイトのコンテンツ充実のための検討 ・管理サーバ導入に伴うシステム変更の検討 		
4522-3	3) 京都16本山をはじめとする日蓮法華宗寺院所蔵文化財の調査研究を踏まえて研究を進め、その成果を特別展覧会「日蓮と法華の名宝」に反映する。	<p>2) 西域出土文献に関する調査研究 サンクトペテルブルグにあるロシア科学アカデミー東洋写本研究所所蔵の東洋写本コレクションとエルミタージュ美術館の西域関係資料を調査し、展覧会用にロシア科学アカデミー東洋写本研究所からは127件、エルミタージュ美術館から1件を借用することとした。これらの成果に基づいて、特別展覧会「シルクロード 文字を辿って—ロシア探検隊収集の文物—」を開催した。</p> <p>3) 京都16本山をはじめとする日蓮法華宗寺院所蔵文化財の調査研究 京都日蓮法華宗関係資料を調査し、その歴史的位相を把握することができた。特に、新出資料または長年所在不明だった作品が多数発見されたことは特筆に値する。特に、高麗の弥勒下生変相図は、重要文化財級の発見として、記者会見も行き全国紙でも好意的に報道された。</p>	A	順調
4522-4	4) 長谷川等伯に関する調査研究	<p>4) 長谷川等伯に関する調査研究 長谷川等伯展に出品する候補作品のすべての調査を完了し、新たな視点からの検討を加えた。その中には信春時代に制作されたと推定される、きわめて重要な新発見の金碧花鳥図屏風も含まれている。その詳細は、京都国立博物館研究紀要『学叢』第31号(平成21年5月)に「信春時代の等伯筆金碧花鳥図屏風」と題して論じた。</p>	A	順調
4522-5	5) 特別展覧会「高僧と袈裟」(仮称)の開催に向けての調査研究	<p>5) 特別展覧会「高僧と袈裟」(仮称)の開催に向けての調査研究</p> <p>① 国および地方公共団体の指定文化財を中心に、全国の袈裟・頂相・袈裟に関する古文書の所蔵状況調査を行い、とりわけ注目される作品については、実見調査と顕微鏡撮影を行った。その中には、これまで知られていなかった作品も含まれており、そのうちの一件については地方紙で大きく報道された(高知新聞)。中国・杭州にて、関連する出土作品を調査し顕微鏡撮影を行った。</p> <p>② 寄託されている袈裟の約半数について詳細な調査と顕微鏡撮影を行い、それらのデータを蓄積するデータベースを構築した。</p>	A	順調
4523-1	(奈良国立博物館) 1) 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究成果の一部を特別展「国宝 鑑真和上展」・「憧憬の中国仏教—聖地寧波をめぐる人と美術—」並びに特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」及び「お水取り」に反映させる。	<p>【奈良国立博物館】</p> <p>1) 南都諸社寺等に関する計画的な調査研究 唐招提寺、東大寺、春日大社及び「聖地寧波」に関連する文化財を蔵する諸寺への働きかけを行って所蔵文化財の調査を実施し、その成果を特別展・特別陳列に反映させるとともに、報道発表などを通して発信した。</p>	A	順調
4523-2	2) 我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の一部で、平常展の充実を図る。	<p>2) 我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究 学術交流協定を締結している中国・韓国の博物館との間で研究員の派遣・受け入れを行い、活発な研究交流・情報交換を行うことができた。また特別展開催の前提として行った、中国・朝鮮半島で制作された文物に対する調査研究の成果を、展示に反映させることができた。</p>	A	順調

4524-1	<p>(九州国立博物館)</p> <p>1) 高齢者・障がい者・外国人等の利用者の視点に立った、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの研究・実践(UMP: Universal Museum Project)を展開する。</p>	<p>【九州国立博物館】</p> <p>1) 高齢者・障がい者・外国人の利用者に対しての、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの改善、改修方策についての調査研究</p> <p>当館は1階エントランスホールが広いため、来館者をそれぞれの目的の場所へスムーズに誘導するための方策について検討してきた。今年度は、九州大学芸術工学研究院森田研究室と共同で来館者への調査や検討会を実施したことにより課題が明らかになり、改善のための方策を確立することができた。</p>	A	順調
4524-2	<p>2) 平成20年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査を受けて、継続的かつ発展的に調査研究活動を行なう。</p>	<p>2) 平成20年度特別展「工芸のいま 伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査研究</p> <p>平成21年度西部伝統工芸展、日本伝統工芸展など、今年度開催の工芸展で作品調査を行なった。陶芸部門では、西部工芸会陶芸部会の研究会に参加し、新たな創作活動の展開について調査し、これまでに対象となっていなかった若手作家も調査に加わった。</p> <p>タイと共同で開催する展覧会の中に伝統工芸を位置づけ、日本の伝統技術によって現代に展開する工芸を紹介することとし、そのための予備調査を行なった。</p>	A	順調

5 文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

【中期目標】文化財の保存・修復に関する国際協力の拠点としての位置づけを明確化するとともに、その機能の充実を図ること。また、研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークの構築、アジア諸国等における文化財の保存・修復 協力、技術移転・専門家養成等の支援等、有機的・総合的な事業展開を行い、人類共通の財産である文化財の保存・修復に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与すること。

(1) 保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤の整備

【中期目標】文化財の保存・修復に関する国際協力の拠点としての位置づけを明確化するとともに、その機能の充実を図ること。

<p>【中期計画】</p> <p>(1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国において文化財の保存・修復事業を推進する。</p>	<p>【主な計画上の評価指標】</p> <p>○情報の収集・分析及びその提供を行うこと。 ○国際協力のネットワークを構築すること。</p>
--	---

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
5111	文化財の保存・修復に関する国際協力に関して、以下の事業を有機的・総合的に展開することにより、人類共通の財産である文化財の保存・修復に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与する。 (1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また、国内の研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国において文化財の保存・修復事業を推進する。 ① ユネスコ、ICOMOS、ICOM などが行う主要な国際会合へ出席し、情報の収集を行うとともに諸外国の文化財保護施策等の調査を行う。アジア地域の文化財保護機関と連携して文化遺産国際ワークショップを行い、当該地域における文化財情報の収集に努めるとともに、今後の協力関係を築く基礎とする。また、国際協力に関する国内ワークショップを開催する。	(1) ① 文化財保存施策の国際的研究 文化財保存施策の国際的研究について、以下の事業を実施した。 1. 世界各地で開催された研究会やワークショップに積極的に参加し、文化財の保存に関わる各種の情報を収集し、分析した。 2. 国際ワークショップの開催：アジア各国の専門家を招へいしてアジアの文化財について考えるラウンドテーブル形式の国際会議を1回、国内外の専門家を講師とする一般公開の国内専門家向け研究集会を1回、計2回開催した。	A	順調
5121-1	② 文化財の保存修復事業及び国際共同研究事業を以下のように実施する。 ア カンボジア・アンコール遺跡群のタ・ネイ遺跡及び西トップ寺院遺跡において建築史的、考古学的、保存科学的調査を実施する。タイ・スコータイ遺跡及びアユタヤ遺跡では、生物被害に関する保存科学的調査研究を行う。	②-ア-1 アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究 文化財石材が屋外で風雨に晒される場合に比べ、覆屋内で保存されると、風化が軽減されることを定量的に示した。また、タイ・スコータイ遺跡について、覆屋の効果を含めた環境調査を実施した。さらに、微生物が石材の風化に与える影響について、カンボジアのアンコール遺跡において検討した。	A	順調
5121-2		②-ア-2 カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ寺院遺跡の建築史	A	順調

		<p>的、考古学的、保存科学的調査</p> <p>考古班は西トツプ寺院の前面にある小ストウーパの調査を行い、建立時期と変遷を明らかにした。建築班は引き続き実測調査を行い、中成基壇までの図を作成するとともに、全体の構造変遷に理解を深めた。</p>		
5122-1	イ 敦煌莫高窟壁画保存と制作技法に関する現地調査及び研究を実施し、報告書を作成する。また、陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究を実施する。	<p>②-イ-1 龍門石窟及び陝西省唐代陵墓石彫像の保存修理に関する調査研究</p> <p>2009年度は、まず陝西省考古研究院との共同研究体制の構築を行い、次いで同研究院の指導者、保存修復部門担当者に我々の調査方法の原理を理解してもらうことを目的として、作業を行った。</p>	A	順調
5122-2		<p>②-イ-2 敦煌壁画の保護に関する共同研究</p> <p>共同調査・研究は4年目を迎え、壁画の制作材料と技法に関する知見の蓄積から、考察とまとめの段階に入りつつある。今年度の調査研究では、昨年度までに行ってきた研究の成果をもとに、個別のテーマを選択してさらに詳細な観察を行い、第285窟壁画を構成する材料と技法に関して、その特徴を明確なものとする作業を行った。研究は写真撮影、表面観察、分析調査、データの集積という基礎的な作業から、多彩な図案を彩る色彩効果の問題、劣化メカニズムの問題へと、進展している。</p>	A	順調
5123	ウ アフガニスタン(主としてパーミヤーン)及びイラクの文化財保存修復協力事業を実施し、また、あわせて周辺地域の文化財調査研究を実施し、西アジア諸国等における文化財の保存協力事業に役立てるとともに、これらの成果について報告書を作成する。	<p>②-ウ 西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業</p> <p>○アフガニスタン：文化財専門家の人材育成・技術移転、専門家会議への出席、報告書の作成・出版、外部機関との共同研究。</p> <p>○イラク：文化財専門家の人材育成・技術移転。</p> <p>○西アジア周辺諸国文化遺産の調査研究・保護への協力等：トルコ、シリア、タジキスタン、インド、中央アジア諸国、エジプト。</p>	A	順調

(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進

<p>【中期目標】研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークの構築、アジア諸国等における文化財の保存・修復 協力、技術移転・専門家養成等の支援等、有機的・総合的な事業展開を行い、人類共通の財産である文化財の保存・修復に関する国際協力を通じて、我が国の国際貢献に寄与すること。</p>	
<p>【中期計画】</p> <p>(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。</p> <p>また、アジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。</p>	<p>【主な計画上の評価指標】</p> <p>○諸外国への技術移転を積極的に進めること。</p> <p>○アジア諸国における専門的な人材の育成のための支援事業等を行うこと。</p> <p>【20年度評価における主な指摘事項】</p> <p>○水浸出土木材の保存修復は、国際的に大きな課題である。その手法や工程、ノウハウは我が国において形となってきた段階にあり、技</p>

		術移転等は機を得たものと思われる。		
処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
5211	(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転を積極的に進める。また、アジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業を国内外で実施するとともに、人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発を行う。 ア 中国、アフガニスタン、イラク等の考古学、建造物、歴史資料及び保存科学等の保存専門家養成研修を国内並びに現地で実施する。	(2) ア 諸外国の文化財保存修復専門家養成 諸外国における文化財の保存・修復に携わる専門家の研修において使用することを目的とした、教科書(日本語版および英語版)とビデオDVD(日英2ヶ国語ナレーション)を作成した。	A	順調
5212	イ 国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力及び文化財保存修復に関する国際支援に係る調査を行う。	イ 国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力 国際協力機構、ユネスコアジア文化センター等が実施する研修への協力を行った。国際協力機構からはエジプトの博物館研修生の受入れを行った。ユネスコアジア文化センターからは本年も個人研修と集団研修の研修受入れ要請があり、個人研修はラオス人とモンゴル人に対して研修を行った。集団研修は各国の研修生を受入れ、木造建造物の保存修復を中心とした研修を行った。さらに本年はベトナムのホイアンで行われたワークショップにも研究員を派遣し、おもに木造建造物の保存修復に関する研修を行った。	A	順調

6 情報発信機能の強化

【中期目標】 調査及び研究の成果について、迅速な報告書の発行、利用価値の高いデータベースの構築等により、適時適切な公表を推進するとともに、施設の有効活用を図ることにより、研究者をはじめ広く社会に還元すること。

(1) 情報基盤の整備充実

【中期目標】 -----

【中期計画】

(1) 文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。
また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。

【主な計画上の評価指標】

○ネットワークセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備充実を図ること。
○文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図ること。

【20年度評価における主な指摘事項】

○東博の写真資料がデジタルアーカイブ化され、写真借用がスムーズにできるのは便利である。今後は利用者のニーズに細やかに対応して欲しい。
○なお、実施した活動はわかるが、具体的な計画と進捗状況という観点から活動の全体像が見えるような工夫が望まれる。

処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
6111	以下のとおり、調査・研究に基づく資料の作成及び文化財に関連する資料の収集・整理・保管を行うとともに、調査・研究成果を積極的に公表・公開し、研究者や広く一般の人が調査・研究成果を容易に入手できるようにする。 (1) 文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。 また、文化財情報の計画的収集・整理・保管及びそれらの電子化の推進による文化財に関する専門的アーカイブの拡充を行うとともに、調査研究に基づく成果としてのデータベースの充実を図る。	(1) ①-1 情報システムの整備 まずシステム管理については、保守契約等の協議、メールアカウントの管理、コンピュータ・ウィルス対策を行い、現在のネットワーク環境の維持に努めた。またネットワーク環境の整備の一環として、国立文化財機構組織間VPNの接続の準備、居室内スイッチの更新、情報セキュリティ強化システムの導入を進め、情報基盤の整備と拡充を進めた。	A	順調
6112	① ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図る。	①-2 ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実 USBワームによるコンピュータウィルスの感染報告が1件あったが、それ以上の感染が拡大することもなく運用ができた。	A	順調
6121	② 文化財に関する専門的アーカイブの拡充を図る。	②-1 専門的アーカイブの拡充 1) 公開用SQLデータ・画像データの更新・運用。 2) 画報社版『日本美術年鑑』のテキスト化	A	順調

		3)劣化が進む貴重雑誌のCD-ROM化 4)『鈴木敬旧蔵寄贈目録』の刊行		
6122		②-2 東京文化財研究所七十五年史編纂事業 『東京文化財研究所七十五年史 本文編』を平成 21 年度に刊行することができた。	A	順調
6123		②-3 無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化 2006 年度までに受入れ手続きが完了した資料の内、経年変化に伴う音質劣化が懸念されるオープンテープのデジタル化を昨年度に引き続き実施した。所蔵画像資料のデジタル化についても、データベース作成の一環として、昨年度から本格的に始まった歌舞伎写真(2008 年度寄贈・故梅村豊撮影)の整理を進めた。	A	順調
6131	③ 文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供について充実するよう努める。	③-1 国際資料室の整備 資料収集、データベース化：国内外で図書その他の資料を収集し、整理・分類して目録に登録し、データベース化した。	A	順調
6132		③-2 文化財関係資料や図書の収集・整理・公開・提供の充実 遺跡の発掘調査報告書、歴史的建造物の修理報告書等歴史・考古学分野を中心に図書・逐次刊行物の購入および寄贈による収集・整理を行った。また、発掘調査関係の遺跡、建造物、庭園等の写真の収集、整理を行った。	A	順調
6141	④ 文化財情報電子化の研究に基づき、データベースの充実を図る。	④-1 文化財保存修復国際情報データベース化に関する研究 情報収集、データベース化：平成 13 年から収集している世界各国の文化財保護に関連する法令について、和訳を行うとともに、保護の対象とする文化財により分類、データベース化した。 情報の発信として出版物の PDF 化を実施した。また、「各国の文化財保護法令シリーズ」としてカザフスタン、キルギス、トルクメニスタンの法令集およびフランス文化財法典(前編)を出版した。	A	順調
6142		④-2 文化財情報電子化の研究に基づくデータベースの充実 文化財情報電子化の研究を通じて、GIS を活用した文化遺産情報の取得・管理に関する最新的手法を開発するとともに、研究成果を学会で発表することにより学界に寄与している。開発・改良を継続している各種データベースについて業務用とともに公開用についても充実を図った。	A	順調

(2) 研究所の研究成果の発信

【中期目標】 -----	
【中期計画】 (2) 文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成 17 年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を	【主な計画上の評価指標】 ○公開講演会、現地説明会、国際シンポジウム等を積極的に行うこと。 ○HP の充実を図り、HP アクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保すること。

前期中期計画期間の年度平均以上確保する。		【20年度評価における主な指摘事項】 ○研究所のHPを一層充実して欲しい。		
処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
6211	(2) 文化財に関する調査・研究に基づく成果について、定期的な刊行物を平成18年度の実績以上刊行するとともに、公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等により、積極的に公開・提供する。また、研究所の研究・業務等を広報するためホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数を前期中期計画期間の年度平均以上確保する。	(2) ①-1 『東京文化財研究所年報』・『東京文化財研究所概要』・『東文研ニュース』の刊行 『年報』2008年度版、『概要』2009年度版、『東文研ニュース』37号-40号、『東文研ニュースダイジェスト』（『東文研ニュース』英語版）6号-7号をそれぞれ刊行し、研究所の情報発信に努めた。	A	順調
6212	① 定期刊行物の刊行 ○『東京文化財研究所年報』 ○『東京文化財研究所概要』 ○『東文研ニュース』 ○『美術研究』（年3冊）	①-2 『平成 年度日本美術年鑑』・『美術研究』の刊行 『日本美術年鑑』を年1冊、『美術研究』を年3冊刊行することを目的とし、今年度は『平成20年版 日本美術年鑑』及び、『美術研究』398～400号を刊行することができた。	A	順調
6213	○『日本美術年鑑』（年1冊） ○『無形文化遺産研究報告』（年1冊） ○『無形民俗文化財研究協議会報告書』（年1冊） ○『保存科学』（年1冊）	①-3 『無形文化遺産研究報告』・『無形民俗文化財研究協議会報告書』の刊行 1) 主として無形文化遺産部研究員の業績に基づく論考・報告・資料紹介等を内容とする『無形文化遺産研究報告』第4号の刊行。 2) 平成21年11月19日に開催した無形民俗文化財研究協議会での事例報告・総合討議を内容とする『第4回無形民俗文化財研究協議会報告書』の刊行。	A	順調
6214	○『奈良文化財研究所紀要』 ○『奈良文化財研究所概要』 ○『奈文研ニュース』 ○『埋蔵文化財ニュース』	①-4 『保存科学』49号の出版 29件の投稿を受け、外部査読者2名を含む編集委員会で査読を行い、報文9本、報告20本、合計29本の掲載を決定した。本誌の体裁は変更せず、総ページ数287ページ、600部印刷、関係諸機関に約580部配布した。	A	順調
6215		①-5 第32回文化財の保存・修復に関する国際研究集会報告書の刊行 2008(平成20)年12月6～8日の三日間にわたり、東京国立博物館平成館大講堂にて開催した第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「“オリジナル”の行方—文化財アーカイブ構築のために」の報告書を刊行した。	A	順調
6221	② 公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催等 ○国際シンポジウムの開催(年1回) ○公開学術講座(オープンレクチャー)(年1回) ○公開講演会(年4回)(飛鳥資料館特別展に伴う講演会(年2回)を含む)	②-1 研究報告書、年報、研究論文集、図録等の刊行 紀要等2点、ニュース2種8点、研究報告書・研究論文集11点、史料等4点、図録・カタログ6点、リーフレット4点、パンフレット5種16点、合計51点を刊行し、研究成果を順調に刊行できた。	A	順調
6222	○現地説明会(年6回)	②-2 第33回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会 2009年11月12日～14日の三日間にわたり、東京国立博物館平成館大講堂にて開催した。14講演と総合討議を行い、様々な分野から総数で356名の参加があった。	A	順調
6223		②-3 平成21年度オープンレクチャー	A	順調

6224		平成 21 年度に第 43 回企画情報部オープンレクチャー「人とモノの力学」と題して 4 講演を 2 日間にわたり開催した(参加者数: 258 人、アンケートによる満足度: 93%(回収率: 86%)。				
6231	③ ホームページアクセス件数の前期中期計画期間の年度平均以上の確保	②-4 公開講演会、現地説明会等の開催 研究所が行う調査研究を適時適切に国民に公表するため、公開講演会を 2 回、飛鳥資料館特別講演会を 2 回、計 4 回の公開講演会等を開催した。また、発掘調査に伴う現地説明会等を平城地区、飛鳥藤原地区あわせて計 6 回実施した。参加延べ人数は、公開講演会等が 1,018 名、現地説明会等が 7,184 名に上り、開催回数、参加者数ともに従来水準を維持し順調に事業が実施できた。	A	順調		
6232		③-1 ホームページの運用 キッズページ(日本語版・英語版)の新設、携帯サイトの新設など、ホームページの内容の充実を図り、研究所がもつ情報発信機能の向上に努めた。	A	順調		
		③-2 ホームページの充実を図り、ホームページアクセス件数の前期中期計画期間の年度平均以上の確保 奈良文化財研究所が公開する『木簡画像データベース』と東京大学史料編纂所が公開する『電子くずし字字典データベース』を連携して両データベースの一括検索を可能とした。 また、研究所のホームページをより充実させるために、各部・室における事業内容、研究発表等を紹介するページの作成を開始した。	A	順調		
		定量評価	21 年度	20 年度	目標値	評定
		定期刊行物の刊行				
		美術研究	3	3	3	A
		日本美術年鑑	1	1	1	A
		保存科学	1	1	1	A
		国際シンポジウムの開催	1	1	1	A
		公開学術講座(オープンレクチャー)	1	1	1	A
		公開講演会	4	3	4	A
		現地説明会	6	5	6	A
		ホームページのアクセス(件)	2,448,108	2,106,989	1,122,695	S
		うち東京文化財研究所	1,417,203	1,405,278		
		うち奈良文化財研究所	1,030,905	701,711		

(3) 研究所所管の展示公開施設の充実

【中期目標】 -----	
【中期計画】 (3) 黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに	【主な計画上の評価指標】 ○入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上を確保すること。

資する。入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上確保する。								
処理 番号	年度計画	主な実績			自己評価			
					年度	中期		
6311	(3) 黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館については、研究成果の公開施設としての役割を強化する観点から展示を充実させ、調査・研究成果の内容を広く一般に理解を深めてもらうことに資する。入館者数については、前期中期計画期間の年度平均以上確保する。 ○ 黒田記念館における作品の展示公開 常設展(毎週木曜日、土曜日の午後開館) 共催展の開催(1回) 年間目標入館者数 10,200人(評価指標:10,531人)	(3) ○ 黒田記念館における作品の展示公開 一般公開入場者 20,345人 「赤外線的眼で見る《昔語り》」(黒田記念館二階展示室、10.2.25-7.10) 「近代洋画の巨匠 黒田清輝展」(島根県立石見美術館、09.7.18-8.31)入場者 15,180人	A		順調			
6312	○ 平城宮跡資料館における展示・公開(平成21年6月～平成22年3月まで改装・改修工事のため休館) 常設展(月曜日休館 無料公開) 新たな展示計画を策定し常設展示を改装・改修する。	○ 平城宮跡資料館における展示公開((5)「平城遷都1300年記念事業」と一体的に実施) 平城宮跡資料館の改修工事に伴う閉館のため、本庁舎にガイダンスコーナーを設置した。常設展・企画展を実施し、調査研究の成果公開や情報発信に努めた。特に特別企画展「地下の正倉院展」は好評を博した。	A		順調			
6313	○ 飛鳥資料館における常設展示の充実と特別展示の開催 常設展示(月曜日、年末年始休館 有料公開) 特別展示(年2回) 企画展の開催(年1回) 年間目標入館者数 55,400人	○ 飛鳥資料館における展示公開 春期特別展「キトラ古墳壁画四神-青龍白虎-」を4月17日から6月21日まで開催するとともに、期間中の5月8日から5月24日までキトラ古墳壁画の特別公開をおこない、青龍図と白虎図を展示した。夏期企画展は8月1日から8月30日に「甦るクメール文明-世界文化遺産アンコール遺跡群-」を開催、期間中の8月2日に講演会、8月1日、8月2日、8月14日、8月15日にギャラリートークをそれぞれおこなった。秋期特別展は、10月16日から11月29日に「北方騎馬民族のかがやき-三燕文化の考古新発見-」をおこない、10月17日に日中特別講演会「北方騎馬民族のかがやき-三燕文化の考古新発見-」をおこなった。冬期企画展は、1月22日から2月28日に「飛鳥の考古学2009」を開催した。	A		順調			
6314	○ 藤原宮跡資料室における展示・公開 常設展(土・日曜日、祝日、休日、年末年始休館 無料公開) 年間目標入館者数 3,800人	○ 藤原宮跡資料室における展示公開 藤原宮跡資料室において、常設展示、発掘調査成果の速報展示などを通年で実施し、展示公開の充実を図った。エントランス部分では、発掘調査成果を速やかに公開するために、速報展示コーナーを設け、継続して、多様な調査成果を公開した。あわせて、展示のための資料制作、各地の博物館などへの出陳も行った。	A		順調			
		定量評価						
		入館者数			21年度	20年度	目標値	評定

	黒田記念館	20,345	19,038	10,531	S
	平城宮跡資料館	25,127	92,597	72,500	C
	飛鳥資料館	77,347	84,608	55,400	A
	藤原宮跡資料室	4,341	4,423	4,486	B

(4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力

【中期目標】 -----				
【中期計画】 (4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティア事業を運営するとともに、各種ボランティアに対して、活動機会・場所の提供等の支援を行う。			【主な計画上の評価指標】 ○文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力すること。また、ボランティアへの活動支援を行うこと。	
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
6411	(4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力し、支援を実施する。また、宮跡等への来訪者に文化財に関する理解を深めてもらうため、解説ボランティア事業を運営するとともに、各種ボランティアに対して、活動機会・場所の提供等の支援を行う。	(4) ○平城宮跡解説ボランティア事業の運営 ボランティア解説者の学習等による案内解説は、熟達した高度な文化解説から十分な成果が認められる。	A	順調
6412	○平城宮跡解説ボランティア事業の運営 ○各種ボランティアに対する活動機会・場所の提供、文化財に関する学習会の実施等への支援	○各種ボランティアに対する活動機会・場所の提供、文化財に関する学習会の実施等への支援 各種のボランティア団体への支援により、解説ボランティア事業の活性化に繋がった。	A	順調
6413		○平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業への協力 ◇平城宮跡における文化庁平城宮跡等管理事務所の運営及び飛鳥・藤原宮跡の保存活用に対し、積極的な協力を行った。 ◇文化庁宮跡等整備及び公開活用等事業等に対し、積極的な支援協力及び関係機関等との調整を行った。 ◇関連受託事業：特別史跡平城宮跡及び特別史跡藤原宮跡地における歴史的環境維持・整備業務 平城宮跡、藤原宮跡の維持管理のために、宮跡地内の草刈・植栽業務等を実施した。平城宮跡〔対象面積：915,150㎡〕、藤原宮跡〔対象面積：257,840㎡〕	A	順調

(5) 平城宮遷都1300年記念事業への協力

【中期目標】 -----				
【中期計画】 (5) 奈良県の「平城遷都1300年記念事業」にあわせ、平城京についてのこれまでの調査・研究成果を生			【主な計画上の評価指標】 ○奈良県の「平城遷都1300年記念事業」にあわせ、平城京についての	

かした展示・公開事業を行う。		これまでの調査・研究成果を活かした展示・公開事業を行うこと。		
処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
	(5) 奈良県の「平城遷都 1300 年記念事業」に向け最新の調査・研究に基づく平城宮跡資料館の展示リニューアル、及び古代都城等に関する国際共同研究の成果の展示・公開について検討する。	(5) (3) 「平城宮跡資料館における展示公開」参照。		

(6) 文化財情報・研究成果の公表

【中期目標】 -----				
【中期計画】				
(6) 文化財情報・研究成果などを広く公表すること等を通じて歴史・伝統文化に対する理解が深まるよう努める。				
①ウェブサイト等自主媒体の活用及びマスメディアとの連携強化等により、広く国内 外に情報を発信する。 ウェブサイトのアクセス件数は年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ることとする。				
②-1 収蔵品等の文化財その他関連する資料の情報について、永く後世に記録を残すために、デジタル化を推進し、文化財情報システム等により広く積極的に公開する。また、収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにする。				
②-2 美術史・考古学・博物館学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能を充実させる。				
【主な計画上の評価指標】				
○ウェブサイトのアクセスの年間平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回ること。				
○収蔵品等に関するデジタル化件数は、年間の平均が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るようにすること。				
○情報資料を収集し、レファレンス機能を充実させること。				
【20 年度評価における主な指摘事項】				
○WEBサイトのアクセス件数は評価できるが、目標件数の設定は再検討の余地があるように思われる。				
○WEBについて日本語はかなり充実しているが、英語だけでも日本語と同レベルの情報が欲しい(東博・九博は既にできている。)				
処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
6611	(6) 文化財情報の公開促進 文化財に関する情報を積極的に発信し、国内外における日本文化への理解を深める。 ① ウェブサイト等による情報の発信 ウェブサイトのアクセス件数が増加するよう内容の充実を図る。 (東京国立博物館) 1) 情報アーカイブにおいて公開中の文化財データベースの充実を図る。 2) 携帯電話サイトによる情報提供サービスについて検討する。	(6) 文化財情報の公開促進 ① ウェブサイト等による情報の発信 【東京国立博物館】 ・情報アーカイブサイトでの調査研究成果の公開を継続した。 ・列品管理プロトタイプデータベースを更新し、列品情報の公開を行うためのデータ整備を推進した。 ・モノクロフィルムの画像データベースについて、館内業務および資料館において公開しているメタデータを追加した。 ・古文書の画像データベースを公開した(予定)。 ・国指定文化財の高精細画像および解説文(e 国宝)について作業を進め、一般公開のための管理システム等の開発を行った。 ・携帯電話サイトによる情報提供サービスの実施について引き続き検討を行い、次年度の開設を目標として準備を進めた。	S	順調

6612	<p>(京都国立博物館)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 携帯電話端末用ウェブサイトの充実を図り、利用者の拡大とサービスの向上を図る。 2) 学術研究公開の一環として、研究紀要「学叢」をウェブサイトで公開する。 3) 既刊の博物館ディクショナリーをウェブサイトに掲載するとともに、新刊の博物館ディクショナリーをメールマガジンで配信し、利用者の拡大を図る。 	<p>【京都国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン向けサイト及び携帯電話端末用サイト内の特別展覧会、各種講座・イベント等のコンテンツを適宜更新し、モバイルユーザーに対して、最新の博物館情報が提供に努めた。 ・トップページリニューアルを行い、館蔵品の高精細画像検索をより利用しやすい状況に置くなど、利用者の拡大とサービスの向上に努めた。 ・館外での作品公開一覧ページを作成し、館外で見られる当館収蔵作品の情報を発信した。 ・管理サーバの導入により、定義ファイルの自動更新、ウイルスチェック及びセキュリティ強化を実施した。 ・学術研究公開の一環として、研究紀要「学叢」をウェブサイトで公開した。 ・既刊の博物館ディクショナリーについて、処理が完成したものからウェブサイトに掲載するとともに、21年度刊行分についてメールマガジンで配信した。 	A	順調
6613	<p>(奈良国立博物館)</p> <p>当館保有の文化財の写真並びに研究成果の公開の充実を図る。</p>	<p>【奈良国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PC用ホームページに、新たな機能として「収蔵品データベース」を掲載した(10月)。これにより情報発信機能が強化されたので、今後は収録データの追加・充実に努めていく。 ・広報誌「奈良国立博物館だより」(年4回発行)に、研究員による調査研究成果の発表の欄を設け、すべての号に記事を掲載した。 ・研究紀要『鹿園雑集』11号を刊行し、論文3本、資料紹介1本、調査報告2本を掲載した。 	A	順調
6614	<p>(九州国立博物館)</p> <p>ウェブサイトで提供する情報の充実を図るとともに、利用者からの利便性を考慮した情報の発信に努める。</p>	<p>【九州国立博物館】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 九州国立博物館ホームページの年間スケジュールリニューアル及び情報公開頻度増加 ② ホームページ利用者からの意見を、ホームページ内の九博メールで対応 ③ 特別展ごとに「ブログるぼ」の実施 ④ 「九州国立博物館の展示並びにイベントのご案内」チラシの作成及びホームページ掲載 	A	順調
6621-1	<p>②-1 デジタル化の推進 (4館共通)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 収蔵品のデジタル画像による来館者への情報提供及びインターネットでの公開を継続して行う。 2) 収蔵品の国宝について、5か国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(e国宝)の提供を継続して行う。 	<p>②-1 デジタル化の推進 【東京国立博物館】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 収蔵品等のモノクロ画像のデジタル化を継続し、主要な既存フィルムデジタル化をほぼ完了した。 2) マイクロフィルムは目標を大幅に上回るデジタル化を行い、ほぼデジタル化を完了した。 	S	順調

6622-1	<p>3) 76,100件(東京:73,000、京都:2,500、九州:1890)の収蔵品写真のデジタル化を実施する。</p> <p>4) 当館所蔵の指定文化財の画像を高精細画像化し、ウェブサイト上で公開する。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <p>1) 収蔵品の基本情報のデータ化を実施する。</p> <p>2) 法隆寺献納宝物について、5か国語(日本語、英語、中国語、韓国語、フランス語)の説明を付したデジタル高精細画像(「法隆寺献納宝物デジタルアーカイブ」)等の提供を法隆寺宝物館にて継続して実施する。</p>	<p>3) 国指定文化財のデジタル撮影を集中的に実施し、既存の画像データについては編集・加工を行なった。また国指定文化財の情報と解説文を整備し、公開にむけて英、仏、中、韓の各国語に翻訳した。</p> <p>4) 法隆寺献納宝物のデジタルアーカイブの提供を継続した。</p> <p>【京都国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品のデジタルデータを作成し、文化財情報システム及び公開収蔵品データベースへの登録を随時行っている。 ・重要文化財高精細画像公開システム「KNM GALLERY」で公開されている作品のほぼ全てについて、6か国語(日英韓中仏西)による解説を加えた。 <p>【奈良国立博物館】</p> <p>本事業は、仏教美術を中心とする文化財に関わる情報の蓄積を図り、館内における調査研究に活用するとともに、広く一般への公開をおこなうことを目的としている。このことを実施するために必要な情報システムの構築、ネットワークの整備もあわせておこなう。</p> <p>データベース:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査および写真撮影をおこなった文化財について、情報システムへデータを入力し、7,878件登録・更新した。 ・上記のうち公開準備のできたデータを写真データベースから3,995件公開した。 ・以前より作業を進めてきた収蔵品データベースの構築が一旦完了し、正式公開をおこなった。これにともない、整備をおこなっていた収蔵品のデータ4,461件から、公開準備のできたものを1,830件公開した。 <p>画像データ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の補正予算により、館蔵品を中心にカラーポジフィルム6,181枚、X線フィルム2,928枚をデジタル化した。 ・同じく補正予算により、当館で保管する日本美術院彫刻等修理記録のデジタル化をおこない、紙媒体資料のデジタル撮影を75,305カット、ガラス乾板のデジタル化を6,141枚実施した。 <p>【九州国立博物館】</p> <p>収蔵品のデジタルデータを作成した。(3,574件)</p>	A	順調
6623-1	<p>(奈良国立博物館)</p> <p>1) ウェブサイトに掲載中の写真検索システムの個別データを約2,000件追加更新する。</p> <p>2) デジタル高精細画像を活用し、有料画像提供の推進を図る。</p>	<p>本事業は、仏教美術を中心とする文化財に関わる情報の蓄積を図り、館内における調査研究に活用するとともに、広く一般への公開をおこなうことを目的としている。このことを実施するために必要な情報システムの構築、ネットワークの整備もあわせておこなう。</p> <p>データベース:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査および写真撮影をおこなった文化財について、情報システムへデータを入力し、7,878件登録・更新した。 ・上記のうち公開準備のできたデータを写真データベースから3,995件公開した。 ・以前より作業を進めてきた収蔵品データベースの構築が一旦完了し、正式公開をおこなった。これにともない、整備をおこなっていた収蔵品のデータ4,461件から、公開準備のできたものを1,830件公開した。 <p>画像データ:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の補正予算により、館蔵品を中心にカラーポジフィルム6,181枚、X線フィルム2,928枚をデジタル化した。 ・同じく補正予算により、当館で保管する日本美術院彫刻等修理記録のデジタル化をおこない、紙媒体資料のデジタル撮影を75,305カット、ガラス乾板のデジタル化を6,141枚実施した。 <p>【九州国立博物館】</p> <p>収蔵品のデジタルデータを作成した。(3,574件)</p>	S	順調
6624-1		<p>【九州国立博物館】</p> <p>収蔵品のデジタルデータを作成した。(3,574件)</p>	A	順調
6621-2	<p>②-2 博物館関係資料の収集、レファレンス機能の強化</p> <p>美術史・考古学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館・美術館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図る。また、資料の登録や検索・利用については、最新の情報処理技術を用いた、活用しやすいシステムを開発する。</p>	<p>②-2 博物館関係資料の収集、レファレンス機能の強化</p> <p>【東京国立博物館】</p> <p>〈収集〉購入図書480冊、寄贈・交換図書2,931冊、館蔵品等の写真資料4,177枚</p> <p>〈整理〉新規整理 図書3,411冊、逐次刊行物3,790冊、</p>	A	順調

6622-2	<p>(4館共通) 約11,600件(東京:3,000、京都:5,000、奈良:3,000、九州:600)の収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データを整備する。</p> <p>(東京国立博物館)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学芸業務支援システムの構築を進める。 2) 資料館において、美術史等の情報及び資料を一般に広く公開するために、図書管理システムを軸とした図書資料などのデータ整備を推進し、レファレンス機能とサービスの充実を図る。 3) 法隆寺宝物館において、観覧者向け図書コーナーサービスを継続実施する。 4) 図書資料の良好なコレクション構築のために収集方針を策定する。 5) ナショナルセンターとしての国立博物館における資料館の機能の拡充に向け、閲覧スペースや書庫、事務室等の区画・配置をはじめ、資料館全体のあり方を再検討し、有効活用へ向けた利用計画を策定する。 	<p>遡及入力 図書 11,105 冊 〈資料整備〉 雑誌等の製本 346 冊 〈公開〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学芸業務支援システムについて、修理情報関連機能の構築を進めた。 ・視聴覚コーナーにおいて、ビデオ・DVD 等約 60 点を追加して公開した。 ・OPAC で図書 164,564 冊、雑誌 6,103 タイトル、目次・論文データ 5,982 件を公開した。 ・図書資料の展示コーナーを新設し、所蔵資料の紹介を定期的に行った。 ・法隆寺宝物館の図書コーナーを継続実施した。 ・閲覧室のスペースの有効活用を目的として、写真キャビネットを西側に、閲覧机や書架を中央部分に移動した。また、新規に書架を 16 台増設した。 <p>【京都国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品、展覧会出品作品等の撮影写真、及び社寺調査等での撮影写真並びに関連データを整備した。 ・写真は漸次写真画像管理システムに登録し、各種データベースへの二次提供を行った。登録件数 3,753件 今年度は特別展関係の撮影が例年より少なかったことで原板登録件数が減少した。 ・特別観覧件数 1,002件 	B	順調
6623-2	<p>(奈良国立博物館)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 古写真・ガラス乾板等を登録整備する。 2) 蔵書検索システム及び所蔵写真検索の充実を図る。 	<p>【奈良国立博物館】</p> <p>本事業は、博物館の根幹である展示・研究活動を支援すべく、関連する図書・雑誌等の資料を収集・整理し、学芸部の情報資料として活用するものである。また一般利用者に対しても当該資料を当館仏教美術資料研究センターにおいて公開し、サービスをおこなっている。今年度後半は同センター耐震補強工事の開始にともない 10 月以降は閉館とし、旧地下通路に新たに確保した収蔵スペースに全資料の移動をおこなったため、資料は館内利用にとどめている。資料の移動・整理およびその準備作業に人員と時間を要したため、現在までの図書の新規受入は、1,129 冊、展覧会カタログは 248 冊となっている。1 月には作業が完了したため、その後は通常業務を鋭意進めているところである。</p> <p>また、この間に図書情報システムのリプレースを実施し、業務の効率化とサービスの向上を図った。新システムへの移行作業は順調に進み、既に通常業務に活用しているが、来年度以降に図書情報のインターネットへの公開を目指しており、館内での情報蓄積が外部サービス</p>	A	順調

6624-2	(九州国立博物館) 1) 海外調査で撮影した写真やビデオを展示や教育普及事業で活用するための整備を行う。 2) 博物館資料(収蔵品、図書、写真など)の横断的データベース、対馬宗家文書データベースの効率的な運用を検討し、実施する。	の充実に効果的に反映されるよう、更なる情報整備に努めている。同センターの保有する資料の総数は図書約 66,000 冊、展覧会カタログ約 10,000 冊、雑誌約 3,000 タイトルとなっている。今年度は昨年度に引き続き、中国仏教関係の資料を重点的に収集し、不足していた領域の資料の充実に推進させることができた点も特筆される。	A	順調	
		<p>【九州国立博物館】</p> <p>①収蔵品・出品作品等の写真撮影及び関連データを整備した。(4,686件)</p> <p>②博物館資料(収蔵品、図書、写真など)の横断的データベース、対馬宗家文書データベースの効率的な運用を検討し、実施した。</p> <p>③ハンズオン資料の収集 特別展や館内イベントの開催等にあわせ、体験型展示室「あじっば」で使用するハンズオン資料の収集を継続して行った。</p> <p>④「あじっば」資料の情報の収集 福岡在住の各国留学生や海外からの招聘研究者等から、「あじっば」資料についての情報を収集し、展示に反映させた。</p>			
定量的評価		21年度	20年度	目標値	評価
ウェブサイトのアクセス(件)					
	東京国立博物館	5,687,673	5,211,261	1,928,966	S
	京都国立博物館	848,486	1,409,634	521,965	S
	奈良国立博物館	2,630,035	1,230,774	670,948	S
	九州国立博物館	7,459,518	5,699,860	783,487	S
収蔵品のデジタル化(件)					
	東京国立博物館	775,300	139,000	73,000	S
	うち4×5フィルム	3,480	17,400	3,000	A
	うちマイクロフィルム	748,181	121,600	60,000	S
	京都国立博物館	5,603	6,478	4,359	A
	奈良国立博物館	102,894	8,399	8,471	S
	九州国立博物館	3,574	3,963	1,890	S
写真検索システムデータ追加更新(件)					
	奈良国立博物館	12,339	6,989	2,000	S
収蔵品・出品作品等のデータ整備(件)					
	東京国立博物館	4,177	4,703	3,000	A
	京都国立博物館	3,753	6,478	5,000	B
	奈良国立博物館	5,818	6,457	3,000	S
	九州国立博物館	4,686	6,633	600	S

7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

<p>【中期目標】 地方公共団体や大学、研究機関とのネットワークや連携協力体制を構築し、機構が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を図り、我が国全体の文化財の収集・展示、調査・研究の質的向上に寄与すること。また、地方公共団体等の指導者層を主たる対象とする高度な研修事業や、若手研究者の育成に寄与するため実践的な連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材を育成すること。</p>				
<p>【中期計画】 我が国の文化財に関する調査・研究のナショナルセンターとして、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。</p> <p>(1) 地方公共団体や大学、研究機関との連携・協力体制を構築し、これらの機関が有する文化財に関する情報の収集、知見・技術の活用、本法人が行った調査・研究成果の発信等を通じて、文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行う。</p> <p>(2) 文化財に関する高度な研究成果をもとに、地方公共団体等で中核となる文化財担当者に埋蔵文化財に関する研修及び保存科学に関する保存担当芸員研修を実施する。なお、参加者等に対するアンケート調査を行い、80%以上の満足度が得られるようにする。</p> <p>また、東京藝術大学、京都大学、奈良女子大学との間での連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与する。</p>		<p>【主な計画上の評価指標】</p> <p>○文化財に関する協力・助言の円滑かつ積極的な実施を行うこと。</p> <p>○埋蔵文化財に関する高度な研究成果をもとに、中核となる文化財担当者に、各種の研究を実施するとともに、参加者等に対するアンケート調査で80%以上の満足度が得られるようにすること。</p> <p>○連携大学院教育を実施し、若手研究者の育成に寄与すること。</p>		
処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
7111	我が国の文化財に関する調査・研究のナショナルセンターとして、これまでの調査・研究の成果を活かし、国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言を行うことにより、我が国全体の文化財の調査・研究の質的向上に寄与する。また、専門指導者層を対象とした研修等を行い、文化財保護に必要な人材を養成する。	(1)－1 無形文化遺産に関する助言 平成21年度は、無形文化遺産の保存・伝承・活用等に関して、文化庁芸術文化課文化活動振興室への8件の助言を始め、30件の助言を実施した。	A	順調
7112		(1)－2 文化財の修復及び整備に関する調査・助言 今年度は、件数として40件を数え、指導助言先やその内容も多岐にわたり、複数回の指導助言に及んだ。今後も継続して指導助言を実施し適正に文化財が保存修復されるように努めるとともに、私たちも新たな知見を得て、的確な指導助言が行えるように努力する。	A	順調
7113		(1)－3 地方公共団体等が行う史跡の整備、復原事業等に関する技術的助言 地方公共団体等が行う文化財の調査・保存・修復・整備・活用等の事業について、専門委員会委員への就任等を通して、建造物修理、史跡整備、出土文字資料調査、発掘調査等に関する専門的・技術的な助言を行った。援助・助言実施件数(出張依頼を受けた件数)337件(委員会出席109、審議会出席13、指導50、調査62、講演21、その他82)	A	順調
7114		(1)－4 地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言 平成21年度は、平城宮・京域で、計8件の発掘調査を実施した。その結果、海龍王寺旧境内においては、現存する海龍王寺の北土塀のほ	A	順調

		保存担当学芸員研修 期間 受講生	2 週間 31	2 週間 29	2 週間 25	A A
--	--	---------------------	------------	------------	------------	--------

II 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

【中期目標】法人統合のメリットも最大限に生かし、業務の充実かつ効率化を図るとともに、事務、事業、組織等の見直し、外部委託の推進等により、経費の合理化を図ること。
運営費交付金を充当して行う業務については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、特殊業務経費を除き、5年間で一般管理費は15%以上、業務経費は5%以上の削減を図ること。

また、「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)に基づき、平成18年度以降の5年間に於いて国家公務員に準じた人件費削減を行うとともに、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」(平成18年7月7日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続すること。

さらに、機構の業務運営に際しては、一般管理業務の本部への一元化、集約化等を図り、統合後5年間で、19年度一般管理費(物件費)の10%相当の経費を5年間で削減を図ること。

1 業務の効率化

【中期目標】 -----

【中期計画】

1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上に考慮する。また、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、さらに、外部委託の推進等により、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き5年期間中一般管理費15%以上、業務経費5%以上の業務の効率化を図る。

さらに、法人統合のメリットも最大限に生かしつつ業務の効率化に務め、機構の業務運営に際しては、一般管理業務の本部への一元化、集約化等を図り、19年度一般管理費(物件費)の10%相当を統合後5年間で削減を図る。

具体的には下記の措置を講じる。

(1) 共通的な事務の一元化による業務の効率化

(2) 使用資源の減少

- ・省エネルギー(5年期間中1年に1.03%の減少)
- ・廃棄物減量化(一般廃棄物排出量を5年期間中5%減少)
- ・リサイクルの推進

(3) 施設有効使用の推進

- ・施設の利用推進

(4) 民間委託の推進

- ・一般管理部門を含めた組織・業務の見直しを行い、民間開放をさらに積極的に進める。
- ・館の警備・清掃業務について民間委託を推進する。
- ・来館者サービスを中心に業務の見直しを行い、民間委託を積極的に進める。

(5) 競争入札の推進

- ・契約業者の競合を一層推進することにより、経費の効率化を図る。

【主な計画上の評価指標】

- 中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き5年期間中一般管理費15%以上、業務経費5%以上の業務の効率化を図ること。
- 省エネルギー5年期間中、1年に1.03%減少を図ること。
- 施設の有効利用の推進を図ること。
- 民間委託の推進を図ること。
- 競争入札の推進を図ること。
- 保有固定資産について、減損会計の情報(保有目的、利用実績など)を考慮し、十分な推進を図ること。
- 官民競争入札等の推進を図ること。

【20年度評価における主な指摘事項】

- 全体的に業務の効率化に努めているものと評価できるが、法人自らもっと分かりやすい指標を用いるなど工夫して説明して欲しい。
- 随意契約について、平成18年度実績に比べて件数ベースで3分の1以下、金額ベースで約半分まで減少させ、また、総合評価方式や企画競争・公募に係る手続きを整備するとともに随契理由を公表するなど契約の適正化に向けた努力は認められるが、より一層の努力が求められる。
- 今後とも、文化財の保存・活用に係る業務の特殊性を踏まえ、契約の適正化に向けて一層努力されたい。

処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価																																																						
			年度	中期																																																					
9110	<p>(1) 各施設の共通的な事務の一元化による業務の効率化 財務、人事、企画事務の共通的な事務の一元化を推進し事務の効率化を図る。</p> <p>1) 国立博物館各館における翌年度の展覧会企画等について「研究・学芸系職員連絡協議会」において連絡・調整を行い、企画機能強化を図る。</p> <p>2) ネットワークの共通化及び、各施設ごとであったグループウェアの機構全体での統合・共通化を図り、業務の効率的な運用及び情報の共有化を推進する。</p>	<p>(1) 各施設の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「研究・学芸系職員連絡協議会」を実施し、各博物館における翌年度の展覧会企画等について調整を行い、計画を図った。2館以上巡回する展覧会として「細川家の至宝」（東博、九博、京博）、「誕生！中国文明」（東博、九博、奈良博）を計画することとした。 ・機構内各施設のグループウェアの統合化を進めた。これまで機構内各施設では各業務の効果的な遂行のため、個別にグループウェアを検討・導入・運用してきた。今回これらの一歩化を図るべく準備を進めたが、年度内実施には至らなかった。 	B	ほぼ 順調																																																					
9120	<p>(2) 省エネルギー、リサイクルの推進</p> <p>1) 光熱水量の使用状況を把握し、管理部門を中心に引き続き節減に努める。(年間1.03%減少)</p> <p>2) 廃棄物の分別収集を徹底し、リサイクルを引き続き推進する。(一般廃棄物排出量を年間1.03%減少)</p>	<p>(2) 省エネルギー、リサイクルの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の節電節水の周知徹底、夏季の軽装励行、冷暖房の省エネ運転等を行った。 ・廃棄物削減では、ミスコピーの防止及び両面印刷の励行、館内 LAN・電子メール等の活用による文書のペーパーレス化を引き続き行っている。 <p>使用資源の推移等 光熱水料金 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事項</th> <th>20年度</th> <th>21年度</th> <th>差額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電気料 (※1)</td> <td>427,588</td> <td>366,202</td> <td>△61,386</td> </tr> <tr> <td>水道料 (※2)</td> <td>84,044</td> <td>93,651</td> <td>9,607</td> </tr> <tr> <td>ガス料 (※1)</td> <td>138,811</td> <td>92,510</td> <td>△46,301</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>650,443</td> <td>552,363</td> <td>△98,080</td> </tr> </tbody> </table> <p>(※1) 電気料・ガス料減少の特殊要因となった施設休館等による影響</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設</th> <th>休館施設</th> <th>電気料</th> <th>ガス料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>東洋館 (耐震改修工事のため)</td> <td>△17,189</td> <td>△6,208</td> </tr> <tr> <td>京都国立博物館 (注1)</td> <td>平常展示館 (建替工事のため)</td> <td>△1,457</td> <td>△14,081</td> </tr> <tr> <td>奈良国立博物館</td> <td>西新館 (耐震工事のため)</td> <td>△1,477</td> <td>△840</td> </tr> <tr> <td>奈良文化財研究所</td> <td>平城宮跡資料館 (改修工事のため)</td> <td>△8,247</td> <td>△1,340</td> </tr> <tr> <td colspan="2">小計</td> <td>△28,370</td> <td>△22,469</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注1) 建替工事及びガス空調から電気空調への全館全面切換による増減を含む。 (※2) 水道使用料増加の特殊要因</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設</th> <th>内容</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京国立博物館</td> <td>「阿修羅展」開催期間中の来館者増員分水道使用料 (4月1日～6月7日)</td> <td>2,003</td> </tr> <tr> <td>九州国立博物館</td> <td>「阿修羅展」開催期間中の来館者増員分水道使用料</td> <td>2,026</td> </tr> </tbody> </table>	事項	20年度	21年度	差額	電気料 (※1)	427,588	366,202	△61,386	水道料 (※2)	84,044	93,651	9,607	ガス料 (※1)	138,811	92,510	△46,301	計	650,443	552,363	△98,080	施設	休館施設	電気料	ガス料	東京国立博物館	東洋館 (耐震改修工事のため)	△17,189	△6,208	京都国立博物館 (注1)	平常展示館 (建替工事のため)	△1,457	△14,081	奈良国立博物館	西新館 (耐震工事のため)	△1,477	△840	奈良文化財研究所	平城宮跡資料館 (改修工事のため)	△8,247	△1,340	小計		△28,370	△22,469	施設	内容	金額	東京国立博物館	「阿修羅展」開催期間中の来館者増員分水道使用料 (4月1日～6月7日)	2,003	九州国立博物館	「阿修羅展」開催期間中の来館者増員分水道使用料	2,026	A	順調
事項	20年度	21年度	差額																																																						
電気料 (※1)	427,588	366,202	△61,386																																																						
水道料 (※2)	84,044	93,651	9,607																																																						
ガス料 (※1)	138,811	92,510	△46,301																																																						
計	650,443	552,363	△98,080																																																						
施設	休館施設	電気料	ガス料																																																						
東京国立博物館	東洋館 (耐震改修工事のため)	△17,189	△6,208																																																						
京都国立博物館 (注1)	平常展示館 (建替工事のため)	△1,457	△14,081																																																						
奈良国立博物館	西新館 (耐震工事のため)	△1,477	△840																																																						
奈良文化財研究所	平城宮跡資料館 (改修工事のため)	△8,247	△1,340																																																						
小計		△28,370	△22,469																																																						
施設	内容	金額																																																							
東京国立博物館	「阿修羅展」開催期間中の来館者増員分水道使用料 (4月1日～6月7日)	2,003																																																							
九州国立博物館	「阿修羅展」開催期間中の来館者増員分水道使用料	2,026																																																							

	(7月14日～9月27日)	
京都国立博物館	平常展示館建替工事に係る工事用水使用料	4,251
九州国立博物館	雨水貯留槽汚染(10月20日～3月2日)に伴う上水使用料	1,520
小計		9,800

(参考) 特殊要因を考慮した光熱水料金

事項	20年度	21年度	差額
電気料	427,588	394,572	△33,016
水道料	84,044	83,851	△193
ガス料	138,811	114,979	△23,832
計	650,443	593,402	△57,041

(※1)(※2)を考慮

廃棄物排出量

(単位: kg)

事項	20年度	21年度	増減率(%)
一般廃棄物	247,491	228,045	△7.9

リサイクル実施例

- (1) 廃棄物の分別収集
- (2) リサイクル業者への古紙受け渡し
- (3) 再生紙の発注等

9131

(3) 施設有効使用の推進

(博物館4施設)

- 1) 講座・講演会等を開催する。
- 2) 講堂等の利用案内を関係団体、学校等に対し積極的に行う。
- 3) 国際交流及び日本文化の紹介や入館者の拡大を目的としたコンサートなどを実施し、施設の有効利用を図る。

(文化財研究所2施設)

セミナー室、講堂等一般の利用の供することが可能な施設の有料貸付を実施するとともに、展示公開施設におけるミュージアムショップの運営委託等、施設の有効利用の推進を図る。

(3) 施設有効使用の推進

【東京国立博物館】

パーティー、コンサート、撮影への施設利用(平常展も観覧いただくようにし、新たな入館者の開拓も目的とする)、茶室の貸出等の促進による施設の有効利用を図った。

施設名	平成21年度
講堂等	114件(内 有償貸付 82件)
茶室	119件(内 有償貸付 73件)
その他 (本館・表慶館・ラウンジ・前庭)	108件(内 有償貸付 107件)
合計	341件 収入額 38,495,495円

入館者の拡大を目的とするコンサートとして

- ・「ファミリーコンサート」(7月26日 共催:東京クラリネットクワイアー)
 - ・「ジェラルム・プーレ ヴァイオリンコンサート」(12月12日 制作協力:瀧井敬子)
 - ・「関孝弘 ピアノコンサート」(7月5日 共催:サロン・ド・ソネット)
- 等を、講演会として、
- ・「東大寺講演会」(1月27日 共催:東大寺)

A

順調

9132		<p>演芸として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新春東博寄席」(1月11日) など様々なイベントを実施した。 <p>【京都国立博物館】</p> <p>特別展示館等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進を図った。</p> <p>なお、平常展示館建替工事に伴い昨年度12月8日より講堂が使用できなくなったため、展覧会等に関する講演会、夏期講座及び年4回開催しているらくご博物館は館外の施設を利用して行うこととなった。</p> <p>特別展示館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バロックコンサート(開催日1日 入場者196名) ・ミニコンサート(開催日7日 入場者約280名) <p>庭園(丸池周辺)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車発電エコライブ(開催日1日 参加者 約100名) <p>館外の施設を利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展覧会等に関する講演会(講座回数15回 聴講者数 合計 2115名) ・夏期講座(開催日3日間 参加者 179名) ・らくご博物館(年4回 入場者697名) ・音楽とスイーツで楽しむもう一つのハプスブルク展(開催日1日 入場者149名) <p>また、外部団体等の講演会・研修会等への施設の貸し出しを積極的に行った。</p> <table border="0"> <tr> <td>外部使用件数</td> <td></td> <td>使用料</td> </tr> <tr> <td> 研修室等</td> <td>21件(うち有償13件、無料8件)</td> <td>291,375円</td> </tr> <tr> <td> 茶室</td> <td>14件(うち有償13件、無料1件)</td> <td>151,200円</td> </tr> <tr> <td> 計</td> <td>35件</td> <td>442,575円</td> </tr> </table>	外部使用件数		使用料	研修室等	21件(うち有償13件、無料8件)	291,375円	茶室	14件(うち有償13件、無料1件)	151,200円	計	35件	442,575円	A	順調
外部使用件数		使用料														
研修室等	21件(うち有償13件、無料8件)	291,375円														
茶室	14件(うち有償13件、無料1件)	151,200円														
計	35件	442,575円														
9133		<p>【奈良国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用 <ul style="list-style-type: none"> 講堂：公開講座(16回、2,043人)、サンデートーク(11回、584人)、正倉院展ボランティア解説(20日間計112回)、世界遺産学習(29校、2,205人) ・イベント等の実施 <ul style="list-style-type: none"> 敷地内：唐招提寺の蓮展示 講堂：まほろば寄席(3回)、まほろば講座(3回)、特別展開連映画上映(国宝鑑真和上展：「天平の甕」、聖地寧波：「ぼくの孫悟空」、皇室写真展、NHK制作番組「宝物を守り伝える」上映会&講演会) 仏教美術資料研究センター：夏休みお線香手づくり体験講座 地下回廊：にんぷろカルタ大会、絵画コンクール入賞作品展示 西新館ピロティ：NHK日曜美術館で紹介した正倉院宝物の映像放映 ・会場提供 <ul style="list-style-type: none"> 敷地内：なら燈花会、クラシックカーラリー2009 奈良、コンサート(おはなしステージ in なら燈花会)、第11回バサラ祭、なら国際映画祭プレイベントでの映画上映(河瀬直美 	A	順調												

9134		<p>監督作品「沙羅双樹」、茶会（3回） 講堂：映画祭（河瀬直美監督作品「火垂 2009 version」）、放送大学面接授業、奈良市教育委員会主催教員研修講座 仏教美術資料研究センター：書道展「天墨の書」、結婚式 地下回廊：シルクロード写真パネル展示、「奈良のうまいもの」パネル展示 西新館ピロティ：陶芸展「火垂窯の仲間たち」、正倉院展での呈茶席</p> <p>【九州国立博物館】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化交流展示室を紹介する講座の開催や各特別展に関連する講演会を開催した。 ・ミュージアムホール、エントランスホール、研修室等において、各種団体主催のイベントを開催するとともに、希望団体にはミュージアムホール、研修室の貸出を行った。 ・各種国際シンポジウム、アジア諸国に関するイベント、留学生の日のイベント等を開催した。 ・ガムランワークショップや、コンサートの開催等を継続的に実施し、施設の有効活用を促進した。 <p>ミュージアムホールの利用 76 件（内 有料 11 件） 研修室の利用 88 件（内 有料 58 件） その他（エントランスホール 外）86 件（内 有料 0 件）</p>	A	順調														
9135		<p>【東京文化財研究所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナー室、会議室等を利用することにより、施設の有効利用の推進を図った。 ・研究成果を広く一般にも公表するためのオープンレクチャーを毎年秋に開催。また、このレクチャーは、台東区との連携事業として「上野の山文化ゾーンフェスティバル」の講演会シリーズのプログラムの一つとしても企画された。 	A	順調														
9136		<p>【奈良文化財研究所】</p> <p>会議室、セミナー室等一般の利用に供することが可能な施設の有料貸付を実施し、施設の有効利用の推進を図った。</p> <table border="1" data-bbox="965 946 1845 1174"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>21 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平城宮跡資料館講堂</td> <td>26 件（内 有償貸与 1 件）</td> </tr> <tr> <td>平城宮跡資料館小講堂</td> <td>35 件（内 有償貸与 0 件）</td> </tr> <tr> <td>寄宿舍施設</td> <td>1,115 件（内 有償貸与 27 件）</td> </tr> <tr> <td>飛鳥資料館講堂</td> <td>4 件（内 有償貸与 0 件）</td> </tr> <tr> <td>その他（本庁舎・監理棟・収蔵庫等）</td> <td>31 件（内 有償貸与 12 件）</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,211 件（内 有償貸与 40 件）</td> </tr> </tbody> </table> <p>①平城宮跡資料館講堂及び小講堂については、平城宮跡資料館の改修工事のため、平成 21 年 6 月から閉鎖した。それまでは、調査研究成果を公表する場として講習会、研究会、学会等を開催した。さらに、広く国民に文化財への理解を求めべく、セミナー及び一般参加型のイベント等を開催した。</p> <p>②一般利用申し出への行政サービスの向上を図る方針のもとに、HP 上での施設利用紹介等による積極的有効利用（貸付等）の促進を図った。</p> <p>③奈良文化財研究所が企画実施する研修等に際して、宿泊施設の有効活用を図った。</p>	施設名	21 年度	平城宮跡資料館講堂	26 件（内 有償貸与 1 件）	平城宮跡資料館小講堂	35 件（内 有償貸与 0 件）	寄宿舍施設	1,115 件（内 有償貸与 27 件）	飛鳥資料館講堂	4 件（内 有償貸与 0 件）	その他（本庁舎・監理棟・収蔵庫等）	31 件（内 有償貸与 12 件）	合計	1,211 件（内 有償貸与 40 件）	A	順調
施設名	21 年度																	
平城宮跡資料館講堂	26 件（内 有償貸与 1 件）																	
平城宮跡資料館小講堂	35 件（内 有償貸与 0 件）																	
寄宿舍施設	1,115 件（内 有償貸与 27 件）																	
飛鳥資料館講堂	4 件（内 有償貸与 0 件）																	
その他（本庁舎・監理棟・収蔵庫等）	31 件（内 有償貸与 12 件）																	
合計	1,211 件（内 有償貸与 40 件）																	

		<p>④飛鳥資料館講堂において、企画展示・特別展示期間に講演会等を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏期企画展示（「甦るクメール文明世界文化遺産アンコール遺跡群」（約 50 名参加） ・秋期特別展示（「北方騎馬民族のかがやき 三燕文化の考古新発見」（127 名参加） ・団体入館者の要望に応じて、モニター映像による集合解説を実施した。（年間 2 回・約 50 名参加） ・キトラ古墳壁画公開会場とした。（期間中 3 万人） <p>⑤上記のほか、平城宮跡資料館、飛鳥資料館の各ミュージアムショップ（売店）の運営を外部委託し、図録等の販売を通して来館者の利便に供した。</p>		
9140	<p>(4) 民間委託の推進 (東京国立博物館) ・電気設備保守業務及び機械設備保守業務の一部を継続して外部委託 ・資料館業務の一部外部委託を継続して実施 (京都国立博物館) ・看視案内業務、売札業務及び設備保全業務の一部外部委託 ・通用門の受付・案内・警備業務、及び清掃業務の外部委託 ・情報システムの運用・管理・開発業務の一部外部委託 (奈良国立博物館) ・建物設備の運転・管理業務の外部委託 ・警備及び看視案内の一部並びに売札業務の外部委託 (九州国立博物館) ・建物設備の運転・管理業務等の外部委託を継続して実施 ・警備業務、看視案内業務及び清掃業務の外部委託 (東京文化財研究所・奈良文化財研究所) ・一般管理部門を含めた組織・業務の見直しを行い、民間委託をさらに積極的に進める。 ・所の警備・清掃業務について民間委託を推進する。 ・来所者サービスを中心に業務の見直しを行い、民間委託を積極的に進める。</p>	<p>(4) 民間委託の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての施設において、電気設備保守業務、機械設備保守業務、昇降機設備保守点検業務、売札業務、各種事務補助作業、清掃業務、構内樹木等維持管理業務等について、民間委託を実施している。 ・全ての博物館は警備・展示室監視等業務の大部分を外部委託している。また、研究所は警備業務を外部委託している。 ・博物館の来館者サービスに関しては、インフォメーション業務、図書・写真資料を閲覧等の利用に供するサービス及び図書整理業務等について民間委託を実施している。 ・東京国立博物館及び東京文化財研究所で施設管理・運営業務（展示等の企画運営を除く）について民間競争入札を実施しているほか、東京国立博物館では展示場における来館者応対等業務についても民間競争入札を実施し、平成 22 年 4 月 1 日から民間委託を実施予定。 	A	順調
9150	<p>(5) 一般競争入札の推進 ・一般競争入札を推進することにより、経費の効率化を図る。 ・独立行政法人整理合理化計画(19 年 12 月 24 日閣議決定)の方針に基づき、東京国立博物館及び東京文化財研究所の施設管理・運営業務(展示等の企画運営を除く)につい</p>	<p>(5) 一般競争入札の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・列品等修理契約について、新たに修理契約委員会を設置し、修理可能な業者が複数存在すると判断された契約について、企画競争へ移行した。 ・随意契約の見直しで、21 年度に一般競争へ移行するとして電気供給契約について、全ての施設で一般競争入札を実施した。 ・その他新たに、自動券売機貸借、機械警備について一部施設で一般競争入札を実施した。 	A	順調

て、21年度10月から民間競争入札を実施する。

一般競争入札件数

年度	20年度	21年度	増減
件数	142件	202件	60件

(参考) 電気供給契約額前年度対比 (法人全体)

(単位: 千円)

20年度契約額	21年度契約額	差額 (21-20)
372, 224	369, 965	△2, 259

9160 (6) 定量的な目標の設定

独立行政法人整理合理化計画(19年12月24日閣議決定)の方針に基づき、外部資金の活用及び自己収入の増大に向けて、以下の定量的な目標の達成を目指す。

- 1) 機構全体において、入場料収入(共催展を除く)及びその他収入について、1.16%の増加を目指す。
- 2) 機構全体において、寄附金226件及び科学研究費補助金76件の確保を目指す。

(6) 定量的な目標の設定

- 1) 入場料収入(共催展を除く)及びその他収入について、1.16%の増加を目指す。下表のとおり、8.67%となり、目標を上回ることができた。

(単位: 千円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
自己収入基準額	—	864, 089	874, 112
自己収入目標額	①864, 089	②874, 112 (①×1.16%増)	884, 252 (②×1.16%増)
自己収入実績額	—	—	949, 900
増加率	—	—	8.67%

※ 受託研究・受託事業を除く。

※ 自己収入目標額は、前年度の目標額から1.16%増加した場合の額。ただし平成19年度自己収入目標額は、平成19年度自己収入実績額から特殊要因である京都国立博物館平常展示館建替工事による影響額等を除いて算定。

※ 増加率は、自己収入基準額(前年度の目標額)に対する増加率。

- 2) 寄附金226件及び科学研究費補助金76件の確保を目指す。

下表のとおり、寄附金及び科学研究費補助金ともに目標件数を上回ることができた。

	目標値	平成21年度
寄附金	226件	290件
科学研究費補助金	76件	86件

A

順調

	定量評価	21年度	20年度	目標値	評価
	一般管理費の効率化(対前年度比%)	9.11%減	0.93%増	3.20%	S
	業務経費の効率化(対前年度比%)	11.04%増 (前年度からの繰越分 特別展入館者増等による支出増)	6.95%減	1.03%	C
	光熱水料費の削減(対前年度比%)	15.08%減 (特殊要因を考慮した場合8.77%減)	8.34%増 (単価を前年ベースにした場合2.30%減)	1.03%	S(S)
	一般廃棄物の削減(対前年度比%)	7.86%減	4.00%増	1.03%	S
	統合による経費削減(対前年度比%)	9.13%減	1.52%減(施設整備費 補助金加算額消費税を除いた場合6.95%減)	2.09%	S
	自己収入増加率	8.67%	—	1.16%	S
	寄附金	290件	—	226件	A
	科学研究費	86件	—	76件	A

2 事業評価の実施及び職員の意識改善

【中期目標】 -----				
【中期計画】 2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回以上事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。		【主な計画上の評価指標】 ○コンプライアンス体制(倫理行動規程の策定、第三者を入れた倫理委員会等の設置、監事による内部統制についての評価の実施)を整備すること。 【20年度評価における主な指摘事項】 ○普通救命講習会、AED操作講習会等の研修は観覧者向けと考えられるが、バックヤード、建築・設備管理を含み、また展示替えや文化財の搬入・搬出に供え、恒常的な安全管理に努めて欲しい。 ○今回、九博の機械設備保守業務において、死者並びに重傷者が出たが、新しい設備であるだけに、例え民間受託者であれ、施設管理者としてその原因究明と再発防止に向けて努力されたい。内部統制やコンプライアンスの実効性を高めるため、今後も役職員に対する教育や信頼できる委託業者の確保に努めることが重要。		
処理 番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
9220	2 事業評価の実施及び職員の意識改善 理事長のリーダーシップのもとに、事業を推進する。 1) 自己点検評価や外部有識者による外部評価等を行い、その結果を組織、事務、事業等の改善に反映させる。 2) 各種研修・講習会を通じて、職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図るとともに、職員を外部の研修に派遣し、その資質の向上を図る。 3) 20年度に引き続き、職員を対象とした業務改善コンクールを実施し、職員の意識改善や業務の改善を図る。	2 事業評価の実施及び職員の意識改善 ・20年度運営改善コンクールにおいて採択された案件について具体的な検討を図り、一部については実施して、職員の意見を事業に反映させた。	A	順調

3 機構が管理する情報の安全性向上

【中期目標】 -----				
【中期計画】 3 機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとる。		【主な計画上の評価指標】 ○機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとること。 【20年度評価における主な指摘事項】 ○今後は、奈良博の実施ケースを踏まえ、ICT監査を機構全体で実施し、セキュリティの弱点があれば強化・改善して欲しい。		

処理番号	年度計画	主な実績	自己評価	
			年度	中期
9330	3 機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとる。 1) 機構の内部統制体制の整備を図る。 2) 機構が保有する知的財産権の管理体制の整備を図る。 3) 20年度に制定した情報セキュリティポリシーを基に、機構が管理する情報の安全性向上を図る。	3 機構が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとる。 1) 20年度に作成した知的財産管理体制報告書に基づき、知的財産検討ワーキンググループを設置し、規定整備のための検討を図った。 2) 情報システム点検・評価要項に基づき、各施設において情報システム点検の実施を検討し、情報セキュリティの向上に努めた。(点検は次年度に実施する。)	A	順調

4 人件費の抑制

【中期目標】 -----

【中期計画】

4 「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)に基づき、国家公務員に準じた人件費改革に取り組み、平成18年度からの5年間において、△5%以上の人件費削減を行う。また、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」(平成18年7月7日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。ただし、今後の人事院勧告を踏まえた給与改定分については削減対象から除く。また、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬(給与)、賞与、その他の手当の合計額とし、退職金、福利厚生費は含まない。

その際、役職員の給与に関し、国家公務員の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り組む。

【主な計画上の評価指標】

○平成18年度からの5年間において△5%以上の人件費削減を行う。
 ○また、役職員の給与に関し、国家国務院の給与構造改革を踏まえた、地場賃金の適正な反映、年功的な給与上昇の抑制、勤務実績の給与等への反映等に取り組むこと。

【20年度評価における主な指摘事項】

○目標期間5年間中における3年間の達成度としてみて、人件費削減は順調に進んでいるものと認められる。しかし、1人当たりの業務量は増大しており、機構全体として適切な配置を期待する。
 ○なお、シミュレーションとの整合性や全体が俯瞰できる工夫などわかりやすく説明して欲しい。

処理番号	年度計画	主な実績						自己評価																													
								年度	中期																												
9440	4 「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律(平成18年法律第47号)」 「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006(平成18年7月7日閣議決定)」 を踏まえ、人件費の抑制を図る。	4 ・人件費削減実績 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>17年度 (A分類 実績ベース)</th> <th>18年度</th> <th>19年度</th> <th>20年度</th> <th>21年度</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実績(千円)</td> <td>2,878,750</td> <td>2,789,360</td> <td>2,773,688</td> <td>2,745,389</td> <td>2,688,829</td> <td>22年度目標値(17年度に比して△5.00%) 2,734,812</td> </tr> <tr> <td>前年度に対する削減率</td> <td>—</td> <td>△3.11%</td> <td>△0.56%</td> <td>△1.02%</td> <td>△2.06%</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>17年度に対する削減率</td> <td>—</td> <td>△3.11%</td> <td>△3.65%</td> <td>△4.63%</td> <td>△6.60%</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>							17年度 (A分類 実績ベース)	18年度	19年度	20年度	21年度		実績(千円)	2,878,750	2,789,360	2,773,688	2,745,389	2,688,829	22年度目標値(17年度に比して△5.00%) 2,734,812	前年度に対する削減率	—	△3.11%	△0.56%	△1.02%	△2.06%	—	17年度に対する削減率	—	△3.11%	△3.65%	△4.63%	△6.60%	—	A	順調
	17年度 (A分類 実績ベース)	18年度	19年度	20年度	21年度																																
実績(千円)	2,878,750	2,789,360	2,773,688	2,745,389	2,688,829	22年度目標値(17年度に比して△5.00%) 2,734,812																															
前年度に対する削減率	—	△3.11%	△0.56%	△1.02%	△2.06%	—																															
17年度に対する削減率	—	△3.11%	△3.65%	△4.63%	△6.60%	—																															

		17年度に対する削減率 (補正值)	—	△3.11%	△4.35%	△5.33%	△4.90%	—		
		<ul style="list-style-type: none"> ・人事給与統合システムが平成20年4月から稼働し、機構全体として統一的な処理ができるようになった。さらに人件費の削減に向けたシミュレーション等により人件費に関する計画を円滑に企画・立案することができた。 ・地域手当について、平成22年度において平成21年度の率を据え置く方針が決定された 								
		定量評価	21年度		20年度		目標値	評価		
5年で5%の人件費削減(17年度比)	△6.60%		△4.63%		22年度までに5.0%削減					

Ⅲ 予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画及び資金計画

<p>【中期目標】 税制措置も活用した寄付金や自己収入の確保、予算の効率的な執行等に努め、適切な財務内容の実現を図ること。</p> <p>1 自己収入の増加 税制措置も活用した寄付金などの外部資金、施設使用料等の財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に努めること。 また、自己収入額の取り扱いにおいては、各事業年度に計画的な収支計画を作成し、当該収支計画による運営に努めること。</p> <p>2 固定的経費の節減 管理業務の節減を行うとともに、効率的な施設運営を行うこと等により、固定的経費の節減を図ること。</p>	
<p>【中期計画】 管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める。 また、収入面に関しては、実績を勘案しつつ、税制措置も活用した寄付金などの外部資金、施設使用料等の財源の多様化を図り、法人全体として積極的に自己収入の増加に努めることにより、計画的な収支計画による運営を図る。</p>	<p>【主な計画上の評価指標】 ○外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図ること。 ○適切な効率化を見込んだ予算による運営に努めること。 ○税制措置も活用した寄付金などの外部資金、施設利用等の財源多様化を図ること。 ○法人全体として積極的に自己収入の増加に努めること。 ○総利益を計上した場合には目的積立金を申請すること。</p> <p>【20年度評価における主な指摘事項】 ○特別展の入場者増の努力は評価でき、今後も、良い企画を期待する。ただし、展示関連収支については、もう少し説明を工夫して欲しい。 ○費出のうち収入連動費用(展示関連費用)を引いた経費部分の節減を常に意識して取り組まれたい。</p>

処理番号	年度計画	主な実績		自己評価																					
		年度	中期	年度	中期																				
	<p>予算</p> <p style="text-align: right;">(単位：百万円)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>金 額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収入</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 運営費交付金</td> <td style="text-align: right;">8,368</td> </tr> <tr> <td> 施設整備費補助金</td> <td style="text-align: right;">3,674</td> </tr> <tr> <td> 文化芸術情報電子化推進費補助金</td> <td style="text-align: right;">700</td> </tr> <tr> <td> 展示事業等収入</td> <td style="text-align: right;">1,120</td> </tr> <tr> <td> 受託収入</td> <td style="text-align: right;">26</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: right;">13,888</td> </tr> <tr> <td>支出</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 管理経費</td> <td style="text-align: right;">1,873</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	金 額	収入		運営費交付金	8,368	施設整備費補助金	3,674	文化芸術情報電子化推進費補助金	700	展示事業等収入	1,120	受託収入	26	計	13,888	支出		管理経費	1,873				
区 分	金 額																								
収入																									
運営費交付金	8,368																								
施設整備費補助金	3,674																								
文化芸術情報電子化推進費補助金	700																								
展示事業等収入	1,120																								
受託収入	26																								
計	13,888																								
支出																									
管理経費	1,873																								

うち人件費	853		
うち一般管理費	1,020		
業務経費	7,615		
うち人件費	2,477		
うち調査研究事業費	1,438		
うち情報公開事業費	155		
うち研修事業費	22		
うち国際研究協力事業費	304		
うち展示出版事業費	158		
うち展覧事業費	2,940		
うち教育普及事業費	121		
施設整備費	3,674		
文化芸術情報電子化推進費	700		
受託事業費	26		
計	13,888		

収支計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
費用の部	7,573
経常経費	7,573
管理経費	1,490
うち人件費	853
うち一般管理費	637
業務経費	5,689
うち人件費	2,477
うち調査研究事業費	899
うち情報公開事業費	97
うち研修事業費	14
うち国際研究協力事業費	190
うち展示出版事業費	99
うち展覧事業費	1,838
うち教育普及事業費	75
受託事業費	26
減価償却費	368

収益の部	7,573
運営費交付金収益	6,059
展示事業等の収入	1,120
受託収入	26
資産見返運営費交付金戻入	211
資産見返物品受贈額戻入	157

資金計画

(単位：百万円)

区 分	金 額
資金支出	13,888
業務活動による支出	7,905
投資活動による支出	5,983
資金収入	13,888
業務活動による収入	10,214
運営費交付金による収入	8,368
文化芸術情報電子化推進費補助金による収入	700
展示事業等による収入	1,120
受託収入	26
投資活動による収入	3,674
施設整備費補助金による収入	3,674

IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

<p>【中期目標】</p> <p>1 人事管理(定員管理、給与管理、意識改革等)、人事交流の適切な実施により、内部管理事務の改善を図ること。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用すること。</p> <p>2 業務の目的・内容に適切に対応するため長期的視野に立った施設・設備の整備計画を作成し、整備をすること。</p>					
<p>【中期計画】</p> <p>1 人事計画に関する計画</p> <p>(1)方針</p> <p>①国家公務員制度改革や類似独立行政法人等の人事・給与制度改革の動向を勘案しつつ、職員的能力や業績を適切に反映できる人事・給与制度を検討し、導入する。</p> <p>②調査研究の機動的実施など研究を効率的かつ効果的に実施するため、任期付研究員制度を導入する。</p> <p>③人事交流を促進するとともに、職員の資質向上を図るための研修機会の提供に努める。また、効率的かつ効果的な業務運営を行うため、非公務員化のメリットを活かした制度を活用する。</p> <p>(2)人員に係る指標</p> <p>常勤職員については、その職員数の抑制を図る。</p> <p>(参考1)</p> <p>1)期初の常勤職員数 367人</p> <p>2)期末の常勤職員の見込み 355人</p> <p>(参考2)中期目標期間中の人件費総額見込額</p> <p>14,343百万円</p> <p>但し、上記の額は、役職員に対し支給する報酬(給与)、賞与、その他の手当の合計額であり、退職金、福利厚生費を含まない。</p> <p>2 別紙のとおり施設整備に関する計画に沿った整備を推進する。</p>			<p>【主な計画上の評価指標】</p> <p>【20年度評価における主な指摘事項】</p> <p>○職員の構成バランスは、重要である。有期雇用職員の制度をうまく活用しながら、次世代人材の育成も充実を図って欲しい。</p> <p>○各館・研究所などの職種・定員等を検討し、研究員・学芸員に自然科学系・工学系職員を配置することにも配慮されたい。</p> <p>○また、職場での安全教育の実施及び安全確保にも努力されたい。</p>		
処理 番号	年度計画	主な実績		自己評価	
				年度	中期
0110	1 人事に関する計画 (1) 近隣大学等との交流を進め、優秀な人材を確保する。	(1) 人事交流 (事務系職員) ・本部事務局及び各施設において、文化庁、東京大学、京都大学、大阪大学、九州大学及び(独)国立美術館等から受け入れており、人材の確保と適材適所の人員配置を行った。 ・また、文化庁には1名の出向を行っている。 ・機構内での人事交流を図るため、本部及び各施設間(本部事務局・九州国立博物館間、本部事務局・奈良文化財研究所間、東京国立博物館・京都国立博物館間、東京国立博物館・東京文化		A	順調

0120	(2) 各種研修を積極的に実施し、また、職員を外部の研修に派遣するなど、その資質の向上を図る。	<p>財研究所間、京都国立博物館・奈良国立博物館間、東京文化財研究所・奈良文化財研究所等（8名）における交流を行っている。</p> <p>〈研究系職員〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の適性・能力、年齢構成及び業務の効率化など総合的に勘案し、新規に研究職員を14名採用した。 ・また、文化庁から8名の受け入れ及び文化庁への出向を14名を行っている。 ・機構内での人事交流を図るため、各施設間（東京国立博物館・九州国立博物館間、京都国立博物館・奈良文化財研究所間（6名））における交流を行っている。 <p>(2) 職員の資質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機構職員としての資質向上を図るため、新任職員や職員を対象とした各種研修（3件）、ハラスメントに関する研修（1件）を行った。 また、今年度新たに行った研修として、施設系の職員を対象とした研修（1件）及びクレーム対応に関する研修（1件）を実施した。 ・その他、他機関で実施する研修にも積極的に参加した。 	A	順調
0130	(3) 非公務員化のメリットを活かした制度の活用方法について引き続き検討する。	<p>(3) 非公務員化のメリットを活かした制度の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度において、技術職員及び技能・労務職員について、当対象とする職種を絞って機構独自で採用可能とする規定の整備を行ったところである。平成20年度において技術職員（写真技士）を京都国立博物館で1名、また労務職員（衛士）を奈良国立博物館で1名採用した。 ・平成20年度においては、さらに上記規定の適用を広げ、平成21年度において新たに施設の維持管理を行う技術職員（電気）を東京国立博物館で1名、技術職員（写真技士）1名及び技術職員（建築）1名を奈良国立博物館で独自選考により採用をした。（計3名）また、平成22年4月にも技術職員（写真技士）を奈良文化財研究所で1名採用予定である。 ・平成20年度において、常勤の研究職員に準じた有期雇用職員の人事制度を新たに整備したところである。これは、専門的事項の調査研究を行う研究職と高度な専門知識と経験等を有する専門職を対象として採用可能とするものである。その結果、平成21年度に東京国立博物館で11名、京都国立博物館で1名、奈良国立博物館で2名、東京文化財研究所で5名及び奈良文化財研究所で3名を採用した。（計22名） 	A	順調

2 施設・設備に関する計画

施設・設備に関する計画

(単位：百万円)

施設・整備の内容	予定額	財 源
京都国立博物館 平常展示館建替工事 (19年度～24年度)	3,527	施設整備費補助金
奈良文化財研究所 平城宮跡資料館公開展示部門 機能充実整備等工事	147	施設整備費補助金

